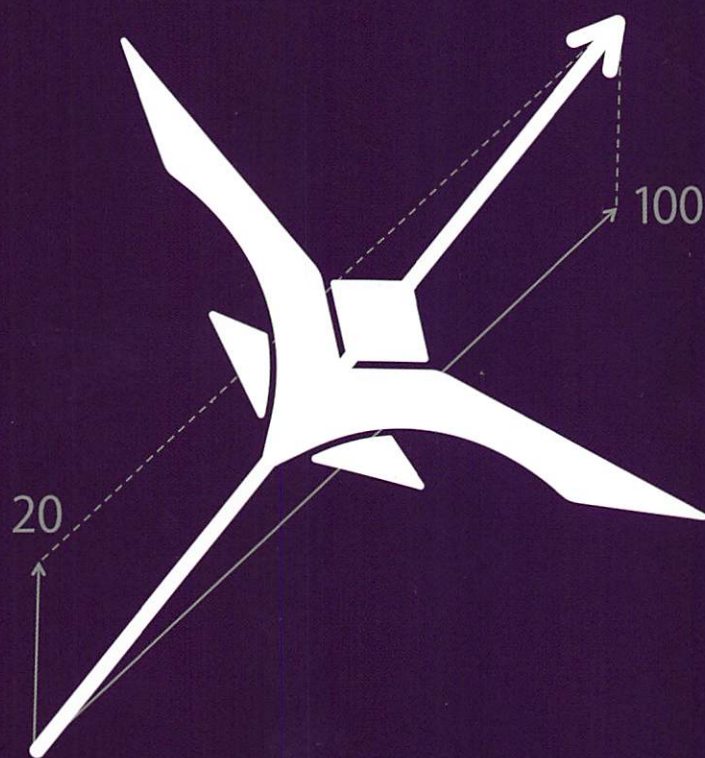
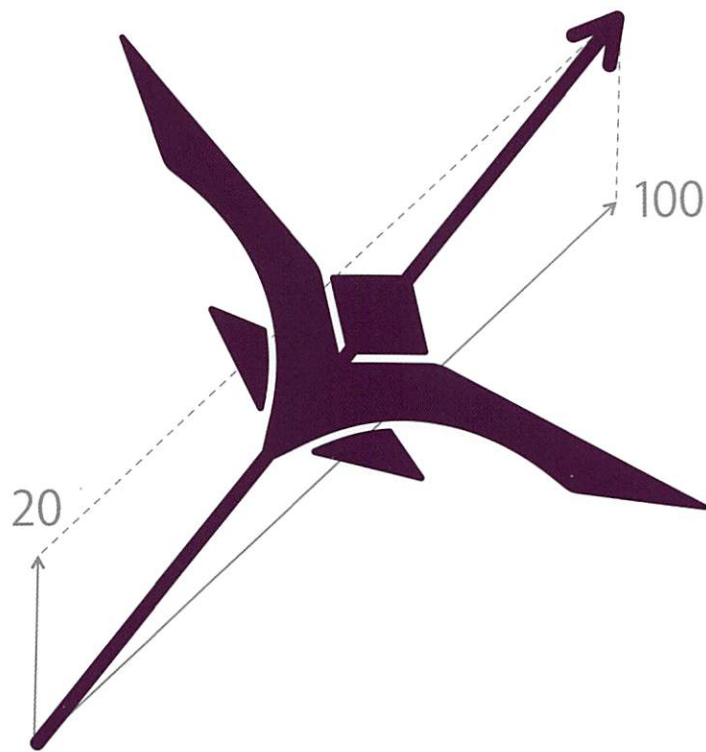


創立記念誌



1世紀の重み×20年の弾み
川越高校120周年

創立記念誌



1世紀の重み×20年の弾み
川越高校120周年

創立記念誌

目次

校歌・応援歌	4
巻頭言	6
沿革略史	13
学校行事	23
全日制（1999～2019）	23
定時制（1999～2010）	38
川越高校SSH	42
Go Global! 高い志、世界へ向けて	48
くすのき祭の歩み	50
同窓会沿革略史（1999～2019）	52
地区初雁会	62
クラブOB会	84
PT会・後援会	103
資料	116

1世紀の重み×20年の弾み
川越高校120周年

埼玉県立川越高等学校校歌

Moderato

古谷喜十郎 作詞
内田隼太郎 作曲

むらさきにおうむさしののて
 していのじょうしこまやかーにせ
 んよもふかーきかわごえーにおし
 っしのゆーぎまたあつーくかー
 えのにわのーきぼひろくいしずえすえしーまな
 びにはしらずじつにつきちをたがやしてーとく
 びやはちちぶのみねーのゆるぎなー
 をしくわがこうふうーはみよしのー
 くいるまのみずーのすえながーし
 のしゃとうのうめーとかおるなーり

一、紫匂う武蔵野の

天与も深き川越に

教えの庭の規模広く

礎据えし学舎は

秩父の嶺の揺るぎなく

入間の水の末長し

二、師弟の情思濃やかに

切悧の友誼亦厚く

華美にはしらず実に著き

智を耕して徳をしく

我校風は三芳野の

社頭の梅と薫るなり

三、螢に搜る鳥の跡

雪に尋ぬる文の道

大和心に西の才

雄飛の翼養いて

高き誉を初雁の

城址の月と輝かせ

第一応援歌

「奮え友よ」

山本 明(高4)
牧野 統

作詞
作曲

奮え友よ
奮い立て今
初雁の
校旗はためく
武蔵野に
鍛えし我等
栄光の伝統守り
熱血の闘魂高く
今こそ誇れ
勝利の王座
勝利の王座
川高 川高
川高 川高
おお我が川越高校

(力強くおおらかに)

ふる え とも よ ふ る いた て い ま
は つ か り の こ う き は た め く む さ し の に き た え し わ れ ら
え い こ う の で ん と う ま も り な つ け つ の と う こ ん た か く い ま こ そ ほ こ
れ し ょ う り の お う ざ し ょ う り の お う ざ か わ こ う か わ
こ う か わ こ う か わ こ う お お わ が か わ こ え こ う こ う

第二応援歌

一
血潮に燃ゆる若人の
待ち憧れし今日こそは
光輝ある歴史の
誉の名をば轟かせ

※
一挙、一挙、いざ奮え
一挙、一挙
いざふるふるふる
一挙、一挙、いざ奮え
我が応援の意気見ずや

二
熱球飛んで土を噛み
凱歌は上がる我が軍に
見よや若人の
赤き血潮の高鳴るを
※
くり返し

ち し お に も ゆ る わ こ う ど の ま ち あ こ が れ し き ゃ こ そ は
こ う き あ る れ き し の ほ ま れ の な を ば と ど ろ か せ
い き ゃ い き ゃ い ざ ふ る え い き ゃ い き ゃ い ざ ふ る ふ る ふ る
い き ゃ い き ゃ い ざ ふ る え わ が お え ん の い き み ず や

120年の伝統の上に 耕智敷徳



校長
飯田 敦

本校創立120周年に当たり、川越市長・川合善明様、同窓会会長・菊池建太様をはじめ、関係の皆様から御祝辞を賜り「120周年記念誌」が発刊できますことは、本校にとりまして、この上ない喜びであります。

顧みますと、本校は明治32年4月、埼玉県第三中学校として歴史ゆかしい川越城址に開校して以来、明治34年に校名を埼玉県立川越中学校と改称、さらに昭和23年に現在の埼玉県立川越高等学校となり、現在に至っております。

この間、我が国は世界史の発展過程の中で、近代化と両世界大戦など難局と激動の時代を経て、急速かつ複雑に変化を遂げつつ、21世紀も5分の1が過ぎようとしています。

このような時代の激動と変遷の中にあつて、本校の教育は幾多の試練と困難を克服し、文武両道・自主自立の校風を築き上げ、歴史と伝統の継承と変化への対応を果たしてきました。また、校歌に「華美にはしらず実に著き、智を耕して徳をしく」とあるように、智恵と徳を持ち合わせた、心と身体のバランスのとれた若者を育てあげ、3万6千人有余の有為な人材を世に送り、県下の伝統校として県民の期待に応え、発展してまいりました。

これらは、歴代の教職員・生徒の努力はもちろん、県教育委員会・同窓生・保護者・地域の方々ほか、関係の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

本校が130周年、140周年…を迎えるであろう、これからの時代は、ますます少子高齢化が進み、AIが人間に取って代わる、先行き不透明で変化の激しい時代となること予想されますが、本校教育の礎は、いつの時代においても秩父の嶺のごとく揺るぎなく、入間の水のごとく末永く不変です。輝く個性をもって国内外でたくましく活躍する人材育成を目指し、伝統と新たな智恵をもとに教職員、生徒、保護者が一体となって本校の発展に努力していくことを決意してご挨拶いたします。

創立120周年を祝して



埼玉県教育委員会教育長
小松 弥生

埼玉県立川越高等学校が創立120周年を迎え、ここに記念式典を挙行し併せて記念誌を発行されますことは、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

本校は、明治32年、歴史もゆかしい川越城址に埼玉県第三尋常中学校として開校されました。以来、120年の長い歴史の中で伝統を刻み、県民の期待と信頼に応え、地域のみならず本県の中等教育を代表する学校の一つとして大きな役割を果たしてこられました。

この間、3万有余人の有意な人材を輩出し、卒業生が県内はもとより国の内外の幅広い分野においてめざましい活躍をされておりますことは、誠に喜ばしい限りでございます。これもひとえに、歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様のご尽力と保護者・同窓会並びに地域の皆様のご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、国においては、「主体的・対話的で深い学び」や「社会に開かれた教育課程」などをキーワードに学習指導要領を改訂いたしました。国際化・情報化など社会が目まぐるしく変化していく中で、柔軟に対応し、新たな時代を切り拓いていく創造力豊かな人材を育成するための教育改革が進んでいます。

県教育委員会では、平成31年3月に第3期埼玉県教育振興基本計画を策定し、基本理念を「豊かな学びで 未来を拓く埼玉教育」といたしました。社会の変化を予測することが困難なこれからの時代においては、主体的に社会に関わり、多様な人々との交流を通じて、新たな価値を創造し、人生や未来を切り拓くことのできる力が求められます。このような力を有し、社会の持続的な発展を支える担い手を育てていくために、子供たちのさまざまな能力と可能性を開花させる教育に全力で取り組んでいくところです。

本校におきましては、これまで自主自立・文武両道・質実剛健の校風の中で、幅広く個性豊かな人材の育成にめざましい成果をあげてこられました。知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を育む教育により、高い志を持ち各界においてさまざまな活躍で輝かしい功績を残されてきた卒業生も数多くおられます。

生徒の皆さんには、創立120周年という意義ある節目の年を機に、本校の素晴らしい校風と伝統を受け継ぎ、より一層勉学や部活動に励むとともに、これからの未来を担う心豊かな社会人となるべくさらに精進されますよう、心から期待いたします。

結びに、本校の限らない発展を祈念いたしますとともに、関係の皆様の本校に対する変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。

県立川越高等学校 創立120周年に寄せて



川越市長
川合 善明
(高21回)

埼玉県立川越高等学校が創立120周年を迎えられますことに、心からお祝いを申し上げます。

貴校は、明治32年、川越城址に埼玉県第三中学校として開校して以来、自由な校風のもと、常に県西部の教育の中樞を担い、国の内外を問わず、各界で活躍する人材を輩出されてこられました。

貴校の卒業生には、明治・大正・昭和・平成というそれぞれの時代において、校歌にある「華美にはしらず実には著き」の言葉のとおり、着実に自己を高め、人間力を磨き上げた重みを感じます。

これは、ひとえに歴代校長先生をはじめとする教職員の皆様のご尽力、また保護者の皆様のご協力、卒業生・同窓会の皆様のご支援、生徒各自のご努力の賜物であると、その功績に対し深い敬意を表します。

貴校が、「人格の完成をめざし、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な生徒の育成」を教育目標に掲げ、文武両道、質実剛健の気風を連綿と引き継いでおられることは、地元川越市のみならず、埼玉県の誇りでもあります。

さて、川越市では、現在、東京2020オリンピック・ゴルフ大会の準備を行っており、また、2022年に控えた市政施行100周年に向けても市全体で機運が醸成されつつあります。

私は、この市政施行100周年を迎えるにあたり、先人の歩みに思いを寄せつつ、更なる発展を目指して将来の子どもたちへ引き継ぐまちづくりの契機ととらえております。

子どもたちが生きる未来は、変化が著しく、予測することが極めて困難であり、求められるリーダーシップは、貴校の掲げる教育目標や受け継いできた気風によってこそ体得できるものと思っております。

結びに、令和元年という節目に、更なる弾みをつけて生徒の皆さんが雄飛されますとともに、あわせて校長先生、教職員並びに関係者の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉とさせていただきます。

『川高生よ、くすの木のように』



川越高等学校PT会長
山崎 保明
(高35回)

埼玉県立川越高等学校創立120周年おめでとうございます。120年間、その伝統が脈々と受け継がれていることは、諸先輩方の努力の賜物であり、在校生及びその保護者である私達PT会員にとっても誇りに思えることです。

私、令和元年度の川越高等学校PT会長の山崎保明（旧姓 佐川）と申します。私自身、高校35回の卒業生であり、母校の120周年記念行事の年にPT会長として立ち会えることを非常に光栄に思っております。

私が入学した時は、80周年記念行事が終わったところであり、自分がこれから学ぶ学校の歴史の長さや伝統の重さを実感し身の引き締まる思いがしたものです。あれから更に40年もの月日が流れ、時代は、昭和・平成・令和と変遷してまいりました。その間にも数多くの川高卒業生が日本で、そして世界で活躍されていることを聞くたびに、同じ川高同窓生として誇りに感じるとともに自らの襟を正したものです。

さて、この120年間にはさまざまな歴史的な出来事があり、世界情勢・経済情勢は大きく変化し、教育を取り巻く環境はめまぐるしく変化してきましたが、その中でも川高は自主自立の精神を掲げ、多くの優れた卒業生を輩出してきました。

これは単に長き伝統だけによるものではなく、川高の正門前にそびえ立つくすの木の影響があると思っております。くすの木を毎日のように見て高校生活を送る川高生には、自然と心の中に自主自立の象徴である「くすの木」が芽生えているはずで、その木には先輩方の築いた伝統という日光が差し、先生方の教え・友人との切磋琢磨という養分を吸い上げ、校歌・応援歌という風に吹かれ大きく成長するものです。心の中の「くすの木」が立派に成長し卒業した川高生は、世の中に出た時には頼れる存在となり、リーダーシップを発揮できるはずで、卒業生が輝かしい業績を残しているのもこの結果ではないかと思っております。

私達PT会は、在校生である我が子の心の中はまだまだ小さな「くすの木」をより大きく成長するよう、温かい目で見守り続けたいと思います。いつの日か諸先輩方と肩を並べられるように。

最後に、川越高等学校のこれからの繁栄と、諸先輩方のますますのご活躍・ご健康をお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

創立120周年を迎えて



後援会会長
細田 潤
(高35回)

埼玉県立川越高等学校の創立120周年おめでとうございます。記念すべきこの年に後援会長をさせていただいていることを光栄に思います。私は平成23年からPT会の活動に関わり、平成27年・28年とPT会会長を務めさせていただきました。今年で9年目になりますが、それというのも、2人の息子が続けて川越高校にお世話になった縁によるものです。長男は伝統ある軟式庭球部、次男は音楽部と、異なる部活でしたが、それぞれ、熱意あふれる顧問に恵まれ、実りある高校生活を送っていました。部活や授業以外にも、学校行事が充実していることが川越高校の特色です。1万人以上の集客があるくすのき祭をはじめとして、芸も多彩な陸上競技大会、奥武蔵を駆け抜ける強歩大会など、私が現役の時を上回る活気ある行事になっています。そして、このような行事に真剣に取り組むことが、人間形成に役立っているものと思います。

PT会・後援会にも、視察研修旅行という伝統行事があります。これは、校長先生やP後担当の先生と共に、近県高校のPTAを訪問し、意見交換する行事です。このような高校訪問を行っている学校は全国的にも珍しいとのことですが、他校の特色ある活動を学び、最新設備に羨望の眼差しを向ける視察を行います。しかし帰りのバスの中では、「やっばり川高は素晴らしいよね」という話になり、川高の良さを再認識しています。

さて、今では希少となった公立の男子校という環境の中、伝統ある川高の文化が脈々と受け継がれています。質実剛健な校風、自ら考え自ら行動する自主自立の精神。少子高齢化や環境・エネルギー問題・国際競争力の低下など課題山積の日本において、今こそ川高同窓生の力がさまざまな分野で期待されています。

結びに、川越高校が令和という新しい時代に新たな伝統を創造し、ますます発展することを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

質実剛健の校風のもと 未来にはばたけ



同窓会会長
菊池 建太
(高17回)

同窓生の皆さん、いよいよ本年は母校が創立120周年を迎えます。昨年の同窓会総会において、創立120周年記念事業実行委員会の総務・行事・事業の3つの部会で具体的な取り組みをご承認いただきました。その後、今年の3月末までにさらに詳細を検討してまいりました。総務部は会員名簿を新たな業者を選定し、新たな形式で発行することいたしました。すでに各会員には名簿の記載情報の確認と購入についての調査が届いていることと存じますが、個人情報に十分配慮して発行に向けて取り組んでおりますので、ご協力をお願い申し上げます。行事部は、120周年ポスターを作成し、すでに校内何カ所かに掲示し2月下旬受験生にも目に触れるようにしました。また、ロゴマークは校門前とテニスコートの横断幕に、文化部の展覧会や演奏会のポスターにも使用していただくよう進めてまいりました。記念式典は2019年11月1日にウエスタ川越で実施いたします。事業部は教育支援に主眼を置いた取り組みを進めてまいりました。現在、教育格差が進行しつつあり、生徒の高い志を後押しし、経済的に恵まれない生徒にも学ぶ機会を支援したいと考えております。そして継続的支援のために、昨年、一般財団法人の認可を頂き、その後、公益財団法人川越高校同窓会奨学財団の設立を申請して、5月末認可を頂きました。今後は、多くの会員からご寄付を頂き学校の教育支援の財源を確保したいと考えております。具体的には財団による給付型奨学金の支給、グローバル人材育成事業への補助、川高サイエンス事業への補助があります。伝統ある公立高校である母校は、これまでも国や地域に多方面にわたって多くの人材を輩出してまいりました。これまでの伝統を継承し、母校が新たな飛躍を図るためにこの事業を充実したいと考えております。篤いご支援をお願い申し上げます。さらに、母校の教育活動を内外に知っていただくための副読本を発行いたしました。また、同窓会が主体になって同窓生が講師として、年間定期的に子どもたち対象の「くすのき未来塾」をスタートさせました。

現在、同窓会は20支部ありますが、各支部とも新たな会員の確保に苦勞しているところもございます。このような節目の時は会員の確保を図る良い機会と思えます。幸い、今年2月に富士見初雁会が21番目の支部として発足いたしました。

最後になりますが、今後とも、皆様方の同窓会に対しますご支援・ご協力をお願い申し上げます。挨拶いたします。

自由を重んじる校風



第73代生徒会会長
増田 樹飛

私達の通う川越高校が創立してから120年という月日が流れた。この膨大な時間の流れに私は驚きを隠せない。まだ、たかが1年ちよつとしか過ごしていない身にしてみれば120年という年月は多大で、思わず息を呑んでしまう。

ここで、改めて川越高校の自由の意味について生徒憲章をもとに考えていきたい。

そもそも生徒憲章を制定し、施行したのは昭和45年である。実に50年の歴史があるのだ。生徒憲章1〜3条の内容ももちろん重要ではあるが、ここでは前文についてふれ、自由の意味について考えていきたい。

前文には「自主的民主的な活動を通して、私達の人間性を高めることが高校生活における重要な目標の一つであると考える」とあり、そのために「自由」という言葉が使われている。ここで言われている自由とは「自主的民主的活動の自由」、「表現の自由」である。前文においては、そもそも自由というものを主張しているのではなく、人間性を高めることこそを第一の目標としているのである。そう考えてみると最近の川越高校は「自由」「自由」と、「自由」が主張される傾向にあるように見える。手段が目的になっているのだ。ここで今一度自由の意味について問いたい。私たちは自由を謳歌するために川越高校に通っているのだろうか。否、私達が川越高校に通うのは自由な活動を通して有意義な学校生活、それによる人間性を向上させるためである。

生徒憲章自体は50年の歴史しかないが、それには川越高校120年の意思が詰まっていると思う。私達は過去の先輩方が残してくれた意思を生徒憲章を通して感じることができると。この意思こそが120年続く、川越高校の自由を重んじる校風なのだ。この自由の意味をはき違えずにこれからの学校生活を送ってもらいたい。

最後に、川越高校のこれからの躍進とさらなる発展をお祈りして祝辞とさせていただきます。

※見出しの「・・・年」は原則として年度（4月～翌年3月）を、「・・・回」はその年度入学生の卒業回期を表します。

明治30（1897）年

埼玉県会に於いて入間郡川越町に中学校設置の議可決

明治31（1898）年

埼玉県第三尋常中学校設立認可、直ちに川越城址の一部を拓き校舎の建築工事開始

明治32（1899）年 中1・2回

校名を埼玉県第三中学校と改称、増野悦興氏初代校長となる



初代校長・増野悦興

4月28日入学式挙行（2年生39人、1年生80人、教職員11人）
4月29日校舎新築落成



校舎新築落成

明治33（1900）年 中3回

校友会発足（会長は校長、委員長は生徒から選出）
寄宿舎開設

明治34（1901）年 中4回

校名を埼玉県立川越中学校と改称
校友会「会報」第1号を発行（昭和16〔1941〕年、第36号で終刊）

明治35（1902）年 中5回

安部立郎（5年）等「青年文庫」を設立（市内養寿院境内）

明治36（1903）年 中6回

第一回卒業証書授与式挙行（卒業生29人）
安部立郎氏（中1回卒）「学生同志会」を結成

明治37（1904）年 中7回（日露戦争始まる〔明治37年2月～38年8月〕）

明治39（1906）年 中9回

「青年文庫」を発展させて「同志会図書館」（後に町立川越図書館として発展的解散）を設立

明治40（1907）年 中10回

第一回水泳教授開催（その後「水練」「水泳部」「水泳教室」「水泳隊」等と変遷、昭和15年まで継続）

同窓会結成、会則により前原仙次郎校長を初代会長に推戴（昭和21年に会則を変更し、会長は正会員からの

選出となる）

明治42（1909）年 中12回

開校10周年記念祝賀式挙行、大運動会を開催

明治43（1910）年 中13回

校歌を制定し祝歌を作る
制帽に白線を1本入れる

明治45・大正元（1912）年 中15回

陸軍特別大演習の大本営に充てられ、校舎の大修繕と正門を改築して現在の位置に変更

大正天皇大演習統裁のため1週間本校にご滞在

大正2（1913）年 中16回

大正天皇ご宿泊の教室を「御座所」として整備保存

大正3（1914）年 中17回（第一次世界大戦始まる〔1914～1918年〕）

大正4（1915）年 中18回

校旗を制定（大正天皇即位の御大典記念として作成）

大正5（1916）年 中19回

剣道部 東京高師主催全国中等学校剣道大会で準優勝

大正6（1917）年 中20回

本校生徒3人 武甲山で遭難死（夏休みの鉱物採取の実地調査中）

大正8（1919）年 中22回

本校第一回卒業生岡田恒輔氏第7代校長となる

大正9（1920）年 中23回

明治文庫（本校図書館の前身）を創設

大正11（1922）年 中25回

（川越市制施行）

剣道部 桐生高工（旧制）主催第1

回関東中等学校剣道大会で優勝

大正12（1923）年 中26回

（関東大震災）

大震災による本校校舎の被害は僅少

で、教職員と生徒有志大宮駅で避難

者に奉仕活動

剣道部 埼玉学生誘掖会主催武道大

会で本年より6連覇達成

大正13（1924）年 中27回

開校25周年記念祝賀式を挙行し、園

遊会・卒業生による講演会・大運動

会等を開催



記念品・波沢栄一揮毫扇子

剣道部 桐生高工（旧制）主催第3

回関東中等学校剣道大会で優勝

同窓会 会員名簿を刊行

大正14（1925）年 中28回

（治安維持法制定、普通選挙制度開始）

陸軍現役将校が配属され（陸軍現役
将校学校配属令）、学校の軍事教練
が強化される

剣道部 桐生高工主催第4回関東中

等学校剣道大会で優勝

北村博学氏（中23回卒）明治神宮競

技会全国武道大会剣道青年組で優勝

大正15・昭和元（1926）年 中29回

剣道部 浦和高校（旧制）主催県下

中等学校剣道大会で本年から4連覇

野球部 浦和高校（旧制）主催県下

中等学校野球大会で本年から2連覇

昭和2（1927）年 中30回

競技部 法友俱樂部主催関東陸上競

技大会で木下正平選手800m優勝

同窓会 会員名簿刊行

昭和4（1929）年 中32回

競技部 法友俱樂部主催関東陸上競

技大会で鈴木聞多選手100m及び

200mに優勝

水戸高校（旧制）主催近県中等学校

陸上大会で鈴木聞多選手100m、

山下隆三選手800m、横山武造選

手槍投げにそれぞれ優勝

弁論部 東京高師主催全国中学校

大会で新井政雄君入賞

浦和高校（旧制）主催関東中等学校

雄弁大会で新井三郎君第2位となる

昭和5（1930）年 中33回

同窓会 会員名簿刊行

講堂新築落成（昭和44年、新体育館
建設のため取り壊される）

競技部 鈴木聞多選手 全国中等学
校陸上競技選手権大会で100m及
び200mに優勝

野球部 県大会で本年より5年連続

優勝を達成

弁論部 東洋大学主催第1回懸賞論

文大会で矢部正司君優勝

昭和6（1931）年 中34回

野球部 中等学校全国選抜野球大会

第8回大会（甲子園）に出場（埼玉

県で初出場）、野本定主将選手宣誓

を行う

同窓会 会員名簿（第3号）刊行

昭和7（1932）年 中35回

交通諸機関の発達に伴い、寄宿舎制

度廃止（1900年開設）

正門を改築（3代目の正門、化粧石

板張りコンクリート造り）

昭和8（1933）年 中36回

学芸冊子「栄丘」創刊（昭和16年廃刊）

同窓会 会員名簿（第4号）刊行

昭和9（1934）年 中37回

開校35周年記念式典を挙行し、園遊

会・展覧会・講演会等を開催

ラッパによる時報を廃止し、電気サ

イレン設置

同窓会 大本宮聖蹟記念碑を建立

会員名簿（第7号）刊行

昭和10（1935）年 中38回

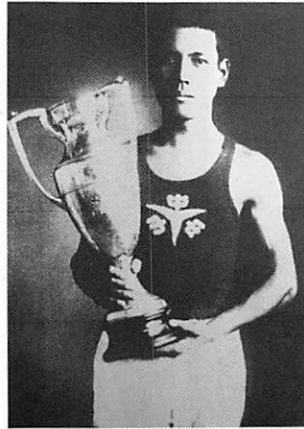
校舎内では上靴使用となる（通学靴・
上靴・下靴を区別）

軍事教練が強化されて、5年生の宿

営訓練（後の廠営訓練）が始まる
同窓会有志 飯田亮先生頌徳碑を建立

昭和11（1936）年 中39回
（二・二六事件発生）

「予餞会」の開催始まる
同窓会 会員名簿（第8号）刊行
鈴木聞多氏（中29回卒）ベルリンオリンピック大会に出場し活躍



鈴木聞多氏

昭和12（1937）年 中40回

（日中戦争始まる…盧溝橋事件）
国民精神総動員運動の波が学校教育にも波及

第1回全校1万mマラソン競争開催
同窓会 会員名簿（第9号）刊行

昭和13（1938）年 中41回

夏休みの勤労奉仕始まる（国家総動員法公布）

県下中等学校グライダー連盟が発会し本校も参加

昭和14（1939）年 中42回

勤労奉仕が本格化（夏休み以外にも拡大）

御座所隣に忠霊室を設置（戦死した

卒業生を祀る）

同窓会 会員名簿（第10号）刊行

昭和15（1940）年 中43回

入学選抜試験から学科試験を廃止（小学校の内申書・体力テスト・口頭試験が選抜基準となる）

昭和16（1941）年 中44回

（太平洋戦争始まる…12月8日真珠湾攻撃）

新入生より、黒（夏期は霜降り）の制服から国防色の制服に、黒い学帽から国防色の戦闘帽に、白い編み上げ脚絆から国防色の巻き脚絆（ゲートル）に変わる

「学友会」を解消し「報国団」を結成（学校報国団体確立についての文部省訓令）

奉安殿を設置

昭和17（1942）年 中45・46回

父兄会発足し、岩沢新平氏（中1回卒）会長に就任

「学友会報」を廃刊し（明治34年創刊から第36号まで刊行）、「報国団誌」を創刊（刊行は創刊号のみで終わる）
学校と父兄間の連絡機関誌「初雁」創刊（刊行は創刊号のみで終わる）
グライダー滑空訓練が本格化

同窓会 会員名簿（第11号）刊行

昭和18（1943）年 中47・高1回

（明治神宮外苑競技場で学徒出陣の壮行会举行）

1年生戸田で海洋訓練実施（海軍の

軍事訓練で、期間は1週間）

軍関係学校への進学者が急増

昭和19（1944）年 中48・高2回

（米空軍の日本本土空襲本格化）
1年生富士裾野で廠舎訓練実施（5泊6日）

予科練等の軍関係入隊者壮行式（32人）開催

高学年から順次通年勤労動員始まる（学徒動員令発令。6月から5年生、7月から4年生、8月から3年生、翌年2月から1・2年生）

2学年同時の卒業式を举行（中等学校の修業年限短縮措置により、中4回生が4力年で繰り上げ卒業となり、43回生と同時に卒業）

昭和20（1945）年 高3回

（広島・長崎に原爆投下、戦争終結…8月15日「玉音放送」）

4月生徒不在の校地に関東第五軍部隊入る

8月勤労動員解除となり、9月から授業を再開

校友会活動復活し、役員選出・学校自治会開催・新規約作成等を実施
軍関係諸学校からの復学者対象に「補習科」開設

昭和21（1946）年 高4回

御座所、奉安殿等を撤去

同窓会 会則を改定し、会長は正会員の中からの選出となり、山崎嘉七氏（中7回卒）第13代会長に就任

昭和22 (1947) 年

(日本国憲法施行、教育基本法公布、六・三・三制実施)

埼玉県立川越中学校併設中学校設置 (高3回及び高4回生在学)

新学制への移行のため、この年から3年間生徒募集停止

川中父兄会を解散し川中PT会を設立、奥平巧氏(中1回卒)初代会長に就任

新制高等学校の校章を制定

大学進学適性検査始まる(昭和25年度に中止)

昭和23 (1948) 年 (定時制) 1・2・3回

埼玉県立川越高等学校と改称し、併設中学校を埼玉県立川越高等学校併設中学校と改称(高4回生在学)、

新校章を4月から使用開始、制帽に白線を2本入れる

学年表示を9学年、12学年(小学校からの通年表示)とする

サマータイムを導入(昭和27年に廃止)

定時制課程を設置(中心校及び朝霞・所沢・入間川の3分校)

創立50周年記念式典を挙行し、展覧会・講演会・記念マラソン大会等を開催

創立50周年記念誌刊行

同窓会 会員名簿(第12号) 刊行

昭和24 (1949) 年 (定時制) 4回

(湯川秀樹博士 日本人初のノーベル賞受賞)

週5日制授業を全県の高校で実施(昭和31年に廃止)

全日制生徒会発足、役員選挙により橋本日出松君初代会長となる

全日制後援会を設立 初代会長に水村善太郎氏(中24回卒) 就任

「生徒会会報」創刊

庭球部 芹沢良三・岡田立彦組 全国高校軟式庭球選手権大会で優勝

弁論部 長谷部光勇君 拓殖大学主催全国高校弁論大会で優勝

定時制 生徒会発足、PT・後援会発足

同窓会 会則を改定し、中学校・高等学校全日制・同定時制の三者合同の同窓会となる

昭和25 (1950) 年 高5回 以下定時制も同回期

10学年、12学年の学年表示を廃して、1学年、3学年に改める

「川越高校新聞」創刊

県民体育大会高校の部で総合優勝を達成

昭和26 (1951) 年 高6回

応援歌を制定(全校に歌詞を公募し、「奮え友よ」(第一応援歌)等3編が選出された)

戦前の全校マラソンを新入生歓迎マラソンとして復活(昭和41年で終わる)

校舎改築工事に着工し、講堂・旧寄宿舎、武徳殿(本丸御殿)等に分散して授業

陸上競技部 紫藤研一選手 全国高校東西対抗陸上競技選手権大会において走り幅跳びで優勝

生徒総合体育大会で本年から4年連続優勝

埼玉駅伝大会高校の部で本年から4年連続優勝

関東高校選手権大会で総合優勝2回

昭和27 (1952) 年 高7回

サマータイム制を廃止(昭和23年導入、4年間で幕)

新校舎、体育館の改築落成(木造モルタル仕上げ、本県立校で最後の木造モルタル校舎となる)

文化部合同展覧会に「文化祭」の名称を初めて使用

陸上競技部 全国高校駅伝大会で3位入賞

昭和28 (1953) 年 高8回

第1回クラス対抗駅伝大会開催(川越高校から武蔵嵐山駅折り返しのコース、昭和43年に終る)

陸上競技部 木村昭夫選手 全国高校陸上競技大会で5000mに優勝

同窓会「同窓会報」創刊

会員名簿(第13号) 刊行

在京初雁会設立

昭和29 (1954) 年 高9回

同窓会 生徒の成績向上賞を設定

昭和46年で終了)
昭和30 (1955)年 高10回

音楽部 N H K 全国学校音楽コンクール(合唱) 高等学校の部関東大会で2位

昭和31 (1956)年 高11回

週5日制授業を廃し、週6日制に復帰(週5日制は昭和24年に始まり、7年間で終止符)

日課表を変更(夏期・冬期の2本立て日課表を導入)

初代応援団旗を作成

齊藤 博氏(高4回卒、籠球部OB)

メルボルンオリンピック大会に出場(その後ローマ大会に、更にコーチとして東京大会にも出場)

昭和32 (1957)年 高12回

庭球部 金尾(兄)・吉田組 関東大会で優勝

北関東大会では本校4チームが準決勝戦に進出

昭和33 (1958)年 高13回

独立図書館新築落成(鉄筋コンクリートブロック2階建)

正門改築(大谷石製、4代目)

陸上競技部 黒田栄次選手 全国高校東西対校選手権大会で5000m

優勝、1500m2位

全国高校陸上競技大会で1500及び5000m2位

昭和34 (1959)年 高14回

開校60周年記念式典を挙行し、記念

植樹・芸能鑑賞・祝賀会・文化祭等を開催

秋季運動会の呼称を体育祭に変更
野球部 甲子園全国高校野球大会に西関東代表として出場

陸上競技部 黒田栄次選手 全国高校東西対校選手権大会で5000m優勝、1500m2位

全国高校陸上競技大会の1500mで2位

弁論部 中部日本高校弁論大会で原真房君優勝

同窓会 会員名簿(第14号)刊行(母校創立60周年記念号)

昭和35 (1960)年 高15回

熊谷高校との第1回交歓会開催(昭和45年に中止)

給食室(全定共同使用、通称「初雁食堂」)完成

校内球技大会を本年度から開催(当初11月に実施)

定時制 教育振興会設立

昭和36 (1961)年 高16回 (ソ連宇宙

船ヴォストーク1号地球一周の有人飛行に成功)

弁論部 山川一陽君 N H K 青年の

主張全国コンクールで優勝

昭和37 (1962)年 高17回

第3学年に文・理コース始まる
理科棟新校舎完成(鉄筋コンクリート3階建、本校最初の鉄筋コンクリート校舎)



1961年の修学旅行 京都

第1回校内水泳大会を開催(市営プール借用)
文化祭 本年から全定合同の開催となる

昭和38 (1963)年 高18回

新1年生539人入学(第一次ベビーブームで本校史上最多の入学となり、1年生10クラス・2年生8クラス・3年生6クラスとなる)

昭和39 (1964)年 高19回

(東京オリンピック大会開催、東海道新幹線開業)

職員研究発表年刊機関誌「紀要」創刊

学校父兄連絡機関紙「川高通信」創刊

新入生歓迎会本年から開催される

音楽部 N H K 全国学校音楽コンクール(合唱) 高等学校の部で第1位となる

昭和40 (1965) 年 高20回

理科棟増築工事完成 (3階建から4階建に)

音楽部 NHK音楽コンクール (合唱) 高等学校の部全国大会で第2位となる

定時制野球部 全国高校定時制軟式野球大会 (神宮球場) に出場し、準々決勝まで進出

昭和41 (1966) 年 高21回

大正期以来本校悲願の水泳プール完成 (日本水泳連盟公認50mプール) 新部室棟 (鉄筋ブロック2階建) 完成

第16回新入生歓迎マラソン大会、今回が最後となる (昭和26年より実施) 定時制 朝霞・所沢分校の生徒募集停止となる

音楽部 NHK合唱コンクール全国大会に本年より3年連続出場

昭和42 (1967) 年 高22回

校庭照明施設完成

定時制 入間川分校の生徒募集停止となる

朝霞分校は朝霞高校に、所沢分校は所沢高校に委託となる

昭和43 (1968) 年 高23回

(全国50余の大学で学園紛争起こる) クラス対抗駅伝大会 今年から中止となる (昭和28年から実施、昭和39年に一時中止)

音楽部 NHK合唱コンクール関東

甲信越大会最優秀賞

弁論部 初雁杯争奪全国高等学校弁論大会を主催して開催 (これまでの初雁杯争奪全関東大会を発展させて開催)

昭和44 (1969) 年 高24回

同窓会 会員名簿 (第15号) 刊行 (学園紛争高校にも拡大、アポロ11号月面着陸成功)

本年の新入生が本校最後の制服・制帽での入学となる

新体育館建設工事着工のため旧講堂解体

クラス対抗駅伝に替わり全校競歩大会を開催 (12月)

第10回対熊高交歓会 (今回が最後となる)

恒例の文化祭を「くすのき祭」と改称

「生徒心得」を廃止し、「生徒憲章・生徒規約」成立

昭和45 (1970) 年 高25回

定時制 入間川分校廃止となる

創立70周年記念行事業 (記念式典等の行事は中止)

創立70周年記念誌刊行

新体育館兼講堂竣工 (鉄筋コンクリート2階建て構造)

正門改修 (5代目) と弓道場新設 将棋部 第6回全国高等学校将棋選手権大会で佐野真一君第2位となる 同窓会 母校創立70周年記念式典と

記念事業完成祝賀会を開催

昭和46 (1971) 年 高26回

本年から競歩大会を5月 (6月) に実施 (コースは高坂の高済寺から本校間の17km)

総合体育大会として校内球技大会と陸上競技大会を2日間で行うことになる (10月)

将棋部 第7回全国高等学校将棋選手権大会関東地区大会で団体優勝

吹奏楽部 高等学校吹奏楽コンクール関東大会に本年より連続7回出場

昭和47 (1972) 年 高27回

将棋部 第8回全国高等学校将棋選手権大会関東地区大会で団体準優勝、鈴木 賢君が個人優勝

昭和48 (1973) 年 高28回

校舎改築事業第1期工事 鉄筋5階建本館一部竣工 (通称「超新館」) P.T会広報紙「かわたか」創刊

将棋部 第9回全国高等学校将棋選手権大会団体戦で準優勝

昭和49 (1974) 年 高29回

生徒長年の念願であった生徒ホールが完成

昭和50 (1975) 年 高30回

バレー部 第7回全国高校バレーボール選抜優勝大会に西関東地区代表として出場

昭和51 (1976) 年 高31回

吹奏楽部 高等学校吹奏楽コンクール関東大会で金賞受賞

全日本ジュニアゴルフ選手権で金谷多一郎君優勝

昭和52 (1977)年 高32回

全日本ジュニアゴルフ選手権で金谷多一郎君優勝

昭和53 (1978)年 高33回

国公立大学入試共通一次試験始まる
校舎改築事業第3期工事 鉄筋5階
(一部3階) 建本館(「管理棟」)完成

学校図書館増改築竣工(創立80周年記念事業、増築部分1階に同窓会室を設置)

同窓会 会員名簿(第16号)刊行(創立80周年記念事業)

飯能初雁会設立

日高初雁会設立

打木村治氏(中20回卒) 長編小説

「大地の園」(全4巻) 刊行(大正期の川越中学校生徒の生活を描いている)

昭和54 (1979)年 高34回

校舎改築事業第4期工事 鉄筋3階
建特別教室棟、下足棟及び通路完成
(昭和47年の第一期工事から足かけ8年を要して、校舎の全面的改築工事完成)

創立80周年記念式典を挙行し、記念祝賀会・記念講演会を開催

創立80周年記念誌刊行

昭和55 (1980)年 高35回

授業料口座振替制度導入

強歩大会(第11回)で生徒(8人)が倒れる事故発生

吹奏楽部 全日本アンサンブルコン

テストの全国大会に出場し、銅賞を受賞

昭和56 (1981)年 高36回

本年度より総合体育大会を校内球技大会(6月)と陸上競技大会(10月)に分離して実施

本年度より競歩大会の実施時期とコースの一部を変更(時期を11月、コースは上戸運動公園から学校間の12km)

スキー教室始まる(菅平)

同窓会 小川初雁会設立

同窓会 入間初雁会設立

昭和57 (1982)年 高37回

新部室棟竣工(鉄筋2階建瓦葺)

昭和58 (1983)年 高38回

本年度の強歩大会(第14回)から奥武蔵グリーンラインを使用したコースに定着(3コースを設定し順番に使用、いずれも30km)

昭和59 (1984)年 高39回

定時制 定通制陸上全国大会で阿部一元選手 砲丸投げ2位入賞

小林斗倉(庸浩)氏(中31回卒) 恩

賜賞日本芸術院賞受賞

昭和60 (1985)年 高40回

音楽部 全日本合唱コンクール(朝日コンクール)全国大会に関東支部代表として出場

庭球部 全日本高等学校団体選抜軟式庭球大会に関東地区代表として出場

昭和61 (1986)年 高41回

新食堂を通称「谷間の新館」の中に設置(平成11年2月まで営業)

くすのき祭に水泳部のシンクロ初登場

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞

昭和62 (1987)年 高42回

本年度から高校入学試験に面接を導入

新1年生から11学級(47人×11学級)となる(第2次ベビーブームで本校史上最多学級となる)

定時制も新1年生最多の135人を記録

旧食堂跡にプレハブ2教室増設(臨時学級増対策)

音楽部 NHK全国学校音楽コンクール(合唱)全国大会で銀賞

昭和63 (1988)年 高43回

海外留学の制度化実施
理科校外学習で国立科学博物館見学始まる(1年生)

音楽部 NHK全国学校音楽コンクール(合唱) 関東・甲信越大会で銀賞

定時制 全国定通制生徒生活体験発表大会で、辻本由起江さんが文部大臣賞受賞

平成元 (1989) 年 高44回

共通1次試験に替わり、大学入試センター試験が始まる

新聞部 全国高校新聞コンクールで最優秀賞

同窓会 会員名簿(第17号)刊行(創立90周年記念事業)

野球部OB会 「川越高校野球部70年誌」を刊行

加藤進氏(中44回卒) 日本学士院賞を受賞

平成2 (1990) 年 高45回

地学部探検隊 青木ヶ原樹海で「神座川越風穴」発見

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で金賞

同窓会 近畿初雁会設立

平成3 (1991) 年 高46回

本校から県内各校にAET(英語指導助手)配置

古典ギター部 全日本高校ギターコンクールで金賞

吹奏楽部 「創部30周年記念誌」刊行

平成4 (1992) 年 高47回

第2学期より第2土曜日休業日となる

対松山高校定期戦始まる(3年で中止)

陸上競技大会 本年より校外の専用陸上競技場で開催(当初上尾陸上競技場、後に川越運動公園陸上競技場)

同窓会 坂戸初雁会設立

中47・高1回卒業生 入学50周年記念誌「遠い飛行機雲」を刊行

平成5 (1993) 年 高48回

本年度より全ての県立高校で推薦入学制度を実施

芸術鑑賞会に歌舞伎鑑賞会(於国立劇場)が加わる(音楽、演劇、伝統芸能の鑑賞を3年間で行う)

定時制 修業年限3年課程を設置

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞受賞

古典ギター部 全日本学生ギターコンクールで最優秀賞

同窓会 志木初雁会設立

平成6 (1994) 年 高49回

家庭科が男子にも必修科目となる(家庭科導入は全日制開校以来初めて)

学力検査結果の開示が始まる

古典ギター部 全日本学生ギターコンクールで最優秀賞

同窓会 和光初雁会設立

高3回卒業生 還暦記念文集「おい楠よ」を刊行

奥泉 光氏(高26回卒) 第110回芥川賞受賞「石の来歴」

平成7 (1995) 年 高50回

本年度より第2土曜に加えて第4土曜日も休業日となる

創立100周年記念事業実行委員会発足、委員長に渋谷健同窓会会長就任

平成8 (1996) 年 高51回

本年度の新1年生(高51回生)から本来の10クラス制に戻り、定員400人に削減

校内水泳大会 5年ぶりに復活される

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞受賞

古典ギター部 全日本学生ギターコンクールで最優秀賞

同窓会 毛呂山初雁会設立

高5回卒業生 還暦記念誌「それぞれの旅」刊行

平成9 (1997) 年 高52回

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞

古典ギター部 全日本学生ギターコンクールで金賞受賞

同窓会 会則を改定し、終身会費納入制を導入

同窓会 鶴ヶ島初雁会及び川島・桶川初雁会設立

音楽部 全日本合唱コンクール全国大会で銀賞

古典ギター部 全日本学生ギターコン



ンクールで最優秀賞
同窓会 東松山初雁会設立

平成10 (1998) 年 高53回

日課の冬時間を廃止(昭和30年以
来の夏冬2本立て日課表を廃止)

音楽部 全日本合唱コンクール全国
大会で金賞

古典ギター部 全日本学生ギターコ
ンクールで金賞

放送部 NHK杯全国放送コンテス
トテレビ制作部門の全国大会準決勝

戦進出

同窓会 朝霞、新座、嵐山で各初雁
会設立

高3回卒業生 還暦記念文集「おー
い楠よ」の増補別冊を刊行

平成11 (1999) 年 高54回

創立100周年記念事業

記念式典及び姉妹校(オーストラリ
アのセント・オーガスティン高)提

携調印式を挙行し、祝賀会を開催
国際交流の推進とそのための基金の

設立

100周年記念誌「くすの木」を刊
行(川中・川高100年の歩みの全

体像を綴る)

川越高校新聞の縮刷版を刊行(昭和
25年の創刊号より平成10年の第225

号を収録)

100周年記念図書館の建設(鉄筋
コンクリート2階建、書庫・閲覧室

の他にセミナールーム兼会議室(同

窓会室)・マルチメディアコーナー・
資料室兼小会議室・同窓会及び高文
連の各事務局室等)



川越城遺跡調査

記念碑(校歌碑)「未来の手」建立(関
根伸夫氏(高13回)設計)

記念音楽会、記念美術・書道展、記
念講演会、記念俳句大会、運動部交

流試合等を開催

新体育館の建設(SRC造4階建(地
下1階)、アリーナ・各格技室・食堂・

合宿所・トレーニングルーム・県防
災拠点施設として防災用の備蓄倉庫

等)、弓道場を改築

正門を改築(7代目 関根伸夫氏設
計)、通用門の改修

同窓会記念事業

母校創立100周年記念式典を挙
行し、祝賀会を開催

会員名簿(第18号)を刊行

100周年記念親善ゴルフ大会を開
催

音楽部 全日本合唱コンクール全国

大会で金賞受賞

新聞部 全国高校新聞コンクールで
金賞受賞

同窓会 所沢初雁会設立

平成12 (2000) 年 高55回

第2グラウンド開設

音楽部 第1回世界合唱オリンピッ
ク(於リッツ、オーストリア)で銀

賞(金賞該当なし)

弓道部 国体で準優勝(川越総合高
校との混成チーム)

古典ギター部 全日本学生ギターコ
ンクールで最優秀賞受賞

同窓会 本年度から新入生に校歌C
Dを配布

音楽部OB会「音楽部50年の歩み
光よ 音の流れよ」を刊行

飯能初雁ゲートル会「遙かなる日々」
を刊行

平成13 (2001) 年 高56回

古典ギター部 全日本学生ギターコ
ンクールで銀賞受賞

新聞部 全国新聞コンクールで優秀
賞

弓道部 第1回東日本高校弓道大会
男子5人制の部で優勝

平成14 (2002) 年 高57回

本年度から完全週休5日制実施(平
成20年隔週土曜授業実施となる)

1時限70分で1日5時限の授業形態
を導入(平成20年50分授業に戻る)

古典ギター部 全日本学生ギターコ

化勲章受章



小林斗盞氏

SSH 科学教育振興展覧会中央展
で2年生3人優秀賞
平成20(2008)年 高63回

本年度から土曜日に隔週で授業を実施、また1時限の授業時間を50分とする

SSH(物理部) 原田了君 物理
チャレンジ2008第2チャレンジ
(全国大会)で金賞受賞

SSH(地学部) 富永紘平君 第
3回国際地学オリンピック国内2次
予選で最優秀賞を受賞し、第3回国
際地学オリンピック2009大会
(於台湾)の日本代表に決定

古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで銀賞受賞

定時制 本年度より生徒募集停止
平成21(2009)年 高64回

同窓会 会則を改訂、主な点は以下の3点

本年度より常駐事務局を設置
平成22年度より同窓会報を全会員
(住所未確認者を除く)に発送

平成23年度卒業生より入会金と終身
会費を卒業時に一括納入(会員名簿
第19号)11月刊行予定(母校創立
110周年記念事業)

越生初雁会設立

山岳部OB会 山岳部創立100周
年記念誌「青春の彷徨」を刊行

ンクールで最優秀賞受賞

音楽部 全日本合唱コンクール全国
大会で銀賞受賞

新聞部 全国新聞コンクールで優秀
賞受賞

物理部 理科教育研究発表会で優秀
賞受賞

将棋部 関東高校将棋王将戦で寺師
真樹君優勝

同窓会 第1回4校(浦和・熊谷・
川越・春日部)OBゴルフ大会開催

平成15(2003)年 高58回

普通・特別教室棟竣工(通称「新理
科棟」、蔵の街に相応しく蔵造り風
屋根の4階建)

古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで金賞受賞

平成16(2004)年 高59回

高校入試全県一区制となる
文部科学省のサイエンス・パート
ナーシップ・プログラム(SPP)

の指定を受ける(16・17年度)
古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで金賞受賞

弓道部 全国高校選抜弓道大会準優
勝

新聞部 第49回学校新聞コンクール
で最優秀賞受賞

同窓会 狭山初雁会設立

高校5回卒業生 還暦記念誌に続き、
古希記念誌「続それぞれの旅」刊行

小林斗盞(庸浩)氏(中31回卒)文

平成17(2005)年 高60回

くすのき講座開始(2年で終了)
古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで銀賞受賞

平成18(2006)年 高61回

文部科学省よりスーパー・サイエ
ンス・ハイスクール研究指定校(SS
H)の指定を受ける(平成22年度ま
で5年間)

古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで最優秀賞受賞

放送部 高校放送コンクール2部門
で最優秀賞

弓道部 東日本高校弓道大会で団体
優勝

平成19(2007)年 高62回

教室の空調設備工事実施(管理棟、
理科棟等)

古典ギター部 全日本学生ギター
ンクールで銀賞受賞

SSH(物理部) 物理チャレンジ
(物理コンテスト)全国大会で3年
生2人銅賞、1年生1人優良賞を受
賞

学校行事

学 校 行 事

(敬称略)

全

目

制

平成11年度

校長 橋本恭明

教頭 松本晴信 深澤一博

主なできごと

- 4月8日 第52回入学式 入学許可405人
- 4月27日 体育館渡り廊下新築工事竣工、弓道場新築工事竣工
- 5月1日 創立100周年記念講演会(齊藤博(パスケット))
- 5月11日 遠足
- 5月15日 P 後総会・保護者会
- 5月29日 生徒総会・生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月4～6日 柔道部 第47回関東高校柔道大会 出場
- 6月5日 校歌碑「未来の手」除幕式(高13回 関根 根伸夫・吉沢義和)

関根氏・吉沢氏・校歌碑

- 6月5・6日 軟式庭球部 関東大会出場(須藤・叶組、坂本・高橋組)
- 6月10・11日 球技大会
- 7月14日 芸術鑑賞教室 歌舞伎 学校説明会

- 8月2日 軟式庭球部 インターハイ出場(叶・須藤組)
- 8月18～20日 佐藤翔(3G) 全国高校囲碁選手権大会(東京・市ヶ谷) 出場
- 9月10～12日 第52回くすのき祭 直通バス運行開始 門・トリニティ教会堂(米・ポストン) 入場者数1万1千2人
- 9月15日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール1999 金賞
- 9月18日 創立100周年記念演奏会 市民会館 大ホール 音楽部・吹奏楽部・古典ギター部・弦楽合奏部Pf. 椎野伸一 Vn. 古澤巖
- 9月26日 創立100周年記念サッカー大会(川越運動公園陸上競技場 vs. 浦和高校)
- 9月29日 陸上競技大会(川越運動公園陸上競技場)
- 10月5～11日 創立100周年記念美術・書道展(川越ペペアトラスホール)
- 10月14日 創立100周年記念講演会(中47松山 幸夫)
- 10月16・17日 陸上競技部 近江屋篤史 第30回ジュニアオリンピック陸上競技大会15000m 5位
- 10月23日 創立100周年記念式典挙行 豪セイント・オーガスタインズ・カレッジと姉妹校提携調印式

姉妹校提携

10月25日 弓道部 島田進一郎 国民体育大会(熊本) 遠的競技 5位

10月25日 創立100周年記念親善ゴルフ大会(霞ヶ関カンツリー倶楽部)

10月30日 音楽部 第52回全日本合唱コンクール 金賞・岡山県教育長賞(岡山シンフォニーホール) 4年連続全国大会出場

10月30日 創立100周年記念俳句大会(セミンナー室) 生徒10人入賞 講演『漱石の時代』 奥泉光(高26)

11月4～8日 修学旅行(萩・京都)

11月13日 創立100周年記念野球大会(県営大宮公園球場 vs. 春日部高校)

11月7日 強歩大会(吾野・越生・五大尊) 夏の土砂崩れの関係で、17kmに短縮

12月17日 新聞部 第4回全国高校新聞年間紙面審査会 入選

12月25～28日 スキー教室(万座温泉スキー場 参加63人)

2000年1月11日 新聞部 第29回全国高校新聞コンクール 優秀賞

3月7日 予餞会

3月8日 第52回卒業式 卒業生412人

平成12年度

校長 橋本恭明

教頭 深澤一博

主なできごと

- 4月10日 第53回入学式 入学許可364人

23

- 5月10日 遠足
- 5月19日 P後総会・保護者会
- 6月2～4日 弓道部 第44回関東高等学校弓道大会(山梨・甲府)ベスト16
生徒総会
- 6月5日 生徒会立合演説会・本部役員選挙 2年連続で1年生が会長に
- 6月6～7日 球技大会
- 6月16～18日 陸上競技部 北関東高等学校陸上競技選手権大会 出場 1500m 近江屋 篤史/5000m 牧田英士
- 7月8～14日 音楽部 世界合唱オリンピック 銀賞受賞(金賞該当なし 塙・リンツ)
- 7月14日 芸術鑑賞教室(The Wind of God)
- 7月19日 第2グラウンド開設式挙行
- 7月20日 音楽部 創立50周年記念コンサート (川越市市民会館)
- 7月21～29日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジへの第1回派遣(15人参加 引率・橋本校長・根岸・滝澤民夫)
学校説明会
- 7月21～23日 放送部 全国高等学校総合文化祭 ビデオメッセイジ部門 出場 製作 佐竹伸男・田中統一
- 8月4日 弓道部 インターハイ(岐阜)個人6位 (清水)
- 9月8～9日 第53回くすのき祭 門・ブリハディースユヴァラ寺院(印・タンジャプール) 入場者数1万5千383人
- 9月15日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール2000最優秀賞
- 9月24日 音楽部 全日本合唱コンクール関東大会 銀賞
- 10月5日 陸上競技大会(川越運動公園陸上競技

場)



陸上競技大会

- 10月16日 弓道部 国民体育大会(富山)遠的3位・近的2位・総合準優勝(柏又)
- 10月28～30日 陸上競技部 第4回関東高等学校選抜陸上競技選手権大会 5000m 1位 高岡/5000m競歩 4位 保坂・6位 酒巻
- 11月5～8日 修学旅行(長崎・佐賀・熊本・福岡) 初めての飛行機による修学旅行
- 11月16日 強歩大会(芦ヶ久保・吾野) スキー教室
- 2001年1月21日 吹奏楽部 第6回西関東アンサンブルコンテスト 打楽器四重奏 銀賞
- 3月7日 予餞会(講演 三遊亭好楽)
- 3月8日 第53回卒業式 卒業生403人
- 3月13日 新聞部 第30回全国高校新聞コンクール 優秀賞
- 保健講話
- 3月23～25日 弓道部 全国高等学校選抜大会(福岡市ベスト16(名須川・飯田・小林))

平成13年度

校長 橋本恭明
 教頭 深澤一博

主なできごと

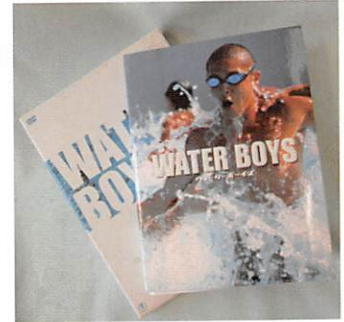
- 4月9日 第54回入学式 入学許可365人
- 5月8日 遠足
- 5月18日 P後総会・保護者会
生徒総会
- 5月31日 生徒会本部役員選挙
- 6月6日 芸術鑑賞教室(シユトウツトガルト室内管弦楽団 所沢市民文化センターMUSE)
- 6月7～8日 球技大会
- 6月29日 復活第6回水泳大会
ALT
- 7月24～26日 放送部 第48回NHK杯全国高校放送コンテスト テレビドキュメント部門 製作奨励賞「倒せ川高教員」 田口・佐竹
- 8月1～3日 弓道部 インターハイ(熊本)個人(飯田)出場
- 8月1～6日 陸上競技部 インターハイ(熊本)1500m(近江屋)・5000m(高岡)出場
- 8月3日 新聞部 第5回全国高校新聞年間紙面審査会 優良賞(5位)
学校説明会
- 9月8～9日 第54回くすのき祭 門・ランス大聖堂 入場者数1万6千960人
- 9月15日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール2001 銀賞
- 9月15日 映画「ウォーターボーイズ」公開

全

日

制

- 9月22日～10月2日 姉妹校セント・オージェス
ティンズ・カレッジからの第1回訪問受け入
れ
- 9月23日 音楽部 全日本合唱コンクール関東大
会 金賞
- 9月27日 陸上競技大会(川越運動公園陸上競技
場)留学生も参加
学校説明会
- 11月5～8日 修学旅行(長崎・佐賀・熊本・福岡)
- 11月22日 強歩大会(吾野～横瀬)
- 11月24日 陸上競技部 関東高校駅伝競走大会
(茨城)13位
- 12月14日 文化講演会(森下和哉 高36回・NHK
アナウンサー)
- 12月22～24日 弓道部 第1回東日本高等学校弓
道大会(仙台)男子団体(5人制)優勝
スキー教室
- 2002年3月7日 予餞会 講演 サッカー元
日本代表 武田修宏 体育館アリーナで有志
バンド演奏の際、興奮した生徒130人がス
テージ前で一斉に飛び跳ねたため、床が湾曲
する
- 3月8日 第54回卒業式 卒業生399人
- 3月11日 新聞部 第31回全国高校新聞コンク
ール 優秀賞



ウォーターボーイズ

平成14年度

校長 菊池建太

教頭 矢部秀一

主なできごと

- 4月8日 第55回入学式 入学許可364人
- 5月8日 遠足
- 5月10日 生徒総会
- 5月27日 P後総会・保護者会
- 5月30日 生徒会本部役員選挙
- 5月31・6月1日 軟式庭球部 関東大会(山梨
甲府) 団体・個人(島田・堀川組)出場
- 5月31～6月2日 弓道部 関東大会(千葉) 団
体3位入賞
- 6月4・5日 球技大会
- 6月16日 陸上競技部 関東高校陸上競技選手権
大会(茨城) 5000m競歩5位(保坂)
- 6月27日 水泳大会(1年)
- 7月11日 芸術鑑賞会
- 7月24日 学校説明会
- 7月20～30日 姉妹校セント・オージェスティ
ンズ・カレッジへの第2回派遣(15人参加引
率・菊池建太・滝澤氏夫)
- 8月1～3日 弓道部 インターハイ(水戸) 男
子個人 準決勝進出 山下
- 8月18日 弓道部 国体関東ブロック大会(千葉)
高校男子団体 2位 狩野
- 9月7・8日 第55回くすのき祭 門・セントポー
ル大聖堂(イギリス・ロンドン) 入場者数
3万6900人 定時制・澤瀉秋子さん、三味
線を披露



55回くすのき祭

- 9月12日 共学化を議題に臨時生徒総会開かれる
- 9月15日 古典ギター部 全日本学生ギターコン
クール2002 最優秀賞
- 9月27日 陸上競技大会
- 10月8～10日 保護者会(4時間授業)
- 10月19日 保護者有志、「別学高校の存続を願う
要望書」と27万人の署名を知事に提出
- 10月26日 音楽部 第55回全日本合唱コンクール
銀賞
- 11月5～9日 修学旅行(広島～京都)
- 11月6日 博物館見学(1年)
- 11月22日 強歩大会(正丸～越生)
- 12月12日 文化講演会 フォーリン・プレスセン
ター 菅間 昭(高6回)
- 12月15日 新聞部 第7回 全国高校新聞年間紙
面審査 入賞
- 12月21～23日 弓道部 第2回東日本高等学校大
会(大宮) 男子団体(5人制)ベスト8・男子
団体(3人制)ベスト16
- 2003年1月4～6日 弓道部 西日本高等学
校選手権大会(広島) 男子団体ベスト16
- 1月10日 新聞部 第32回全国高校新聞コンク
ール 優秀賞
- 3月7日 予餞会 講演 映画監督 山本晋也
- 3月8日 第55回卒業式 卒業生357人

平成15年度

校長 菊池建太
教頭 矢部秀一

主なできごと

- 4月8日 第56回入学式 入学許可364人
- 5月7日 遠足
- 5月26日 P後総会・保護者会・保健講話(1・2年)・進路講話(3年)
- 5月29日 生徒総会
- 6月2日 軟式庭球部 関東大会出場(狭山・知光山公園)不破克人・川島和也
- 6月3・4日 球技大会



球技大会

- 6月6日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月6～8日 弓道部 関東大会(茨城県) 団体ベスト16(関根悠馬・亀山直哉・太田隼人・宮崎大海) 個人5位・男子射道優秀賞 太田隼人

- 6月27日 復活第8回水泳大会(1年)
- 7月10日 芸術鑑賞教室
- 8月1～3日 弓道部 インターハイ(長崎) 男子個人出場 太田隼人(3年)
- 8月5・25日 学校説明会
- 8月9・10日 将棋部 全国将棋選手権大会(福井)団体戦4位 寺師・西川・足森
- 9月6・7日 第56回くすのき祭 門・セントメリーズ大聖堂(豪・シドニー) 入場者数2万3千727人 定時制・澤瀉秋子、三味線を披露
- 9月19～26日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジからの第2回訪問受け入れ
- 9月26日 陸上競技大会
- 9月28日 音楽部 関東合唱コンクール(さいたま市文化センター) 銀賞
- 10月4日 学校説明会
- 10月7～9日 保護者会
- 10月27～31日 修学旅行(岡山・広島・京都)
- 10月31日 博物館見学(1年)
- 11月8日 軽音楽部 「北バイキング」 全国高校生音楽祭(川崎) 出場
- 11月20日 強歩大会(戸ヶ久保・西川小)
- 12月15日 文化講演会 「身近なことに疑問を持つ」として 京都大学名誉教授 加藤進(中4回)
- 12月19日 普通・特別教室棟改築工事竣工
- 2004年1月24日 放送部 関東地区高校放送コンクール ビデオメッセージ部門 入賞
- 3月4日 普通・特別教室棟外構その他工事竣工
- 3月8日 予餞会 講演 サッカー解説者・元日本代表 福田正博
- 3月9日 第56回卒業式 卒業生365人

平成16年度

校長 菊池建太
教頭 矢部秀一

主なできごと

- 4月8日 第57回入学式 入学許可364人
- 4月9日 新棟落成記念式(普通特別教室棟)
- 5月5日 生徒総会
- 5月11日 遠足
- 5月31日 P後総会・保護者会・進路講演会(3年)
- 6月1・2日 球技大会
- 6月4日 生徒会立会演説会
- 6月4～6日 弓道部 関東大会出場(明治神宮) 西坂・村田・畠山・関口
- 6月30日 水泳大会(1年)
- 7月14日 芸術鑑賞会 ブラジリアンジャズ(ミストラード) 吉田和雄
- 7月24日～8月3日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジへの第3回派遣(引率:水野浩樹・岡田稔)
- 7月29・8月4日 学校説明会
- 8月1～3日 弓道部 インターハイ(米子) 男子個人 決勝進出 村田和也
- 9月4・5日 第57回くすのき祭 門・ヘルシンキ大聖堂(フィンランド) 入場者数1万6千348人
- 9月18・19日 弓道部 関東個人選手権選抜大会(東京武道館) 準決勝進出 西坂信哉
- 9月20日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール(多摩) 金賞・J A E M杯
- 9月30日 陸上競技大会

- 9月18・19日 弓道部 関東個人選手権選抜大会(東京武道館) 準決勝進出 西坂信哉
- 9月20日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール(多摩) 金賞・J A E M杯
- 9月30日 陸上競技大会

全

日

制

平成17年度

校長 菊池建太
教頭 桑原幸夫 田所和成

- 10月2日 学校説明会
- 10月16・17日 陸上競技部 関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 5000m 14位
藤倉洋平
- 11月4日 保護者会
- 11月6～9日 修学旅行(沖縄)
- 11月18日 強歩大会(吾野～横瀬)
- 11月28日 学校説明会
- 12月16日 文化講演会 連合組合総連合会会長 笹森 清(高11回)
- 12月18・19日 弓道部 第4回東日本高等学校弓道大会(群馬) 3人制の部 優勝・射道優秀賞 川越A/5人制の部 準優勝 川越
- 2005年1月3～6日 弓道部 第11回西日本高等学校弓道選手権大会(広島) 男子団体準優勝 川越A
- 1月19日 新聞部 第34回全国高校新聞コンクール 奨励賞
- 1月29日 放送部 第2回関東地区高校放送コンクール オーディオピクチャー部門 優秀賞
- 3月7日 予餞会 講演 テレビプロデューサー おちまさこ
- 3月8日 第57回卒業式 卒業生362人
- 3月17日 保健講話 「精神衛生について」 諸富 祥彦(明治大学助教授)

主なできごと

- 4月8日 第58回入学式 入学許可365人
- 5月10日 遠足
- 5月21日 P後総会
- 5月22日 打木村治(中20回)の「三天の園」をアニメ映画化した「雲の学校」が東松山市民文化センターホールで上映される
- 5月30日 学級懇談会
- 5月31日 生徒総会
- 6月2・3日 球技大会 4年ぶりに雨で順延
- 6月6日 生徒会立会演説会
- 6月6日 特別教室棟全体改修及び耐震補強工事 竣工(川高新聞では夏休み中に工事したことになっている)
- 6月18日 学校総体兼関東高校陸上競技対抗選手権(千葉) 5000m 6位 藤倉 空手 関東大会(千葉) 新井翔太
- 6月29日 水泳大会(1年)
- 7月12日 芸術鑑賞会 歌舞伎『義経千本桜』河 連法眼館の場(国立劇場)
- ALT
- 8月1・28日 学校説明会 来場者 8月1日 約1千人 28日 約700人(ともに保護者含む)
- 8月19日 第78回関東陸上競技選手権大会 1500m 決勝10位 田中
- 8月28日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール(川崎) 銀賞
- 9月9・10日 第58回くすのき祭 門・サンタンヌ・ド・ボープレ大聖堂(加・ケベック) 入場者数1万4千335人
- 9月10日 姉妹校セイント・オガスティンズ・カレッジからの第3回訪問受け入れ(18日)
- 9月29日 陸上競技大会

- 10月22日 学校説明会
- 10月22・23日 第56回関東高等学校新人陸上競技選手権大会 5000m 6位 平塚/15位 厚田
- 10月31日 学級懇談会・授業公開
- 11月2～6日 修学旅行(京都～広島)
- 11月11～13日 山岳部 第59回関東高等学校登山大会出場(東京・奥多摩) 片瀬・楠井・澤厚・望月
- 11月18日 強歩大会(吾野)
- 12月17・18日 弓道部 第5回東日本高等学校弓道大会(福島) 出場
- 12月19日 文化講演会 作家 高野 澄(高9回)
- 12月26日 新聞部 第10回全国高校新聞年間紙面審査会 入賞
- 2006年1月5・6日 弓道部 第12回西日本高等学校弓道大会(広島) 出場
- 1月22日 山岳部 第7回関東地区スポーツクラブ イミング競技会 第18位 若田 哲
- 放送部 第3回関東地区高校放送コンクール ビデオメッセージ部門 最優秀賞 「明治からの贈り物」
- 1月23日 新聞部 第35回全国高校新聞コンクール 奨励賞
- 3月7日 予餞会 講演 サッカー解説者・元Jリーガー 水内 猛
- 3月8日 第58回卒業式 卒業生357人
- 3月16日 保健講話 「はるかなる命の旅路」 中 山政美(中山産婦人科クリニック)

平成18年度

校長 菊池建太

教頭 田所和成 平野正美

主なできごと

- 4月10日 第59回入学式 入学許可328人(8クラス)
- 5月1日 生徒総会
- 5月9日 遠足
- 5月10日 授業公開・学級懇談会
- 5月27日 P後総会
- 5月31日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月4日 庭球部 関東大会 個人戦出場 齋藤・岡田
- 6月5・6日 球技大会
- 6月28日 水泳大会(1年)
- 7月13日 芸術鑑賞会 演劇 山本有三原作『ミレーの発奮(劇団「道」)(川越市市民会館) ALT
- 7月20日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジへの第4回派遣(30日 引率:加藤壽子・水野浩樹)
- 7月26・27日 囲碁同好会 全国高校囲碁選手権大会出場 井澤晃
- 8月2・26日 学校説明会
- 8月3・9日 弓道部インターハイ男子個人決勝進出 飯尾
- 8月5・8日 庭球部インターハイ(大阪) 齋藤・岡田組 3回戦進出
- 8月9・16日 SSH特別講座「ハワイ島実習」参加9人
- 8月13・14日 山岳部 ジュニアオリンピック

カップ出場 岩田 哲

8月27日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール2006 最優秀賞/JAEM杯審査員特別賞 指揮者賞 熊谷

9月8・9日 第59回くすのき祭 門・スモリーヌイ修道院(ロシア・サンクトペテルブルク)

耐震工事のため、生徒昇降口前に設置 入場者数1万3千73人 4年ぶりにハッチ行われる

9月24日 音楽部 関東合唱コンクール(宇都宮) 銀賞

9月25日 管理棟耐震補強工事竣工

9月28日 陸上競技大会

10月28日 学校説明会

10月30日 SSH基礎I授業公開

11月2・6日 修学旅行(広島・京都)

11月8日 博物館見学(1年)

11月12日 関東地区スポーツクライミング競技会(習志野) 決勝進出・第8位 森田

11月22日 強歩大会(吾野・横瀬)

12月15日 文化講演会「風俗から総理官邸まで」テレビの裏側」小久保知之進(高41回 テレビ朝日アナウンサー)

12月18日 SSH全校講演会「広がる太陽系」第三代国立天文台長 海部宣男先生(川越市市民会館)

12月23・24日 弓道部 第6回東日本高等学校弓道大会(宇都宮) 5人制の部 男子団体優勝

2007年1月5・6日 弓道部 第13回西日本高等学校弓道大会(広島) 男子団体 ベスト16

1月20日 第4回関東地区高校放送コンクール(伊勢崎) オーディオピクチャー部門 優良 垣内・小峯

1月27日 囲碁同好会 関東地区高校囲碁選手権

大会 男子団体戦 3位

2月19日 SSH研究成果発表会

3月7日 予餞会

3月8日 第59回卒業式 卒業生363人

3月15日 保健講話「性感染症と今後の性教育について」 防衛医科大学校病院 産婦人科医・喜多恒和

3月17・19日 全国高等学校弓道選抜大会(茨城) 男子団体出場

3月31日 管理棟、普通・特別教室棟、特別教室棟空調設備工事竣工

平成19年度

校長 吉澤 優

教頭 田所和成 平野正美

主なできごと

- 4月9日 第60回入学式 入学許可365人(9クラス)
- 5月8日 遠足
- 5月15日 授業公開・学級懇談会
- 5月26日 P後総会
- 生徒総会
- 生徒会立会演説会
- 6月1・3日 弓道部 関東高等学校弓道大会 男子団体ベスト8 白江・滝沢・横山・喜名 男子個人7位 滝沢
- 6月4・5日 球技大会
- 6月29日 水泳大会(1年)
- 7月11日 芸術鑑賞会 オペラG.プッチーニ作・

全

日

制

- 歌劇「蝶々夫人」(新国立劇場)
- 7月13日 SSH全校講演会 未来に伝える地球遺産「生物多様性の保全」吉田正人・江戸川大 学社会学部教授
- 7月23～26日 放送部 第54回NHK杯全国放送コンテスト ラジオドキュメント部門「黄色い声」優良賞 小峯
- 7月29～8月1日 第3回全国物理コンテスト・物理チャレンジ2007銅賞 早川・木戸ノ 優秀賞 原田
- 7月30日 新聞部 第11回全国高校新聞年間紙面審査会 優良賞
- 8月1・2日 放送部 第31回全国高等学校総合文化祭(島根)ビデオメッセージ部門「川越の狐を探して」優秀賞 小峯
- 8月4・25日 学校説明会
- 8月15～21日 SSH特別講座「ハワイ島実習」参加12人
- 9月1日 古典ギター部 全日本学生ギターコンクール2007(テアトロ・ジョーリオ・シヨウワ)金賞
- 9月8・9日 第60回くすのき祭 門・聖フランシスコ・ザビエル記念教会(長崎・平戸)入場者数1万2千58人
- 9月16日 弓道部 第26回関東高校弓道個人選手権選抜大会(明治神宮)出場 小泉・小島
- 9月22日～10月1日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジからの第4回訪問受け入れ
- 9月27日 陸上競技大会
- 10月5～8日 弓道部 第62回国民体育大会(秋田)少年男子遠的11位・近的13位 小島
- 10月27日 学校説明会
- 10月29日 SSH公開授業
- 11月4～8日 修学旅行(広島・京都)

- 11月6日 博物館見学(1年)
- 11月16日 強歩大会(音ヶ久保・吾野)
- 12月14日 文化講演会「何のために学ぶのか」笹崎静夫(高18回 埼玉種畜牧場代表取締役社長)
- 12月22・23日 弓道部 第7回東日本高等学校弓道大会(石手)5人制の部男子 決勝トーナメント進出・3人制の部男子 出場
- 12月27日 新聞部 第12回全国高校新聞年間紙面審査会 入賞
- 2008年1月9日 露・大統領補佐官イワノビッチ氏来校
- 2月19日 SSH生徒研究発表会(やまぎき会館)
- 3月6日 予餞会 講演会「真の国際人を目指すために」ピーター・フランクル
- 3月7日 第60回卒業式 卒業生364人
- 3月14日 保健講話「上手なコミュニケーションについて」心理学の立場から」埼玉医科大学病院神経精神科 臨床心理士 庄野伸幸
- 3月31日 本館棟エレベーター等設置工事竣工
- 4月7日 第61回入学式 入学許可366人(於：川越市市民会館)
- 4月14日 SSH1学年講演会「私と科学」最先端科学技術について考える」核融合科

平成20年度

- 校長 吉澤 優
 教頭 金子保夫 花岡雅文

主なできごと

- 4月7日 第61回入学式 入学許可366人(於：川越市市民会館)
- 4月14日 SSH1学年講演会「私と科学」最先端科学技術について考える」核融合科

- 学研究所 准教授 井上徳之
- 4月20・21日 くすのき宿泊研修(大滝げんきプラザ)
- 5月9・14日 生徒総会 予算案否決のため、次回開催
- 5月12日 SSH全校講演会(志を持つことの意味)川越から京都へ」国立循環器病センター総長 橋本信夫(高18回)
- 5月14日 授業公開・学級懇談会
- 5月24日 P後総会
- 5月30日 生徒会立会演説会
- 5月31日 地学部 国際地学オリンピック 全国第5位 電永紘平
- 6月1日 庭球部 関東大会(群馬) 個人戦出場
- 6月3・4日 球技大会
- 6月19日 陸上競技部 関東大会出場 4×100mリレー 小田川・田口・丸山・中山
- 6月25日 水泳大会(1年)
- 7月15日 芸術鑑賞会 歌舞伎「義経千本桜」河連法眼館の場(国立劇場)
- 7月16日 SSH1学年講演会(「科学と非科学の間」立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長 安斎育郎)
- ALT
- 7月26日～8月4日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジへの第5回派遣(引率：水野浩樹・樹下高子)
- 7月26～30日 弓道部 インターハイ(川越)男子団体ベスト16(9位タイ) 小島・小泉・小峯・大内・関口・小林
- 8月3～6日 物理部 第4回全国物理コンテスト・物理チャレンジ2008金賞 原田了
- 8月9・23日 学校説明会 926人、628人
- 8月25～30日 SSHハワイ島実習
- 8月30日 古典ギター部 全日本学生ギターコン

クール2008(川崎)銅賞

- 9月6・7日 第61回くすのき祭 門：バギオ大聖堂(フイリピン) 入場者数1万1千66人
- 9月7日 弓道部 第27回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会(明治神宮)男子個人 決勝進出9位タイ 村松
- 9月21日 音楽部 第63回関東合唱コンクール 銅賞
- 10月6日 SSH全校講演会「ニユートリノ、ニユートリノ、そしてニユートリノ」小柴昌俊・東京大学栄誉教授、生徒研究発表会
- 10月25日 学校説明会 372人
- 10月29日 陸上競技大会
- 11月1～5日 修学旅行(広島～京都)
- 11月6日 博物館見学
- 11月13日 強歩大会(吾野～横瀬)
- 12月17日 文化講演会「スポーツの世界は水面下で動く」(NHK解説委員 山本浩(高24回))
- 2009年1月5・6日 弓道部 第15回西日本高等学校弓道選手権大会(広島) 男子団体6位 長内・與嶋・内田
- 2月14日 SSH生徒研究発表会
- 2月15・21日 ラグビー部 第9回関東高校ラグビー都県対抗戦 県代表選手 町田一綺・土井康平
- 3月9日 第61回卒業式 卒業生324人
- 3月16日 保健講話「青春期と性～あなたも相手(心)も大切に～」一橋大学講師 村瀬幸浩

2009

平成21年度

校長 松下幸夫
 教頭 金子保夫 花岡雅文

主なできごと

- 4月6日 第62回入学式 入学許可366人(於：川越市市民会館)
- 4月13日 SSH1学年講演会 井上徳之
- 4月19・20日 くすのき宿泊研修(菅平・スイス ホテル)
- 5月9日 生徒総会
- 5月11日 SSH1学年講演会 「すばる望遠鏡で見る宇宙史」(家正則・国立天文台教授)
- 5月15日 授業公開・学級懇談会
- 5月23日 P後総会
- 5月29日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月2・3日 球技大会
- 6月19・20日 陸上競技部 北関東高等学校陸上競技大会(栃木) 4×100mリレー 6位 小田川・田口・丸山・中山
- 6月25日 水泳大会(1年)
- 6月29日 SSH全校講演会
- 7月13日 芸術鑑賞会 「12人の怒れる男たち」レジナルド・ローズ (東京芸術座)
- ALT
- 8月8・21日 学校説明会 来場者8月8日約1千240人 21日約400人(保護者含む)
- 8月23～28日 SSHハワイ島実習
- 8月30日 古典ギター部 全国学校ギター合奏コンクール2009 金賞(東京芸術劇場)
- 9月5・6日 第62回くすのき祭 門：セント・ルイス大聖堂采・ニユーオーリンズ) 入場者

数1万992人

- 9月14～22日 地学部 第3回国際地学オリピック(台湾)銀賞 富永紘平
- 9月23日～9月30日 姉妹校セント・オガスタインズ・カレッジからの第5回訪問受け入れ
- 9月25日 陸上競技大会
- 9月27日 音楽部 第64回関東合唱コンクール(山梨)インフルエンザのため出場辞退
- 9月27～29日 弓道部 国民体育大会(新潟)少年男子 近的9位・速的6位 與嶋
- 10月16～18日 陸上競技部 日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会(山梨) 100m出場 鈴木俊洋
- 10月24日 学校説明会 来場者約300人(保護者含む)
- 10月26日 SSH1学年講演会 安齋育郎
- 10月30～11月1日 陸上競技部 第13回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会(千葉) 100m出場 鈴木俊洋・1500m8位榎本千聡
- 11月6日 物理部 日本学生科学賞 出品
- 11月20日 強歩大会(吾野～天候の影響で1週間順延され、予備日で実施)
- 11月22日 第57回全国定時制通信制高校生活体験発表会 文部科学大臣賞 鈴木麻衣
- 11月25日 博物館見学
- 11月25～28日 修学旅行(広島～京都)
- 12月18日 110周年記念講演会 宮崎照宣・東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授(高14回)
- 12月20日 第4回国際地学オリピック国内本選 出場 高村
- 2010年1月7日 中庭駐輪場透水アスファルト等整備

全

日

制

平成22年度

校長 松下幸夫
教頭 花岡雅文 榎本克也

主なできごと

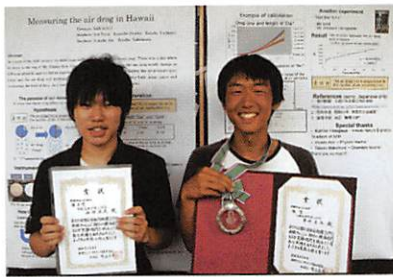
- 4月7日 第63回入学式 入学許可366人(於：川越市市民会館)
- 4月12日 SSH1学年講演会 井上徳之
- 4月18・19日 くすのき宿泊研修(菅平)
- 5月14日 授業公開・学級懇談会
- 5月18日 生徒総会
- 5月22日 P後総会
- 6月1日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月2・3日 球技大会
- 6月7日 SSH全校講演会「コミュニティノと宇宙と素粒子」東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章 教授(高29回)
- 6月12日 芸術鑑賞会 ソプラニスタ 岡本知高 コンサート

- 1月24日 放送部 第7回関東大会放送コンクール(横浜)ビデオメッセージ部門 最優秀賞 鈴木雅也
- 2月27日 SSH生徒研究発表会
- 3月8日 第62回卒業式 卒業生364人 卒業式 パフォーマンス自粛へ
- 3月15日 保健講話「アイデンティティと自己愛」 臨床心理士 和田迪子
- 3月24・26日 地学部 日本地学オリンピック大会(筑波)優秀賞 高村

ALIT

- 6月24日 復活第15回水泳大会(1年)
- 7月8日 SSH講演会(1・2年)「土壌と環境」 平井英明・宇都宮大学農学部生物生産科学科 植物生産学コース准教授
- 7月9・11日 全日本武術太極拳選手権大会 個人男子刀術4位・グループ対練準優勝 杉原
- 7月19日 化学部 全国高校化学グランプリ 関東支部 奨励賞 小俣
- 7月21・30日 姉妹校セント・オーガスティンズ・カレッジへの派遣(引率・松澤みさき)
- 7月31・8月22日 学校説明会 来場者 7月31日 約1千300人 8月22日 約400人(保護者含む)
- 8月1・4日 物理部 全国物理コンテスト 物理チャレンジ2010(岡山) 銀賞 串崎康介

／優良賞 山田涼太



全国物理コンテスト

- 8月11日 硬式テニス部 東関東ブロック公立高校テニス大会(千葉) ベスト4
- 8月22・24日 SSH 2010台日科学教育交流シンポジウム静岡プレゼンテーション部門 優勝/競技会部門準優勝

- 8月29日 古典ギター部 全国学校ギター合奏コンクール2010(川崎) 金賞
- 9月3・4日 第63回くすのき祭 門・シャルトル大聖堂(フランス・シャルトル) 入場者数 1万802人
- 9月22日 陸上競技大会
- 9月27日 SSH講演会 安齋育郎
- 10月16日 陸上競技部 JOCジュニアオリンピックカップ 第4回日本ユース陸上競技選手権大会(名古屋) 100m 出場 鈴木俊洋
- 10月23日 学校説明会 来場者約270人(保護者含む)
- 10月30日 陸上競技部 関東選抜新人大会 100m 6位 鈴木俊洋 / 100m ハードル 400m ハードル 出場 鈴木亮輝
- 11月12日 強歩大会(吾野・横瀬)
- 11月29・12月2日 修学旅行(沖縄)
- 11月30日 博物館見学(1年)
- 12月20日 文化講演会「飯を食うということ」 戦場カメラマンと戦場労働者」フリージャーナリスト 安田純平(高44回)
- 12月26・27日 弓道部 東日本高等学校弓道大会 男子団体5人立ち 5位 今泉・辻・清水・水村・小松・山口・佐々木
- 2011年1月14日 センター試験前日、図書館棟前で3年生出陣式実施 以後、恒例となる(翌年からは普通特別教室棟・特別教室棟間の中庭で実施)
- 2月26日 SSH生徒研究発表会
- 3月5日 定時制卒業式・閉課程記念式典挙行
- 3月11日 東日本大震災
- 3月14日 学年末考査第4日 中止
- 3月15日 第63回卒業式 卒業生362人 東日本大震災の余震の危険性により中止
- 3月16日 保健講話 中止

3月24日 終業式に合わせ、校庭で卒業生を送る
 全校集会(呼名なし、パフォーマンス禁止)を
 予定したが、前日の雨でグランドコンディ
 ション不良のため、各HRで、放送で実施
 3月31日 定時制閉課程となる

平成23年度

校長 松下幸夫

教頭 榎本克也 関根正久(8月10日逝去)

三ツ井良文(10月1日)

主なできごと

- 4月7日 第64回入学式 入学許可363人(於:
川越市市民会館)
- 4月17・18日 くすのき宿泊研修(箱根)
- 5月9日 SSH1学年講演会 井上徳之
- 5月13日 授業公開・学級懇談会
- 5月28日 P後総会
- 生徒総会
- 6月1・2日 球技大会
- 6月6日 SSH全校講演会「原発と放射能」 安
斎育郎
- 6月16日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月17〜20日 陸上競技部 関東高等学校陸上
競技大会(千葉) 100m 3位 鈴木俊洋(イ
ンターハイ(右手)出場) / 100mハードル
8位 鈴木亮輝
- 6月23日 水泳大会(1年)
- 7月11日 芸術鑑賞会 狂言(和泉流)「盆山」・「鬼
瓦」

ALIT

- 7月31〜8月3日 物理部 物理コンテスト全国
大会(筑波) 銀賞 串崎康介
- 8月6・19日 学校説明会 来場者 6日約
1千250人 19日約430人(保護者含む)
- 8月9日 硬式テニス部 関東東ブロック公立高
校テニス選手権大会(千葉)団体戦ベスト4
- 8月10〜12日 物理部・SSH 全国SSH生徒
研究発表会(神戸)ポスター賞「イオンクラフ
トの浮上力」玉根・山田・大友・上原・山口・
佐々木
- 8月24日 古典ギター部 全国学校ギター合奏コ
ンクール2011(横浜) 銀賞
- 8月24〜29日 SSHハワイ島実習
- 9月3・4日 第64回くすのき祭 門・熊本城本
丸 入場者数1万46人 この年から振替休
日は文化祭を挟まず、後に2日連続してとる
ようになる
- 9月5〜14日 地学部 国際地学オリンピック
イタリア大会 銀賞 浅見慶志朗
- 9月22日 陸上競技大会
- 9月26日 SSH1学年講演会「なぜ学ぶのか?
電池の科学史から蘭学者の心意気につれる」
戸田一郎・北陸電力エネルギー科学館サイエ
ンスプロデューサー
- 10月22日 学校説明会 来場者約300人(保護
者含む)
- 10月29日 音楽部 第64回全日本合唱コンクール
(府中) 銀賞
- 関東高校選抜陸上競技大会(駒沢) 出場
3000m障害 栗原 / 1500m 瀬川
- 10月30日 放送部 地方の時代・映像コンクール
(関西大学) 全国大会高校部門 作品奨励賞
- 11月11日 強歩大会(吾ヶ久保〜吾野)
- 11月2日 博物館見学(1年)

平成24年度

校長 松下幸夫

教頭 榎本克也 三ツ井良文

主なできごと

- 4月9日 第65回入学式 入学許可409人(於:
川越市市民会館)

- 11月2〜5日 修学旅行(広島〜京都)
- 12月19日 文化講演会「川越中学校初代校長 増
野悦興の生涯」滝澤民夫(高18回)
- 12月28日 放送部 第6回高校生映画コンクール
入選「循環接着剤」
- 2012年2月5日 弓道部 全国選抜関東校代
表決定戦(新宿) 出場
- 2月5日 音楽部 春のスクールクワイヤコン
テスト(北とぴあ) 高校男声の部3位(1位・
2位該当なし)
- 2月18日 SSH生徒研究発表会
- 3月14日 第64回卒業式 卒業生361人 卒業
式でのクラスパフォーマンス、応援歌を除き
なくなる
- 3月15日 保健講話「深く、人間性について考
えよう」〜あなたも相手(ひと)も大切に〜
一橋大学講師 村瀬幸浩
- 3月25〜27日 地学部 第4回日本地学オリ
ンピック本選(筑波) 出場 田中
- 3月27〜30日 庭球部 カワサキ杯争奪全国高
校ソフトテニス研修大会(千葉) ベスト8 A
チーム

全

日

制

4月15・16日 くすのき宿泊研修(水上)
 4月23日 SSH1学年講演会 井上徳之
 5月14日 SSH全校講演会「ソウの時間・ネス
 ミの時間・私の時間」東京工業大学生命理工
 学研究所生体システム専攻教授 本川達雄
 5月16日 授業公開・学級懇談会
 5月26日 P後総会
 生徒総会
 5月30・31日 球技大会
 6月1〜3日 弓道部 関東高等学校弓道大会
 (明治神宮) 団体 ベスト16/個人2位 堤
 6月11日 SSH全校講演会
 6月15日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
 6月27日 第17回水泳大会(1年)
 7月11日 芸術鑑賞会 演劇「THE WINDS OF
 GOD」(奈良橋陽子プロデュース 今井雅之
 脚本)
 7月15日 柔道部 関東ジュニア柔道体重別選手
 権大会 個人戦 55kg級 準優勝 郡山
 ALT
 8月1日 弓道部 インターハイ(松本) 男子個
 人出場 予選敗退
 8月4・26日 学校説明会 来場者 4日 約
 1千200人・26日 約650人(保護者含
 む)
 8月19日 弓道部 国民体育大会関東ブロック予
 選会(東京) 少年男子出場
 8月22〜27日 SSHハワイ島実習
 8月25日 古典ギター部 全国学校ギター合奏コ
 ンクール2012(横浜) 金賞
 9月1・2日 第65回くすのき祭 門・カザン
 スカヤ教会(露・イルクーツク) 入場者数
 1万1千339人
 9月8日 柔道部 全日本ジュニア柔道体重別選
 手権大会 個人戦 55kg級 出場 郡山

9月23日 音楽部 第67回関東合唱コンクール
 金賞
 9月27日 陸上競技大会
 10月13日 学校説明会 来場者 250人(保護
 者含む)
 10月30〜11月2日 修学旅行(広島〜京都) 最終
 日、帰りの新幹線で多数の生徒が下痢・嘔吐・
 発熱の症状を訴え、東京駅到着後、病院に搬
 送される
 11月2日 博物館見学(1年) 前年までと違い、
 午後は国立科学博物館以外に上野動物園・東
 京国立博物館の見学も許可される
 11月13日 強歩大会(吾野〜横瀬)
 12月12日 新聞部 第17回全国高校新聞 年間紙
 面審査 奨励賞
 12月16日 物理部・SSH 高校生科学技術チャ
 レンジ 朝日新聞社科学論文コンテスト全
 国佳作 佐藤
 12月23日 美術部 第55回埼玉県高校美術展 優
 秀賞 全国大会出場 境
 2013年1月19日 音楽部 第24回埼玉ヴォー
 カルアンサンブルコンテスト 金賞・銀賞
 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト出場
 1月28日 埼玉県の「地球市民市民育成事業を利
 用した国際交流事業がLHRの時間に1年生
 で行われる これ以降、毎年実施
 2月16日 SSH生徒研究発表会
 3月14日 第65回卒業式 卒業生361人
 3月18日 保健講話「自信は生きる力なり」遠藤
 隆行(パラリンピックバンクバー大会ア
 イススレッジホッケー銀メダリスト)
 3月29日 プールサイド改修工事竣工

4月8日 第66回入学式 入学許可374人(於:
 川越市市民会館)
 4月15日 SSH1学年講演会 井上徳之
 4月21〜22日 くすのき宿泊研修(山梨・西湖)
 4月25日 生徒総会
 5月13日 SSH全校講演会「AuthaGraph
 と日本科学未来館つながりプロジェクト」
 AuthaGraph株式会社代表取締役 鳴川
 肇/Gary E. Vierheller
 5月17日 授業公開・学級懇談会
 5月31日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
 6月1日 P後総会
 6月3日 SSH1学年講演会 安斎育郎
 6月4・5日 球技大会
 6月27日 水泳大会(1年)
 7月10日 芸術鑑賞会 クラシックコンサート
 東京サロンシンフォニーオーケストラ ※吹
 奏楽部との協演あり
 ALT
 7月24〜8月4日 新聞部 第37回全国高等学校
 総合文化祭(長崎) 奨励賞
 8月3・24日 学校説明会 参加 8月3日約
 1千100人 24日約600人(保護者含む)
 8月5〜8日 物理部 全国物理コンテスト物理
 チャレンジ2013(筑波) 優良賞 佐藤件
 一郎
 8月23〜29日 SSHハワイ島実習

平成25年度

校長 細田 宏
 教頭 三ツ井良文 高橋健二

主なできごと



平成26年度

2014

校長 細田 宏
教頭 高橋健二 小川 剛

- 8月25日 古典ギター部 全国学校ギター合奏コンクール2013(横浜) 金賞
- 9月5・6日 第66回くすのき祭 門：フルボカール(チエコ・チエスケー・ブディエヨビツエ) 入場者数1万4千677人
- 9月14・15日 弓道部 関東個人選抜大会(東京) 4位 山田
- 9月22日 音楽部 第68回関東合唱コンクール(新潟) 銀賞
- 9月26日 陸上競技大会
- 10月12日 学校説明会 参加約200人(保護者含む)
- 10月19・20日 陸上競技部 関東選抜陸上競技大会(相模原) やり投げ 6位 草村
- 11月6・9日 修学旅行 博物館見学
- 11月13日 強歩大会(吾野く吾野)
- 12月17日 文化講演会 「自分の未来を創る高校時代」東京慈恵会医科大学学長 松藤千弥(高29)
- 2014年2月15日 SSH生徒研究発表会
- 3月13日 第66回卒業式 卒業生363人
- 3月14日 保健講話 「社会で活躍できる人になるための準備と心構え」10代・20代の生き方が勝負」花まるグループ・スクールFC代表 松島伸浩

主なできごと

- 4月7日 第67回入学式 入学許可372人(於：川越市市民会館)
- 4月14日 SSH1学年講演会 井上徳之
- 4月20・21日 くすのき宿泊研修(菅平) この年以降、菅平スイスホテルで固定
- 4月30日 生徒総会
- 5月16日 授業公開・学級懇談会
- 5月19日 SSH全校講演会「ロボットは東大に入れるか」国立情報学研究所教授 新井紀子
- 5月30日 生徒会立会演説会
- 5月31日 P後総会
- 6月2日 SSH1学年講演会 安斎育郎
- 6月3・4日 球技大会
- 6月20・23日 陸上競技部 関東高校陸上競技大会(相模原) やり投げ 8位 草村・800m出場 倉野尾
- 6月26日 水泳大会(1年)
- 7月9日 芸術鑑賞会 寄席芸能鑑賞会 講談(立体怪談) 人間国宝 一柳斎貞水 ほか落語、色物(紙切り)など ALT
- 7月27日 新聞部 第18回全国高等学校新聞年間紙面審査(筑波) 優良賞
- 美術部 第38回全国高等学校総合文化祭(茨城) 文化連盟賞 高松
- 8月2・23日 学校説明会 参加 8月2日 約1千200人・23日 約500人(保護者含む)
- 8月19・22日 第10回全国物理コンテスト物理チャレンジ2014(岡山) 銅賞 新井
- 8月20・25日 SSHハワイ島実習
- 8月24日 古典ギター部 JGA全国学校ギター合奏コンクール2014(川崎) 金賞

- 9月6・7日 第67回くすのき祭 門：ウスペンスキー教会(露・ハバロフスク) 入場者数1万6千652人
- 9月25日 陸上競技大会
- 9月28日 音楽部 第69回関東合唱コンクール(茨城) 金賞
- 10月25日 学校説明会 参加約270人
- SSH1学年講演会
- 10月29・11月1日 修学旅行(広島・京都)
- 10月31日 博物館見学(1年)
- 11月1日 写真部 日本工学院XOJYMPUS 第5回高校生デジタルフォトコンテスト(東京) 入選 新里
- 11月13日 強歩大会(吾野く横瀬)
- 11月19日 放送部 「地方の時代」映像祭(関西大) 優秀賞「魅せられて」
- 12月17日 文化講演会 「東日本大震災の体験と音楽による復興支援の試みー脳神経外科医の軌跡」東北大学医学工学研究科・医学系研究科 教授 高橋 明(高23回)
- 9月6・7日 第67回くすのき祭 門：ウスペンスキー教会(露・ハバロフスク) 入場者数1万6千652人
- 9月25日 陸上競技大会
- 9月28日 音楽部 第69回関東合唱コンクール(茨城) 金賞
- 10月25日 学校説明会 参加約270人
- SSH1学年講演会
- 10月29・11月1日 修学旅行(広島・京都)
- 10月31日 博物館見学(1年)
- 11月1日 写真部 日本工学院XOJYMPUS 第5回高校生デジタルフォトコンテスト(東京) 入選 新里
- 11月13日 強歩大会(吾野く横瀬)
- 11月19日 放送部 「地方の時代」映像祭(関西大) 優秀賞「魅せられて」
- 12月17日 文化講演会 「東日本大震災の体験と音楽による復興支援の試みー脳神経外科医の軌跡」東北大学医学工学研究科・医学系研究科 教授 高橋 明(高23回)



高橋明氏・講演会

- 12月19日 新聞部 第19回全国高校新聞(三重)年間紙面審査 入賞
- 2015年1月21・25日 インターハイ スピードスケート(山形) 5000m・10000m出

全

日

制

場 中村功介
 1月23日 放送部 東京ビデオフェスティバル
 佳作「門をくぐる」(1人1作)
 1月28～2月1日 国民体育大会(群馬・伊香保)
 少年男子 2000mR 4位 中村功介
 2月21日 SSH生徒研究発表会
 3月13日 第67回卒業式 卒業生406人
 3月18日 保健講話「カラダとココロ」 生と性
 桜井裕子

平成27年度

校長 青木勇藤
 教頭 高橋泰綱 小川 剛

主なできごと

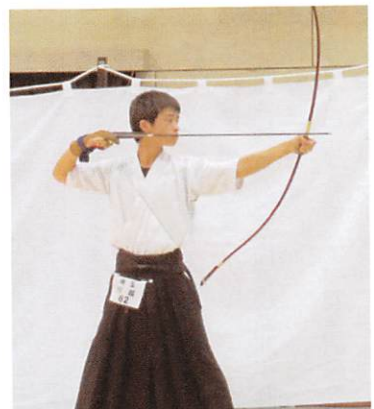
4月6日 第68回入学式 入学許可400人(於:
 川越市市民会館)
 4月13日 SSH1学年講演会 井上徳之
 4月19・20日 くすのき宿泊研修(菅平)
 4月23日 生徒総会
 5月15日 授業公開・学級懇談会
 5月29日 P後総会
 5月30日 生徒会立会演説会
 6月1日 SSH全校講演会「見過されてきた生
 物たちが織り成す森と川の生態系」佐藤拓
 哉・神戸大学大学院理学研究科生物学専攻准
 教授
 6月2・3日 球技大会
 6月5～7日 弓道部 関東大会(県武道館) 団
 体戦 準優勝・技能賞/個人戦 優勝・技能

賞 松本
 6月8日 SSH1学年講演会 安齋育郎
 6月25日 第20回 水泳大会(1年)
 7月8日 芸術鑑賞会 演劇鑑賞会「夏の夜の
 夢」W・シェイクスピア 劇団シェイクスピア
 ア・シアター(於:ウエスタ川越)
 ALT
 7月17～23日 物理部 ロボカップジュニア
 2015世界大会(中国・合肥) 6位



ロボカップジュニア世界大会

7月28～8月1日 美術部 第39回全国高等学校
 総合文化祭(滋賀)文化連盟賞 小久保
 7月30～8月1日 新聞部 第39回全国高等学校
 総合文化祭(滋賀)文化連盟賞
 8月1日 全国高等学校新聞紙面審査(滋賀) 優
 良賞
 学校説明会(於:ウエスタ川越 来場者 約
 1千200人(保護者含む) 市民会館大ホー
 ル閉館のため、夏季休業中は1回に
 8月6～9日 弓道部 第60回インターハイ(奈
 良) 個人準優勝 松本



松本英悟君(3年)

8月19～22日 物理チャレンジ2015全国大会
 (筑波) 銅賞 小島
 8月21～25日 SSHハワイ島実習
 8月22日 古典ギター部 第26回JGA全国学校
 ギター合奏コンクール2015 (東京芸術劇
 場) 銀賞
 9月5・6日 第68回くすのき祭 門:ソールズ
 ベリー大聖堂(イギリス・ソールズベリー)
 入場者数1万5千306人
 10月1日 第45回 陸上競技大会
 10月10日 学校説明会 来場者 約500人(保
 護者含む)
 SSH1学年講演会
 10月27～30日 修学旅行(広島(京都)
 10月30日 博物館見学(1年)
 11月13日 強歩大会(芦ヶ久保(吾野)この年以
 降、芦ヶ久保(吾野)の1コースに固定
 12月16日 文化講演会「未来を考えるチカラ」
 フィルハーモニア・オーケストラ・オブ・
 ニューヨークの設立・同オーケストラの初代
 首席指揮者 山田あつし(高34回)
 12月17日 新聞部 第20回全国高校新聞(三重)
 年間紙面審査賞 入賞 平成28年 広島大会
 出場

- 2016年1月23・24日 演劇部 第51回関東高等学校演劇研究大会(さいたま芸術劇場) 優秀賞 全国高校演劇研究大会出場
- 2月15日 SSH生徒研究発表会
- 3月7日 新聞部 第45回全国高校新聞コンクール(朝日新聞社) 奨励賞
- 3月14日 第68回卒業式 卒業生368人
- 3月17日 保健講話「医師が診るもの、社会が診るもの」鈴木富雄・大阪医科大学特別任命教員教授

平成28年度

校長 青木勇藤
 教頭 高橋泰綱 小川 剛

主なできごと

- 4月7日 第69回入学式 入学許可374人(於：体育館アリーナ)
- 4月17・18日 くすのき宿泊研修(菅平)
- 4月27日 生徒総会
- 5月2日 SSH1学年講演会 井上徳之
- 5月13日 授業公開・学級懇談会
- 5月16日 SSH全校講演会「基礎科学研究…ニユートリノとその他の宇宙線研究を例に」梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長
- 5月28日 P後総会
- 5月31日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 6月1・2日 球技大会
- 6月3～5日 弓道部 第60回関東大会(栃木)
- 団体戦ベスト16 団体技能優秀賞受賞
- 6月20日 SSH1学年講演会 安斎育郎

6月29日 水泳大会(1年)

7月11日 芸術鑑賞会 音楽鑑賞 雅楽師 東儀秀樹コンサート

7月23～25日 水泳部 関東高等学校水泳競技大会(茨城) 400m自由形R出場 岡崎・青山・三崎・若林

7月30～8月1日 物理部 第40回全国高等学校総合文化祭広島大会 自然科学部門 参加

8月7日 学校説明会(ウエスト川越 来場者約1千600人(保護者含む))

8月19～22日 物理部 全国物理コンテスト物理チャレンジ 第2チャレンジ(東京理科大) 参加 角

8月28日 全国学校ギター合奏コンクール(横浜) 銀賞

9月3・4日 第69回くすのき祭 門・ウスペンスキー教会(フィンランド) 入場者数1万7千906人

9月10・11日 弓道部 関東高等学校弓道個人選手権選抜大会(明治神宮) 7位 杉田

9月21日 陸上競技大会

10月1日 学校説明会(やまびき会館) 来場者約2500人(保護者含む)

10月27～30日 修学旅行(広島～京都)

10月28日 博物館見学

11月11日 強歩大会(芦ヶ久保～吾野) 雨が上がるとの予報を受け決定されたが、結果的に最後まで小雨が降り続いた

12月15日 文化講演会「オリンピック 勝者の法則」山本浩高(24回)

桜井裕子氏

平成29年度

校長 青木勇藤
 教頭 小川 剛 内田正俊

主なできごと

- 4月7日 第70回入学式 入学許可374人
- 4月16・17日 くすのき宿泊研修(菅平)
- 4月26日 生徒総会
- 5月12日 授業公開・学級懇談会
- 5月15日 川高サイエンス探究全校講演会「世界初の宇宙ヨット「イカロス」とオリガミニ宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(ISAAS/JAXA) 森治・宇宙航行システム研究系助教
- 5月19日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 5月27日 P後総会
- 5月31・6月1日 球技大会
- 6月29日 水泳大会(1年)
- 7月11日 芸術鑑賞会 古典「落語の世界」落語入門「はじめての落語」鈴々舎馬るこ・色物「江戸の寿獅子」荒馬座・古典落語 真打 柳家喬太郎
- ALT
- 7月27～29日 高校生バイオサミット(慶應義塾大学) 出展 研究発表 大附
- 7月31日 新聞部 第21回全国高校新聞年間紙面審査賞(宮城) 優良賞
- 7月31～8月4日 美術部 第41回全国高等学校総合文化祭(宮城) 文化連盟賞 佐藤

全

日

制

平成30年度



校長 飯田 敦
教頭 内田正俊 市川 京

- 8月1日 学校説明会 来場者 約900人(保護者含む)
- 8月1～2日 弦楽合奏部 第41回全国高等学校総合文化祭みやぎ総文2017 4校合同オーケストラとして参加
- 8月2～4日 物理部 第41回全国高等学校総合文化祭(宮城) 自然科学部門 奨励賞(第3位)
- 8月26日 古典ギター部 JGA全国学校ギター合奏コンクール2017(横浜) 銀賞
- 9月2・3日 第70回くすのき祭 門・ゼンコフ正教会(ウズベキスタン) 入場者数 1万7千712人
- 9月30日 学校説明会 約450人(保護者含む)
- 10月5日 陸上競技大会
- 10月26～29日 修学旅行(広島～京都)
- 10月27日 博物館見学(1年)
- 11月10日 強歩大会(倉ヶ久保～吾野)
- 12月15日 文化講演会 「川越高校先輩から、これからの皆さんへ」松本万夫(高2)
- 2018年3月13日 第70回卒業式 卒業生 400人
- 3月16日 保健講話 「守りの美字」 順天堂大学 医学部教授 小林弘幸
- 3月29日 第二ブランド整備工事竣工
- 3月31・4月1日 物理部 ロボカップジュニア全国大会(和歌山) ワールドリーグ・サッカークライトウェイト 出場(2チーム)

主なできごと

- 4月6日 第71回入学式 入学許可400人
- 4月15・16日 くすのき宿泊研修(菅平)
- 5月1日 生徒総会
- 5月2日 学級懇談会
- 5月12日 生徒研究発表会
- 5月18日 生徒会立会演説会・本部役員選挙
- 5月26日 P後総会
- 5月30・31日 球技大会
- 6月1～3日 卓球部 関東大会出場 岩附(3年)(宇都宮市体育館)
- 6月28日 水泳大会(1年)
- 7月11日 芸術鑑賞会 演劇 「爺さんの空」 作・演出 時風静恵/監修 西田了(劇団アルファール)
- ALT
- 7月28～8月1日 生物部 Bio Summit 3 鶴岡 優秀賞(3年猪森・大和久)・審査員特別賞(3年大和久)
- 7月31日 学校説明会
- 8月7～9日 物理部 第42回全国高等学校総合文化祭 出場(諏訪東理科大)
- 8月7～11日 美術部 第42回全国高等学校総合文化祭 文化連盟賞(3年阿部・上田市立美術館)
- 8月18・19日 弓道部 第20回紫羅旗全国高校速的弓道大会 出場(福岡県久留米アリーナ)
- 8月19～22日 物理部 物理チャレンジ2018 全国大会出場(3年木村 国立オリンピック記念青少年センター)
- 9月1・2日 第71回くすのき祭 門・聖アン ドリイ教会(ウクライナ・キエフ) 入場者数 1万5千224人
- 9月29日 学校説明会
- 10月4日 陸上競技大会

令和元年度



校長 飯田 敦
教頭 藤本 成 市川 京

- 10月26日 博物館見学
- 10月26～29日 修学旅行(広島～京都)
- 11月13日 強歩大会(倉ヶ久保～吾野)
- 12月12日 文化講演会 神山典士(高31回)「下山の時代を明るく逞しく生きる」
- 2019年1月13日 吹奏楽部 東日本スチューデントジャズフェスティバル 優秀賞・優秀プレイヤー賞(昭和音楽大)
- 3月13日 第71回卒業式 卒業生370人
- 3月15日 保健講話 「思春期のこころと性」へルスポモーション推進センター(オフィスいわむろ)代表・医師 岩室紳也氏

主なできごと

- 4月5日 第72回入学式 入学許可366人
- 4月14日 生徒総会
- 学級懇談会、ゴールデンウィーク10連休のため、日程がとれず中止
- 4月14・15日 くすのき宿泊研修(菅平・スイスホテル)
- 5月11日 生徒研究発表会
- 5月20日 生徒会立会演説会
- 5月20日 P後総会
- 5月29・30日 球技大会 3年ぶりに教員チーム優勝
- 6月27日 水泳大会(1年)
- 7月16日 芸術鑑賞会(Jazz ウェスタ川越)

制

定時制の歩み

※見出しの「年」は原則として年度（4月～翌年3月末）を表します。

平成11（1999）年

在籍生徒数

修業年限4年制課程（以下修4）89人

修業年限3年制課程（以下修3）60人

（修3は平成4年度、埼玉県教育委員会から、修業年限3年制課程の設置について研究嘱を受けて開始した）

○10月23日 創立100周年記念祝賀式挙行

○豪セント・オーガステインズ・カレッジとの姉妹校提携調印式

○埼玉県教育委員会、「21世紀いきいきハイスクール構想」発表。学校の適正規模の確保と特色ある学校の設置を目指す

卒業生徒数

修4・19人、修3・16人 計35人

平成12（2000）年

在籍生徒数

修4・80人、修3・54人

○埼玉県教育委員会、「21世紀いきいきハイスクール構想」策定。構想は埼玉県の

県立高校教育全般に係る多岐にわたるもので、「定時制・通信制課程の再編整備

については、東西南北の地域バランスに配慮して各地域の定通教育の核となる昼夜開講の定通独立校を設置し、周辺の夜間定時制課程の入学率や在籍率に留意して統合等を含めた再編整備を図る」としていた

卒業生徒数

修4・21人、修3・10人 計31人

平成13（2001）年

在籍生徒数

修4・81人、修3・60人

○柔道部・ソフトテニス部全国大会出場

卒業生徒数
修4・14人、修3・18人 計32人

平成14（2002）年

在籍生徒数

修4・72人、修3・56人

○完全学校週5日制始まる

○修3課程、通信科目の履修のため(水・木)のゼロ時間を設け16・50に開始

○7月 セイント・オーガステインズ・カレッジへの第2回派遣に定時制課程より

1人参加
○平成14年度埼玉県定通総合体育大会兼全国定通総合体育大会県予選会バレーボー

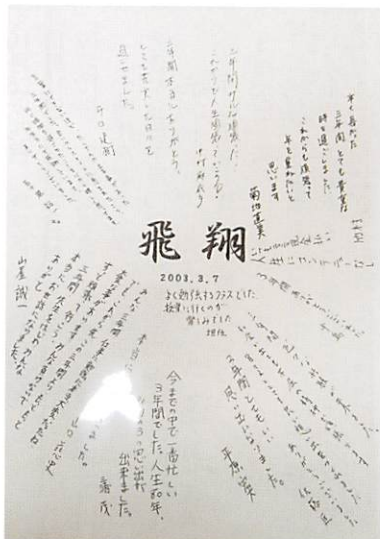
ル女子第1位 全国大会出場（代々木体育館）

卒業生徒数

修4・17人、修3・11人 計28人



遠足：ディズニーシー



卒業に当たっての色紙

定

時

定

時

制



給食の様子



メニュー

平成15(2003)年

在籍生徒数

修4..77人、修3..72人

○修得総単位数74単位以上、平成15年度の
入学生から年次進行により実施

○修3課程(水)・(木)の始業16..25となる

○平成15年度新人大会定時制通信制男子バ
レーボール部第1位

卒業生徒数

修4..7人、修3..17人 計24人



全定合同の文化祭、2万人余り来校。
売店駄菓子屋

平成16(2004)年

在籍生徒数

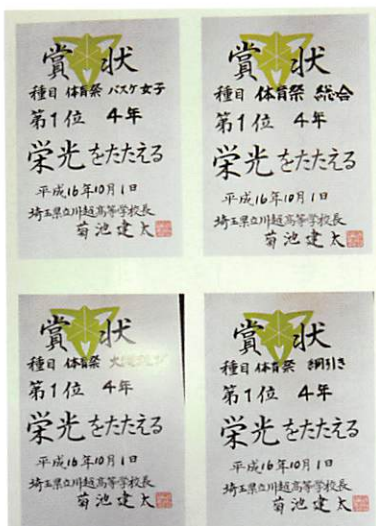
修4..98人、修3..67人

○7月 セイント・オーガスタインズ・カ
レッジへの第3回派遣に定時制課程より
1人参加

○県教育委員会、定時制課程の募集停止案
発表

○存続のための生徒、卒業生の署名活動が
継続的に行われた

○川越市市議会も「川越高校定時制存続要
望に関する意見書」を知事に送付
卒業生徒数



盛んな校内行事



=平成16年度卒業生=

澤瀉 秋子 おもたか あきこ《民謡(歌手)》
澤瀉秋子さん民謡歌手として文化祭でも大活躍
(アルバム写真「民謡の道」「若い民謡」)

修4..21人、修3..17人 計38人

定

時

制



伝統的な校内成人式の様子



平成17年度埼玉県定通総合体育大会兼全国定通総合体育大会県予選会サッカー第1位全国大会出場



文化祭での総合的な学習の時間（部活動）作品発表

平成17（2005）年

（※埼玉県立戸田翔陽高校開校）

在籍生徒数

修4・88人、修3・72人

卒業生徒数

修4・20人、修3・16人 計36人

平成18（2006）年

在籍生徒数

修4・89人、修3・69人

○7月 セイン

ト・オーガス

ティンズ・カ

レッジへの第

四回派遣に定

時制課程より

1人参加

卒業生徒数

修4・10人、修

3・19人 計29

人

平成19（2007）年

在籍生徒数

修4・103人、修3・75人

○平成19年度埼玉県定通総合体育大会兼全

国定通総合体育大会県予選会

バレーボール女子第1位 全国大会出場

卒業生徒数

修4・17人、修3・15人

平成20（2008）年

○埼玉県立狭山緑陽高校開校・狭山高校・

豊岡高校・川越高校の3校の定時制課程



卒業式の様子

が、昼夜開講型の定時制課程に統合

○川越高校の定時制課程募集停止

在籍生徒数

修4・62人、修3・41人

卒業生徒数

修4・17人、修3・18人 計35人

平成21（2009）年

（※埼玉県立吹上秋桜高校開校）

生徒数

修4・40人、修3・19人

○第57回全国高等学校定時制通信制生徒生

活体験発表会埼玉県代表

鈴木麻衣（3年生）「ハンディキャップと共

に」文部科学大臣賞受賞

卒業生徒数

修4・17人、修3・19人 計36人

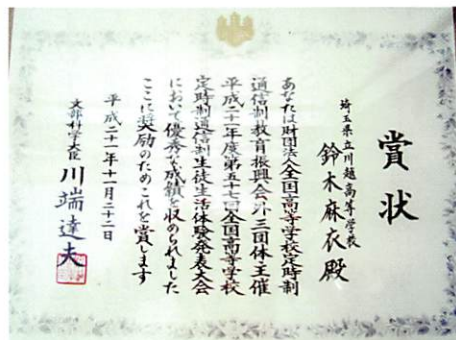


東京新聞掲載記事

制

時

定



賞状



盾

平成22(2010)年

生徒数 修4・21人

卒業生徒数 修4・20人

○平成23年3月5日 定時制閉課程記念式
典挙行。

○3月31日 定時制閉課程となる(卒業生
5287人)

卒業生挨拶

固い桜のつぼみもゆっくりとふくらみ春の息吹を感じる今日のよき日に私共20人の卒業生のためにこの様な盛大な式を催して

いただき心より感謝申し上げます。また校長先生のご式辞・来賓の方々のご祝辞、皆様方からの言葉の一つひとつは私共の心にとても響いております。私共が入学した時に校長先生は「あなた達の卒業とともに川越高校定時制は閉課程を迎えます」とおっしゃいました。当時はまだたくさん先生の方や先輩方が私共の近くにいらしたので「閉課程」という実感がわきませんでした。私共が進級するに連れ先生方はご転出され、先輩方は社会へ出られ、4年生になった時、気付けば私共4年1組だけが残りました。閉課程になる事なのかとやっと実感致しました。正直なところ、私共の居場所が消えてゆく気がし、寂しさで不安で胸がいっぱいになりました。しかし、長い歴史のあるこの川越高校定時制に、私共を含め卒業された先輩方、熱心にご指導下さいました先生方が誇りに思える様な学校として幕を閉じるためにも、前向きに楽しく残された学校生活を送るべきだと強く感じて「Every day smile川高定時」という目標を立てて、全ての行事に全力で取り掛かりました。今私共には、あの時感じた寂しさと不安はありません。4年間の高校生活を修学できたという誇りとかげがえのない仲間に出逢えたという喜びでいっぱいです。私事ではご

ざいですが卒業するクラスの皆に言いたい事があります。この4年間辛く挫けそうになった事がありました。それでもこうして卒業する事ができるのは皆の支えがあったお陰です。私は皆の笑顔が大好きです。これから先、人生には数々の苦難があると思いますが、どんな時も素敵な笑顔でいて下さい。そして、どんな苦難に遭おうとも同級生としてこれから先も共に支えあい頑張りましょう。最後に今まで温かく見守って下さった保護者の方々、地域の皆様、そして進路や個人的な相談まで親身に接していただいた先生方に改めて感謝申し上げますと共に皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。

平成23年3月5日 卒業生代表



定時制課程 記念碑

川越高校SSH総括(11年間)

概要

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)は国の科学振興事業で、目的は、将来国際的に活躍する科学系人材を育成するためのカリキュラム開発である。それを大学等と連携して行い、併せて大学との接続を図る。指定期間は5年、計約5千万円の事業費が充てられる。この成果が探究活動とアクティブラーニング、大学入試の一体改革をうたう新学習指導要領に結実したと言われている。

本校は2006年から2016年まで11年間指定を受けた。この間SSH授業を選択する生徒は1、2学年合わせて毎年200人、課題研究数40。11年間の科学系コンテストで約70人が世界、全国大会へ参加。進学実績向上、文部科学省による最高評価も得るなど成果が上がった。2017年からはSSHの後継事業として本校独自の「川高サイエンス探究」事業を立ち上げ、継続して科学系人材育成に取り組んでいる。

申請に至る経緯

「学問への志が高い生徒が川高を目指す機運を醸成したい」との管理職の意向を受け、SSH検討委員会が希望者を中心に発足。SSHのテーマ「知の融合」・教育課程・組織等を1年かけて検討し、申請した。



本校の目的

科学的思考力・判断力・表現力等の科学的能力・技能・教養等を明らかにし、それらを系統的・組織的に学習する先進的な教育課程等の研究開発を行う。将来の科学技術を率先して進展させるにふさわしい意欲、

および社会的責任感、職業観・倫理観を養う。開発した内容を小中高大間で諸関係機関で共有・普及し、在学前から卒業後も一貫して科学に意欲能力をもつ児童生徒を育てる体制を開発する。以上が本校の目的である。

具体的な目標としては、先進的な理科・数学・科学技術教育により生徒の優れた能力を伸ばし、進路実現に資する。国内外の研究機関と連携し、科学技術に興味・関心のある生徒に、長期的・系統的に学習や体験活動の機会をつくる。大学や研究室と相互交流を図り、大学と強く連携・接続する。科学、科学技術に意欲・能力を持つ生徒の募集に資する。開発した教育課程・教材の共有、普及により在学前から卒業後も視野に入れた人材育成体制を構築する、というものである。

事業内容

授業としては、SSH基礎Ⅰ(1年生全員必修)、SSH基礎Ⅱ(2年生希望者)、SSH探究(3年生希望者)がある。これらは、「知の融合」を念頭に、地球環境とエネルギー、生命と物質、物質とテクノロジー・情報数学の4分野に分かれ、高校の内容を超えた最先端科学授業、年間約25講

座と、関連する研究機関による講座、課題研究と発表を行う。また、本校SSHの目玉として「ハワイ島実習」(後述)がある。プレゼンテーション能力育成を目標に、ヴィアヘラー・ギャリー氏、幸代氏による「科学英語プレゼンテーション実習」、日本科学未来館と連携したプレゼンテーション実習。科学で地域と連携する「冬休み科学教室」等を実施した。

取組の成果

生徒の優れた能力を伸ばす目標は下記2項目から達成できたと言える。①SSH授業者選者が180人から250人と理系生徒の8割が選択し、課題研究数が40作品と裾野が拡大できた②課題研究でのトップレベルの成果があった。具体的には、課題研究・科学系コンテストでの世界大会、全国大会は指定11年間で約70人、金銀銅等トップレベルの成果は36人になる。例として日本学生科学賞全国大会2回、埼玉県科学教育振興展覧会県知事賞・SSH生徒研究発表会ポスター賞受賞3回・国際地学オリンピック世界大会銀賞2名・国際シンポジウム台日科学教育交流シンポジウム2010研究部門1位・ロボカップジュニア2015世界大会6位・物理コンテスト

全国大会金賞・銀賞・銅賞10人、日本地学オリンピック全国大会出場10人等があげられる。



物理学全国銀賞 申崎康介君(高64回)・地学オリンピック世界銀賞 浅見慶志郎君(高62回)

進路実現に資するについて、目的は概ね達成できたと思われる。理由としては①主対象生徒②教員③主対象生徒保護者のアンケート結果から、SSH事業が生徒の進路意識の向上、科学に対する意欲向上、学習意欲向上に寄与したと言えること、また平成22年度、23年度入学生の進路資料の分析から旧帝大、東工大、医学部の進路生徒の割合がSSH主対象生徒の方が高いレベルであることが統計的に証明できたことによる。

科学技術に興味・関心のある生徒に長期的・系統的に学習や体験活動の機会をつくるについては、開発したSSH授業テーマ、アンケート結果から、目的は達成したと言

える。

SSH授業で開発した授業のテーマ数は、物理26、化学12、生物11、地学17、数学6、薬学6、医学4、工学13。

開発したカリキュラムの例。寄居町と糸魚川のヒスイ輝石の成因比較、ケプラーの法則と太陽系のしくみ、電波望遠鏡製作と銀河の中性水素線による銀河系の運動、川越市のヒートアイランド、熱と放射線、太陽黒点、遺伝子診断・植物バイオ、バイオテクノロジー、昆虫遺伝学・動物行動学、酵母菌の発酵と基質、植物生理、身近な高分子化合物を科学する、有機金属が導く創薬化学、基礎薬学、分子軌道論と有機化学、放射化学、素粒子論と相対論、物性物理と物理計測システム、モビリティ・ロケット、ロボット、自動車、太陽光発電システム、非集中システム、StarLogo、学ぶモデル化とシミュレーション、量子工学とロボット工学。微積分研究、行列の基礎理論等。SSH主対象生徒アンケートでは、8割から9割が以下の内容を評価している。理数の面白そうな取組に参加できた。理数の能力やセンス向上に役立った。理系学部への進学に役立った。科学技術への関心・意欲増した。科学技術への学習意欲増した。科学への興味・関心・意欲・好奇心・考え

る力が増した。



梶田隆章氏の全校講演会

大学や研究室と相互交流を図り、大学と強く連携するについては、20以上の機関と毎年連携。大学との接続の試みとして、SSHOBネットワークの構築。地域連携として、地域小学校・中学校・高校との児童生徒および教員同士の継続的交流・連携事業を行った。

連携機関・研究者の例。・東京大学教授 小柴昌俊先生・日本科学未来館・インスパイア ヴィアヘラー・ギャリー氏、幸代先生・立命館大学教授安齋育郎先生・東京大学三崎臨海実験所・産業総合研究センター 太陽光発電研究センター・高エネルギー加速器研究機構・東京大学宇宙線研究所長梶田隆章先生・東京大学教授佐藤勝彦先生・

早稲田大学教授大聖泰弘先生・立教大学・国立天文台野辺山宇宙電波観測所・宇宙航空研究開発機構・理化学研究所・東京大学素粒子物理国際研究センター・国立天文台ハワイ観測所・ハワイ大学。

SSHOBネットワークの構築

全研究の約半数を卒業生が研究指導。卒業生が研究を紹介するOBレクチャーの実施。

地域小学校、中学校、高校との児童生徒および教員同士の継続的交流・連携事業。冬休み科学教室。毎年川越市内の四高校で連携し、市内の小中学生を中心に科学教室を開催、保護者を含め千名規模の参加。川越市NPO法人「こども大学かわごえ」との連携。

SSHが本校を志望した理由であるが110人から160人（全生徒の30%から44%）と生徒募集に資することができた。

まとめ

学問をするために大学を目指すのではなく、とりあえず合格すればよい、合格させればよい、先を見てなど悠長なことは言ってもらえないという浮足立った風潮が日本を席巻している。対し、本校は大学に入ってから伸びる生徒を育てる本当の進路指導を

目指している。SSH事業はその最たるものである。



ハワイ島実習・キラウエア溶岩湖



ロボカップジュニア世界大会

川越高校SSH ハワイ島実習

ハワイ島実習は本校SSHの核心となる事業である。この事業の目的は、本校SSHテーマ「知の融合」、「知の継承」に基づく全研究課題を包括的に実践し、国際的な科学系研究者を目指す生徒を育成すること、本校SSH事業に積極的に取り組むリーダーの育成。

指定11年間の科学系コンテストで、世界大会・全国大会に出場した約70人中40人、かつ、世界大会銀メダル、全国大会金銀銅等トップレベルの成果をあげた36人中21人がハワイ島実習生。令和元年現在、東京大学宇宙線研究所の研究者、東京大学工学系研究科研究者、筑波大学大学院総合文化研究科広域科学専攻、筑波大学大学院生命環境科学研究科など、研究者として歩み始めたOBや、現在大学院で博士課程に進んでいるOBが多数。

ハワイ島実習概要

現在取り組んでいるSSH後継事業「川高サイエンス探究事業」でも生徒の研究指導、「OBレクチャー」という研究生生活を

紹介する事業の一つがハワイ島実習である。

8月下旬、ハワイ島で4泊6日。参加生徒8人。2010年を除く2006年から2015年まで、9回実施。総実習生は82人。「宇宙誕生」「地球誕生」「生命誕生」の3テーマで、ハワイ大学・国立天文台ハワイ観測所などの研究機関と連携しフィールドワーク・観測等実習。帰国後研究を行い、科学展覧会等で発表し、最後は本校生徒研究発表会で英語のプレゼンを行う。

事前学習(230時間)

宇宙、ハワイ島の地質・火山、生物(植物)

に関する現地のフィールドワークで、内容を理解するための知識、研究者と英語でのやりとりができること、研究能力の取得を目標とした。そのため、ハワイ島の地質・岩石・火山・植生・歴史と文化の講義、研究者による最新宇宙論講演、高エネルギー加速器研究機構研修、東大三崎臨海実験所実習、天体観測実習および、科学英語学習を実施。現地でのすばる望遠鏡に関するプ

レゼンテーションに向け、日本科学未来館プレゼン実習で本番に臨んだ。

本番(2011年以降の例)

「生命誕生」ではハワイ大学生物学者 Ms.Becky Osterag氏による。パイオニア植物、植生分布、一次遷移、二次遷移、大気環境調査を英語にて実習・英語によるディスカッションを行った。「地球誕生」では、同大学火山学者Ms.Cheryl Ganseck氏によるキラウエア火山国立公園、クレターリムロード、溶岩トンネル等での英語による現地実習とディスカッション。「宇宙誕生」では、国立天文台ハワイ観測所でのすばる望遠鏡とその発見について学習発表。研究者による講義、研究機器見学。マウナケア山各地点での気圧・気温等の測定と植生調査、血中酸素濃度・心拍数等調査、重力加速度測定、音速測定を行いながら、4000m地点で銀河等天体観測を行った。



事後学習

研究成果を、ハワイ島実習を行っている早稲田大学高等学院、都立戸山高校、茨城県立並木中等教育学校、竜ヶ崎第一高校との合同研究発表。

川高サイエンス探究事業

概要

川高サイエンス探究事業は2006年から11年間指定されたSSH事業の後継事業で、本校独自の事業である。2017年から始まった。同窓会と後援会から運営資金を頂き実施している。目的は生徒の科学的な能力・表現能力を高め、将来国際的に活躍する科学系人材を育成することである。

内容は、最先端科学を研究機関と連携しながら学び、課題研究・発表を行う授業「サイエンス探究」と、プレゼンテーション能力を高める事業、地域と科学でつながる事業である。取り組んで3年目になる2019年5月現在で、科学系コンテスト全国大会参加者が約20人と成果があがっている。

課題は、2019年からの新学習指導要領先行実施科目「総合的な探究の時間」で理科以外の全科目も課題研究授業を行うにあたり、どう事業を融合し、かつ独自性を発揮していくかである。

基本方針・目的

探究活動・体験活動を行い、生徒の科学観・研究能力・表現能力・社会性の育成を図ることが目的。科学に関する学びと探究活動を行い、課題発見能力・問題解決能力・表現能力を養う。科学に対する探究心・科学的思考能力・知識理解の増進・および倫理観、社会性・国際性の育成を図ることが目的。

主な事業

全員対象の事業は3つ。全校講演会・生徒研究発表会・博物館見学で、全員の科学リテラシーの育成が目的。

授業として月曜7限に実施するサイエンス探究Ⅰ、Ⅱは希望者が選択する。サイエンス探究Ⅰは1・2学年、Ⅱは2・3学年にまたがり、先輩から後輩への継続を図る。内容は高校レベルを超えた科学の学びと、研究機関との連携講座、課題研究と発表。生徒研究発表会での発表を課す。また外部の発表・コンテストの参加を推奨する。

サイエンス探究は次の5グループ。

- ・ A 地球環境 (化学)
- ・ B 生命と物質 (生物)
- ・ C 環境分析と物質の変化 (化学)
- ・ D 物質とテクノロジー (物理)
- ・ E 研究入門 (物理)

組織

希望者対象の事業は、最先端科学講座、フィールド探究講座、各種発表会、科学展、学会、科学系コンテスト参加、探究スキルアップ講座、日本科学未来館等プレゼンテーション実習、地域交流、冬休み科学教室。

「学習企画部」と理科が企画担当。サイエンス探究授業は理科が担い、生徒研究発表会等全校規模の事業は全教職員で分担。

実施状況

参加生徒数

2018年 サイエンス探究Ⅰ 56人

サイエンス探究Ⅱ 24人

2019年5月 生徒研究発表会 38作品

サイエンス探究30作品

数学1作品、国際交流2作品

坂戸高校4作品、大宮高校1作品



物理コンテスト全国大会優良賞（原田尚紀）銅賞（村本玲司）

2017年以降の科学系コンテストで全国大会に参加した生徒は20人、2017年全国総合文化祭自然科学部門・物理3位などの成果があった。

成果



梶田先生のご指導（生徒研究発表会）



全国高校総合文化祭 3位



冬休み科学教室

さまざまな仕事がAIに置き換わっていく変化の激しい時代に、課題を見つけ、協働して解決し、普及するという資質・能力を身につけることがサイエンス探究、総合探究に求められている。生徒・教職員全体での取組みが必要である。

まとめ

総合的探究の時間が始まり、全員が課題研究と発表を行うにあたり、これまでのノウハウを全体に普及すること、サイエンス探究の位置づけの見直しが必要である。

課題



梶田先生と生徒

Go Global! 高い志、世界へ向けて

国際交流部 工藤 陽子

川越高校の国際交流事業 (Global Leadership Program: GLP) は、今年度で6年目を迎える。川高のGLPは、他校にはない独自のプログラムである。

1999年

川越高校創立100周年を記念して、国際交流基金が設立。濠・ケアンズ市の Saint Augustine's college と姉妹校提携し、派遣事業及び受け入れ事業が開始。派遣と受け入れを隔年で繰り返した。

2011年

東日本大震災で、交流事業が途絶える。

2013年

『次世代リーダー養成プログラム』UCB(米・カリフォルニア州立大学バークレー校への短期留学)参加を、全校生徒に募るが、9人しか集まらず、実施には至らず。

2014年8月

第1回 Empowerment Program (以下EP)を、川越高校セミナー室にて実施。川高生の応募が37人にとどまり、浦和高校・

大宮高校からも参加生徒を募り、計51人で実施にこぎつけた。

2015年3月

「次世代リーダー養成プログラム」として、UCLA(米・カリフォルニア州立ロサンゼルス校)への短期留学を募り、川高生13人が応募。開智高校にも旅行企画業者ISAを通じて募集をかけ、計21人で第1回「次世代リーダー養成プログラム」を実施。

2015年8月

第2回EPを、川越高校セミナー室にて、川高単独56人の参加で実施した。

2016年3月

UCLAにて、第2回「次世代リーダー養成プログラム」を、川高単独20人の参加で実施した。

2016年8月

第3回EPを、川越高校セミナー室にて、川高単独50人の参加で実施した。

2017年3月

UCLAにて、第3回「次世代リーダー養成プログラム」を、川高単独28人の参加で実施した。

2017年8月

第4回EPを、川越高校セミナー室にて、川高単独55人の参加で実施した。

2018年3月

UCLAにて、第4回「次世代リーダー養成プログラム」を、川高単独23人の参加で実施した。

2018年8月

第5回EPを、川越高校セミナー室にて、川高単独50人の参加で実施した。この年は、応募者が80人となり、2分割して冬にもEPを実施した。

2018年12月

第6回EPを、川越高校セミナー室にて、川高単独30人の参加で実施した。

2019年3月

UCLAにて、第5回「次世代リーダー養成プログラム」を、川高12人、群馬県立前橋高校など他校生10人、計22人の参加で実施した。

東日本大震災で、姉妹校との交流が途絶えたのは非常に残念だったが、このことがきっかけとなり、川高生にとってふさわし

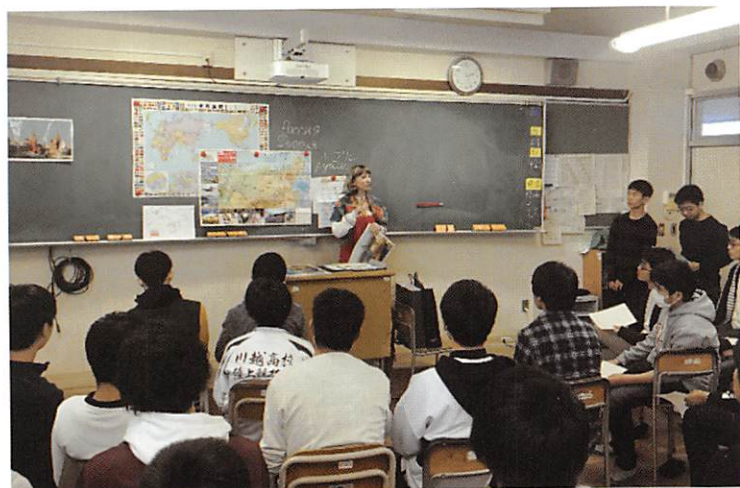
い国際交流プログラムの模索が始まった。

一昨年度をもって、埼玉県立浦和高校に異動された英語科の岡田稔先生が、震災後、いろいろな旅行企画会社にあたり検討を重ね、ようやく行き着いたのがISAのEPであり、「次世代リーダー養成プログラム」であった。道なき道を切り拓く先駆者には、さまざまなリーダーとしての資質が問われる。岡田先生は、Passion, Courage, New Ideasで幾多の困難を乗り越り、参加生徒の事前研修を充実させ、川高の今ある国際交流事業GLPの礎を築いてくださった。

現在、国際交流部が直面している課題は、大きく3つ。一つは、部活動（特に運動部）で頑張っている生徒にも、EPや次世代プログラムに参加する機会をもってもらうこと、参加した生徒のために更なる一歩を踏み出すためのプログラムを実施すること、そして、次世代プログラムに掛かる参加費用を下げて、1人でも多くの川高生が参加できる環境を作ることである。

次は、EPでやる気に火がついた生徒に対して、更に進んだAdvanced Empowerment Programを、お盆や年末の部活のない時期に実施していきたい。次世代プログラムは、日本を飛び出して海外に学びの場

を移すので、それなりの参加費が必要になる。そのためには、プログラムの内容を変えずに、行先等を変更することで、参加費を下げていく検討を早急に始めなければならぬ。川高国際交流部は、今後とも後援会・同窓会からの支援を受け、グローバル社会の中でたくましく生きる骨太人材を育成するプログラムを実施し続けていきたい。



GLP ハーバード大学訪問 STEP 1



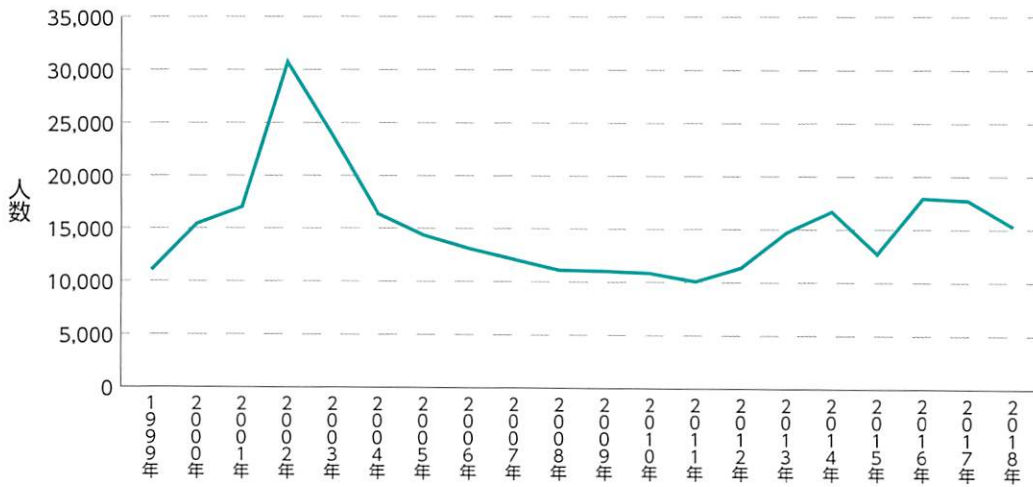
GLP ハーバード大学訪問 STEP 3



GLP ハーバード大学訪問 STEP 2

くすのき祭の歩み

●くすのき祭来場者数の推移（1999～2018年）



1948（昭和23）年から始まった文化祭は、1969（昭和44）年から「くすのき祭」と呼ばれるようになり、2018年で71回を迎えた。この長い歴史の中でくすのき祭も形を変えてきた。2018年のくすのき祭実行委員の人数は337人と多く、伝統的である自主自立の精神の下で、生徒が中心となり活動をしている。

来場者数の推移

1998年に初めて来場者が1万人を超え、その後増加傾向にあった。特に2002年には過去最多の来場者を記録した。これは2001年9月15日に映画「ウォーターボーイズ」が公開された影響と考えられる。この年は理科棟建て替え工事の関係でプールサイドのみでの観覧となり、大行列となった。初日の2回目公演から急きよ整理券が配布されるなどの対応も見られた年である。1999年から2018年まで常に1万人以上を維持しており、毎年活気にあふれている。

20年間の変遷

- ・1999年、初めて川越駅と川越高校を結ぶ直通バスが運行した。
 - ・門が正門に作られるようになる。「参加団体グランプリ」が復活。
 - ・2000年、「国境なき医師団」展が始まる。
 - ・2001年、「ウォーターボーイズ」公開。
 - ・2002年、スタンプラリーが始まる。
- 過去最多3万690人。



2002年 川越高校新聞（1面）

- ・2008年、受験生企画を行う。
- ・2012年、女装コンテストが始まる。



2007年 イベントステージ

- ・2006年、階段を用いた広告が設置される。普通特別教室棟の全室に冷房が設置され、参加団体が使用。
- ・2007年、くすのき祭60周年。くすのき祭で献血を行う（くすのき祭における献血は約20年ぶり）。



2012年 退場する来場者



2010年 演奏する古典ギター部



第71回（2018年）くすのき祭
パンフレット表紙



第62回（2009年）くすのき祭
パンフレット表紙



第52回（1999年）くすのき祭
パンフレット表紙

川越高等学校同窓会 沿革略史 (100周年～120周年)



ノーベル賞受賞梶田隆章さんを囲んで

平成11(1999)年

・創立100周年記念事業



100周年ポスター

の創刊号より平成10年の第225号を収録)

・百周年記念図書館の建設・鉄筋コンクリート2階建、書庫・閲覧室の他にセミナールーム兼会議室・同窓会室・マルチメディアコーナー・資料室兼小会議室・同窓会及び高文連の各事務局室等

・所沢初雁会発足

5月 創立100周年記念講演会「二十一世紀の国際社会と日本の青少年に期待されること」松山幸雄(中47回)



記念講演

6月 正門を改装(7代目) 校歌碑『未来の手』除幕式制作関根伸夫(高13回)設計、揮毫吉沢義和(高8回)、通用門の改修



関根伸夫氏(左)と吉沢義和氏

9月 創立100周年記念演奏会 市民会

館大ホール 音楽部・吹奏楽部・古典ギター部・弦楽合奏部Pf椎野伸一(高26回) 古澤巖/記念美術・書道展・記念講演会・記念俳句大会・運動部交流試合開催 川高・浦高サッカー交流試合(川越運動公園陸上競技場)

10月 創立100周年記念美術・書道展(川越ペペアトラスホール)

母校創立100周年記念式典挙行、祝賀会開催

創立100周年記念講演会「国際化時代と日本の青少年」元朝日新聞論説主幹松山幸雄(中47回)

秋季散策会(所沢初雁会) 狭山湖多摩湖周辺

創立100周年記念式典挙行豪州St. Augustine's College 姉妹校提携調印式 100周年記念親善ゴルフ大会開催(霞が関カンツリー倶楽部)

創立100周年記念俳句大会 記念講演『漱石の時代』作家奥泉光(高26回)(前年平成10年より「くすの木句会」始まる)



創立百周年記念俳句大会

11月 創立100周年記念野球大会(県営)

・平成11年秋会員名簿 第18号を刊行
・記念式典及び姉妹校提携調印式(St. Augustine's College)を挙行し、祝賀会を開催
・国際交流の推進とそのため基金の設立
・100周年記念誌くすの木を刊行(5千500部)川中・川高100年の歩みの全体像を綴る
・川越高校新聞の縮刷版を刊行(昭和25年



百周年記念誌 くすの木

大宮公園球場 vs 春日部高校)

母校創立100周年記念祝賀会(体育館アリーナ、700人を越えるOB参加)

・創立百周年記念曲「作曲田村文生(高39回)

・記念講演「川越高校同窓会の歩み」元同窓会長岡村了一(中43回)

平成12(2000)年

・同窓会 この年度から新入生に校歌・応援歌・凱歌CDを配布

・音楽部OB会「音楽部50年の歩み 光りよ 音の流れよ」を刊行

・飯能初雁ゲートル会「遙かなる日々ー初雁健児、ゲートル時代の回想」刊行

5月 総会記念講演「連

合運動21世紀戦略」連

合事務局局長笹森清(高11回)

7月 音楽部創立50周年

記念コンサート(川越

市民会館)

9月 関根伸夫氏作品掲額式

10月 「雁をみる会」宮城県5万羽の雁・発起人佐久間勇次(中38回)

秋季散策会(所沢初雁会)狭山丘陵と古



笹森清氏

刹を訪ねて…狭山不動尊、金重院(山口観音)

平成13(2001)年

・くすのき祭水泳部シンクロ脚光を浴びる
・本校水泳部を母体の物語「ウォーターボーイズ」映画化

5月 総会記念講演「ラ

テンアメリカと日本と私」元エクアドル大使

鈴木邦治(高6回)

初雁医会同窓会第一回開催 会長関根迪式

(中32回)副会長 原

田雅義(中45・46回)

9月 映画「ウォーター

ボーイズ」公開 川越市民会館で本校生向け上映試写会

10月 秋季散策会(在京初雁会)旧江戸城

の散策…徳川15代の居城の遺構を訪ねる
四校OB親善ゴルフ大会(浦和、熊谷、春日部、川越)

12月 文化講演会NHKアナウンサー森下

和哉(高36回)「爆笑オンエアバトル」で活躍



鈴木邦治氏



ウォーターボーイズ

平成14(2002)年

・「ウォーターボーイズ」人気。本校への取材数多

・「本の中の川越」山野清二郎・埼玉大学名誉教授(高12回)出版

5月 総会記念講演「日

本経済は再生できるのか：成功は失敗のもと、

失敗は成功のもと」経済評論家長島恒雄(高3回)

9月 くすのき祭入場者有史最高来客

3万690人に達する



長島恒雄氏



入場制限の案内

民謡歌手澤瀉秋子(定高56回)三味線披露

10月

秋季散策会(和光初雁会)県営樹林公園(士官学校跡地)理化学研究所訪問

12月 文化講演会「私の歩んだ道」Foreign

Press Center 菅間昭(高9回)

平成15(2003)年

・TVドラマ「ウォーターボーイズ」放映
(フジTV) くすのき祭観客動員に拍車

5月 総会記念講演

「埼玉県政がめざす

もの」鈴木宮夫・埼

玉県副知事(高10回)

同窓会 第1回4校(浦和・川越・熊谷・春日部)OBゴルフ大会開催

10月 秋季散策会(東松山初雁会) 箭弓稲

荷神社、吉見百穴

12月 文化講演会「身近なことに疑問を持つ

とう」加藤進・京都大学名誉教授(中44回)



鈴木宮夫氏

平成16(2004)年

・イーグルバス 川越高校前を通る新路線
運航開始(「川越高校前」停留所できる)

・高校5回卒業生還暦記念誌に続き古希記念誌「続それぞれの旅」を刊行

・「文化勲章」受章

篆刻家・小林斗盦(庸

浩)(中31回)

4月 狭山初雁会設立

5月 総会記念講演「橋について」大野惣

平・元首都高速部長(高15回)



小林斗盦氏

7月 芸術鑑賞会 ブラジリアンジャズ

「ミストラダ」吉田和雄(高21回)

10月 秋季散策会(在京初雁会) 新橋・汐

留・シオサイトー旧新橋停車場跡、浜離

宮恩賜庭園、水上バスで浅草へ

「大江戸と小江戸をつなぐ雁の棹」田中

隆会長(中45回)

12月 文化講演会「働くということ」笹森

清・連合組合総連合会長(高11回)

平成17(2005)年

・土曜セミナー始まる…本校OBによる
「くすのき講座」始まる全5回(2年で
終了)

①「待たれる法曹の養成」今上益雄・東

洋大学法科大学院長(高10回)

②「心臓で死ねなくなった狭心症と心筋

梗塞の歴史」田中健・東京ハートセン

ター放射線同位元素センター所長(高
15回)

③「英語は外国語」松井頼敏(高4回)

④「志はあとからついてくる」日本建築

学会賞受賞者・馬場璋造(高5回)

5月 総会記念講演「心臓

病で死なないために」田

中健・東京女子医大非常



田中健氏

勤講師(高15回)

打木村治(中20回)の唐子を舞台とした

小説「天の園」をアニメ映画化した「雲

の学校」東松山市で上映

10月 秋季散策会(飯能初雁会) 名栗鳥居

観音、有馬ダム、カヌー工房見学

12月 文化講演会「書くように話したい、

話すように書きたい」作家・高野澄(高

9回)

平成18(2006)年

・松本博一(中36回)同窓会長代理から田
中正(高6回)会長に継承

・くすの木講座

①「知を共有する楽しみ」小川義和・自
然科学博物館展示学習部学習課長(高
30回)

②「弁護士という職業」弁護士・川合善

明(高21回)

③「石油プラントの設計」石油プラント

設計・曾宮富夫(高10回)

④「研究者への道と研究生活の現実」山

崎志郎・東京都立大学教授(高28回)

5月 総会記念講演「歴史を訪ねて―比企

地方と川越の縁」高島敏明(高10回)

10月 秋季散策会(鶴ヶ島初雁会) 日光杉

並木散策、県立農業大学校訪問

- 12月 文化講演会「風俗から総理官邸まで」テレビの裏側」テレビ朝日アナウンサー・小久保知之進（高41回）

平成19（2007）年

- 5月 総会記念講演「川越一番街のまちづくり」可児一男（高7回）
- 10月 秋季散策会（狭山初雁会）智光山公園
- 12月 文化講演会「何のために学ぶのか」笹崎静雄・埼玉畜種牧場代表取締役社長（高18回）



可児一男氏

平成20（2008）年

- 5月 総会記念講演「川越から京都へ」橋本信夫・国立循環器病センター総長（高18回）
- 10月 秋季散策会（坂戸初雁会）高麗川ふるさと遊歩道散策
- 12月 文化講演会「スポーツ世界は水面下

で決まる」山本浩・NHK解説委員（高24回）

平成21（2009）年

- ・同窓会会則改正3点
- ①本年度より常駐事務局を設置
- ②平成22年度より同窓会報を全会員（住所未確認者を除き）発送（全員約2万3千人）
- ③平成23年度卒業生より入会金と終身会費を卒業時に一括納入
- ・会費納入規定の改正（平成23年度より同窓会会費2万円納入）
- ・同窓会報編集委員会組織化 初代委員長尾崎勝美（高11回）
- ・11母校創立110周年記念事業として会員名簿第19号刊行
- ・図書館棟2階110周年記念「本校の歴史と現在」コーナー設置、写真などの常設展示
- 4月 越生初雁会設立
- 5月 山岳部創立90周年記念誌『青春の彷徨』刊行（山岳部OB会）
- 7〜9月「現代彫刻展 長澤英俊・オーロラの向かうところ」長澤英俊（高11回）
- 9月 総会記念講演「現代アートにおける

イデアの世界」彫刻家・長澤英俊（高11回）

- 10月 秋季散策会（日高初雁会）聖天院・高麗神社散策 横田辨明・聖天院前住職の講話（高2回）

- 12月 創立110周年記念講演「教育と研究40年」宮崎照宣・東北大学原始材料科学研究機構教授（高14回）

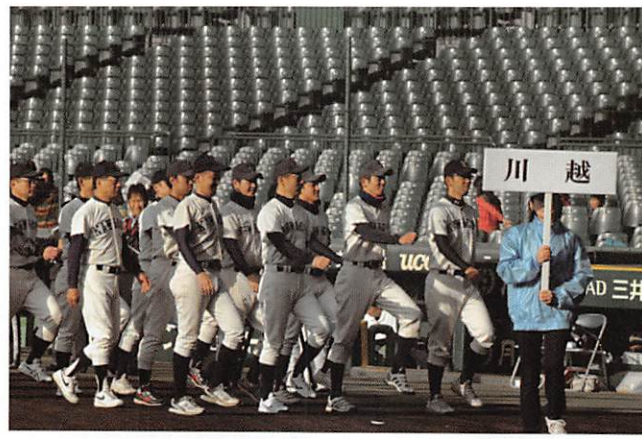
平成22（2010）年

- 3月 定時制課程63年の歴史を閉じる（昭和23〜平成23年3月）卒業生5千287人（中心校2千870



定時制課程最後の卒業生

- ・朝霞分校661人、所沢分校668人、入間川分校764人、入間川分校昼間2年制別科324人修了)
- ・音楽部OB会創部60周年記念誌刊行「光りよ音の流れよ―創立60周年記念愛唱歌集」
- ・日高初雁会 講演会25回を記録す



マスターズ甲子園出場

- 5月 総会記念講演「龍馬を継いだ男 岩崎弥太郎」歴史家・安藤優一郎 (高35回)
- 6月 SSH全校講演「ニュートリノと宇宙と素粒子」梶田隆章・東京大学宇宙線研究所長 (高29回)
- 10月 秋季散策会 (在京初雁会) 江戸深川

平成23(2011)年

- ・発祥の地散策…芭蕉記念館、清州庭園 野球部OB会マスターズ甲子園出場 対 鎮西高校戦 (1-6) 借敗
- ・本屋大賞受賞「天地明察」沖方丁 (藤野峰雄 高47回)
- 12月 文化講演会「飯を食うということ」戦場カメラマンと戦場労働者」ジャーナリスト・安田純平 (高44回)
- ・日本学士院賞 (ノーベル賞候補) 川越初雁会発足

- ・所沢初雁文庫寄付 (所沢初雁会)
- ・木版画家 内田静馬展開催 (中22回)
- ・「続々それぞれの旅」出版 (高5回)
- ・木下重美作品展 (高11回)
- ・吹奏楽部創部50周年記念演奏会
- ・故浜野達雄氏 (中44回) 100万円図書館へ寄贈
- 3月 東日本大震災起こる
- ・定時制課程 (昭23開校以来63年) 閉式典 (やまぶき会館)
- 5月 定時制課程記念碑建立 (校門右手)
- ・同窓会より東日本大震災義援金寄付決定 (111万6千850円) 川越市へ
- ・定時制課程PTA教育振興会より同窓

- ・会へ寄付 (22万9千650円)
- ・陸上競技部OB会支援 60余万円宮城県立石巻高校へ
- ・吹奏楽部OB会支援
- ・宮城県私立東北高校へドラム、オーボエ、クラリネットなど62点贈呈
- ・総会記念講演「地方自治の現場から―地方自治の現状と課題」弁護士・川合善明 川越市長 (高21回)
- 9月 川越初雁会設立
- 10月 創立110周年記念事業「川越城図」記念碑贈呈 (本丸御殿前設置) 120人参加 山野清二郎・裏面撰文埼玉大学名誉教授・鎌倉女子大学教授 (高12回) (「此処に城ありき」)

- ・城は400年余の歳月、川越の地を治理し、明治の世、微睡に入れり…)
- ・秋季散策会 (川越初雁会) 川越城本丸・喜多院・旧山崎家別邸・氷川神社散策
- 11月 マスターズ甲子園埼玉大会優勝甲子



川越城図記念碑



川越市から感謝状

園出場

- 12月 文化講演会「川越中学校初代校長 増野悦興の生涯」滝沢民夫・元本校教諭、早大講師（高18回）

平成24（2012）年

- ・高6回「喜寿の祝い」刊行（高6回）
- ・高校剣道部50周年記念誌刊行
- ・各部OB会活動盛んになる
- ・吹奏楽部創部50周年記念演奏会、「創部50周年誌」発行
- ・陸上競技部OB会石巻高校との交流（大震災義援金）
- ・陸上部OB会「走・爛・覧芸術展」第2回展
- ・ラグビー部OB会 創部30周年OB現役合同交流試合 対所沢北高校
- ・高21回生第2回同窓会開催
- 3月 高52期同窓会「三十路だヨ、全員集合」
 - ・嵐山初雁会15周年記念総会
 - ・在京初雁会創立60周年記念
 - ・日高初雁会創立30周年
 - ・志木初雁会創立20周年
- 5月 川越「初雁の森」事業構想 定期総会で承認

総会記念講演「634（ムサシ）を目指して」(株) 日建設計・設計部門デザイン

パートナー吉野繁（高31回）、澤瀉秋子演奏（定高56回）

- 7月 地域貢献 初雁の森づくり事業開始 埼玉県・飯能市・本校同窓会三者協定書署名



三者協定書署名式

川越初雁の森事業部会（飯能市役所名栗支部）

川越初雁会第一回初夏散策会 都幾川巨木巡り

- 10月 第一回植樹祭 名栗湖畔「川越初

雁の森」（2・53ha）、上田県知事、沢辺飯能市長など120人出席

秋季散策会（越生初雁会）里山の自然を歩く・五大尊、弘法山、津久根八幡神社、田代三喜生誕地、最勝寺、越生梅林など散策、武蔵越生高校和太鼓部演奏鑑賞

- 12月 文化講演会 元NHK勤務フォーリンプレスセンター・菅間昭（高6回）

平成25（2013）年

- 3月 音楽部OB会「牧野統没後40年メモリアル演奏会」
- ・各初雁会会報発行盛んになる…「鐘つき堂」「奮え友よ」（東松山）「紫紀報」（志木）など小川・越生・狭山・所沢・日高・飯能・川島桶川・川越など各初雁会のほか、「おい楠の木よ」（川高3期同窓会）
- ・各地区初雁会会報編集担当各者懇談会…在京・川越・越生・飯能・所沢・東松山・川島桶川・狭山が参加
- ・NHK朝ドラへの挑戦気運高まる作品内木村治（中20回）「大地の園」を軸に
- ・野球部OB会マスターズ甲子園出場（2回目）
- ・応援団OB会有志マスターズ甲子園に駆け付け応援

- ・吹奏楽部OB
有志マスターズ甲子園
で応援演奏
- 1月 硬式テニス部OB会発足
- 5月10月 第3回
紫縁展開催
(美術部OB会)



応援団OB

5月 総会記念講演「未来への森林物語―森をとおして社会的価値観の転換を考える」加藤衛^{ちかひさ}・筑波大学生命環境系教授、農学博士(高26回)

6月 下刈り作業・事業部会幹事、森の番人(県職員・飯能市職員) 30余人参加

9月 第2回植樹祭 生物部新聞部山岳部など生徒35人・OB60人、森の番人など総勢110余人参加。ヤマザクラ・イロハモミジ・ホオノキ・ズミ・ガマズミなど350本植樹。

植樹料募集 他校の例、浦高1000年の森・熊高の森



秋季散策会

- 10月 秋季散策会(在京初雁会) 隅田川東京湾クルージング、東京スカイツリー(高31回)吉野繁設計)ゲートブリッジ、レインボーブリッジ周遊 両国 懇親会花の舞
- 12月 文化講演会「自分の未来を創る高校時代」松藤千弥・東京慈恵会医科大学学長(高29回)

平成26(2014)年

- ・同窓会 SSH支援、大学受験書参考書寄贈、スクールカウンセラー支援
- ・各初雁会主催講演会盛んになる
- ・「国会から吾野宿再生へ」大河原義重(高14回)在京初雁会
- ・「企業戦士として世界を駆け巡った人生」藤倉健次郎(高10回)飯能初雁会
- ・「関根伸夫の作品と志木駅前風景の意味」伊得洋行(高15回)志木初雁会
- ・「いのちの種を未来に」野口勲(高15回)日高初雁会
- ・「真の郷土の振興」高島敏明(高16回)東松山初雁会
- ・「ユダヤとイスラム」安野昇(高8回)坂戸初雁会
- ・「高血圧と心臓病は怖い」松方万夫(高

- 22回)越生初雁会
- ・「地熱エネルギーの利用」江原幸雄(高18回)狭山初雁会
- ・各部OB会活動の活性化すすむ

5月 総会記念講演「川越中学の建国精神と初代校長増野悦興の生涯」滝沢民夫・早大講師、元川高教諭(高18回)



滝沢民夫氏

9月 川越初雁の森づくり事業 下刈り作業 事業部会幹事を中心に30余人参加 第3回植樹会。応援部・新聞部・山岳部40余人の在校生・OB合わせ100余人参加。サルスベリ・ナツツバキ・ナンテン等植樹

11月 秋季散策会(入間初雁会) 加治丘陵散策・武蔵野音大楽器博物館、桜山展望台、農村環境改善センター

12月 文化講演「東日本大震災の体験と音楽による復興支援の試み―脳神経外科医の軌跡」高橋明・東北大学医学工学研究科・医学系研究科教授(高23回)
第50回(谷崎潤一郎賞受賞・奥泉光(高26回)

平成27(2015)年

・有志による「4年遅れの卒業式」高63回

生卒業式典並びに同窓会150余人参加
(2011東日本大震災のため実施できず)



4年遅れの卒業式

5月 総会記念講演

演「私と生命保険」根岸秋男・明治安田生命社長(高29回)



根岸秋男氏

6月 川越初雁の森づくり事業第4回植樹祭

生徒会・応援部・生物部・新聞部・放送部・山岳部・OBなど1000余人参加。冬ザクラ・ナンテン・ヤマツツジな

ど約180本植樹、4カ年で春夏秋冬を楽しめる1千本を植樹

10月 梶田隆章・東京大学宇宙線研究所所長・教授(高29回)「ニュートリノ振動の発見」によりノーベル物理学賞受賞

11月 梶田隆章・文化勲章受章/文化功労者素粒子・宇宙線物理学東京大学宇宙線研究所所長(高29回)

秋季散策会(飯能初雁会)名栗初雁の森と吾野宿の散策

12月 ノーベル賞授賞式 スウェーデンのカール16世グスタフ国王より梶田隆章氏にノーベル賞メダル及び賞状授与

文化講演会「未来を考えるチカラ」フィ

ルハーモニア・オーケストラ・オブ・ニューヨークの設立・同オーケストラの初代首席指揮者・山田あつし(高34回)

旧制川越中学校時代・戦後新制川越高校スタート・制服自由化から川高の制帽・制服時代等に焦点

平成28(2016)年

5月 全校SSH講演会「基礎科学研究」ニュートリノとその他の宇宙線研究を例に「ノーベル賞受賞・梶田隆章氏(高29回)」

6月 第5回植樹祭(現役生40人OBなど合わせて80人参加)シダレザクラ植樹第1期(5年間)1千126本植樹

梶田氏ノーベル賞受賞顕彰碑除幕式「自然を不思議と思う心」
総会記念講演「ニュートリノ 小さな質量の発見」2015年ノーベル賞受賞、梶田隆章・東京大学宇宙線研究所所長(高29回)700余人のOB聞き入る(本校体育館アリーナ)



梶田隆章顕彰碑除幕式

10月 川越初雁の森づくり事業下刈り作業27人参加

くすの木囲碁クラブ発足
奇数月最終土曜日対局実施
四校親睦囲碁大会など他校OBとの交流 会員は40人

11月 秋季散策会（川越初雁会）小江戸川

越古寺散策・小江戸蔵里・連警院・秀吉

朱印状・広濟寺・養壽寺・広西寺・中院・

仙波東照宮 川越初雁会主催

マスターズ甲子園出場3度目

12月 文化講演会「オリンピック勝者の法

則」山本浩・法政大学教授・元NHKア

ナウンサー（高24回）

高校29期生同窓会「梶田君のノーベル賞

受賞を祝う会」（川越東武ホテル）

第三回4校囲碁交流戦（浦和・熊谷・春

日部・川越）

在京初雁会創立60周年記念誌「在京初雁

会」発行

・篆刻家小林斗盦（庸浩）（中31回）「篆刻の

軌跡」展 東京国立博物館

平成29（2017）年

・川越初雁の森づくり事業 第2期調印式

5年間協定更改（埼玉県・飯能市・川高

同窓会）

5月 総会記念講演「下山時代の仕事術―

この時代をしな

やかに生きるた

めに」ノンフィ

クション作家・



神山典士氏

神山典士（高31回）

6月 第6回植樹祭 現役生・OB等

100余人参加

・創立120周年記念事業実行委員会立ち

上げる（開校1899年、2019年創

立120周年）

・総務、行事、事業の3つ専門部会等の設

置

・記念式典2019年11月1日（金）ウエ

スタ川越大ホールを予定

・同窓会会員名簿発行

・120周年記念誌発行

9月 一般財団法人設立（奨学金事業）

10月 秋季散策会（小川初雁会）大聖寺六

面塔、板碑政策割谷遺跡、仙覚律師顕彰

碑、小川和紙制作現場（ユネスコ世界遺

産登録）、忠七めし

12月 文化講演会「川越高校先輩からこれ

からの皆さんへ」松本万夫・国際医療セ

ンター心臓内科不整脈科教授（高22回）

平成30（2018）年

・第5回紫緑展開催（美術部OB会）

・民謡歌手澤瀉秋子（定56回）祝5周年記

念公演

3月 平昌パラリンピック出場パラアイス



児玉直氏の壮行会

ホッケー児玉直（高57回）

5月 総会記念講演「私の尊敬する先達―

海軍軍医・高木兼寛くビタミンの父、海

軍カレーの考案者」松藤千弥・東京慈恵

医大学学長（高29回）

6月 「川高初雁の森」づくり事業第7回

植樹祭 100人参加ツバキなど76本植

樹

・柴田錬三郎賞受賞「雪の階」奥泉光（康

弘）（高26回）（第110回芥川賞受賞「石

の来歴」、現芥川賞選考委員）

11月 秋季散策会（所沢初雁会）所沢航空

記念公園

12月 文化講演会「下山時代を明るく逞しく生きる」ノンフィクション作家・神山典士（高31回）

「モダンラブ」ニース国際映画祭受賞 監督福島拓哉（高43回）

平成31／令和元（2019）年

2月 富士見初雁会発足

・5月1日より元号が「令和」に変わる
・川越中学・川越高校創立120周年記念行事

・新書大賞「日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の現実」（中公新書）吉田裕（高31回）
・一橋大学大学院特任教授（高24回）

5月 公益財団法人埼玉県立川越高等学校同窓会奨学財団認定

総会記念講演「東京に世界がやってくる」スポーツの2020年を占う」山本浩一
元NHKアナウンサー・法政大学スポーツ健康学部教授（高24回）

6月 第8回植樹祭（名栗有馬ダム）

7月 「くすのき未来塾」開講年5回実施
埼玉県立川越高等学校同窓会出版「ノーベル



くすのき未来塾（第2回）



関根伸夫の作品：志木市役所内

賞からウオーターボーイズまで輩出する川越高校のリベラルアーツ教育」著者・神山典士（高31回） 出版社青月社・望月勝（高41回）



「川越高校のリベラルアーツ教育」の本

11月 川越中学校・川越高校創立120周年式典（ウエスタ川越）

創立120周年記念講演「研究生活を振り返ってく若い時に経験してほしいこと」ノーベル賞受賞者梶田隆章・東京大学宇宙宙線研究所所長（高29回）

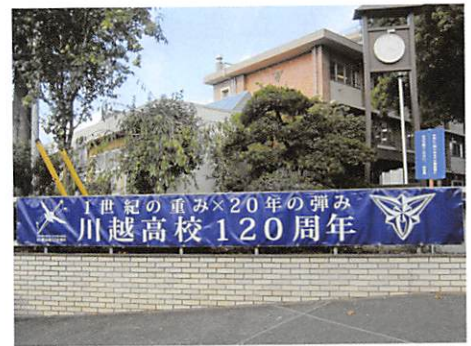
秋季散策会（志木初雁会）現代美術家関根伸夫（高13回）の Monument・野火止水遺跡というは樋・田子山富士散策



120周年記念パネル



120周年記念ポスター



120周年記念横断幕

在京初雁会

在京初雁会

●在京初雁会 事務局長
大館 廣(高21回)

発足のきっかけ

1952(昭和28)年の暮、通勤の車内で浅海倭夫氏(中21回)が菅間六郎氏(中17回)と会い、「戦前、在京

の川中出身者が年に1回くらい会合している」と聞き、自分も日比谷の陶々亭に行ったことがある。在京者と通勤者との同窓の懇親を深めるため、あれを復活しようではないか」と話し掛けたのが発足のきっかけ。

両氏は坂田圭司氏(中17回)にその希望を述べたところ、さっそく賛成された。3人で銀座交詢社ビルの「ピルゼン」というビヤホールを営んでいる斎藤憲吉氏



平成 25 年 在京初雁会 春の散策会

(中11回)を訪問。会場の提供を頼んだところ、双手を挙げて賛成し、その場で快諾を得た。

さらに世話好きの高橋三四次氏(中23回)にも同志集めを依頼。1953(昭和28)年3月18日、総勢22人がピルゼンに集合、ここに在京初雁会が発会した。

毎月8日正午を期してピルゼンで例会、年に1回川越高校同窓会との合同大会を各地で開き、会員相互の親ばくをはかることとした。同年11月に矢部謙次郎氏を初代会長に推挙した。

現在の会員は中学卒3人、高校卒が70人の計73人で、地域別に見ると都内が29人、埼玉・神奈川・千葉県で44人。

活動状況

当初は銀座の交詢社ビル内の「ピルゼン」で1、2、4、7、12月の年5回、原則として8日の正午〜14時開催。昼

食会への参加が難しい会員のために1979(昭和54)年から夕べの集いとして3、6、9、11月の年4回、一ツ橋の学士会館で18〜20時半まで開催。

現在は定期総会と春季・秋季に花見や散策会を行った後、講演会や懇親会を中心に年3回開催。休日・昼間開催とし、夫婦や家族同伴での参加が多くなってきている。

母校の同窓会秋季散策会
1996(平成8)年、当会が主管して芝増上寺―愛宕山―新橋を回り、西銀座のバルハラデンで盛大に懇親会を行った。

2010(平成22)年には「深川界限を訪ねて」と称し、松尾芭蕉の足跡を偲び、また2013(平成25)年には「隅田川と東京湾クルーズ」を実施して、多くの会員にご参加いただいた。

会報「鐘つき堂」は1973(昭和48)年に創刊。会員の講演記録・論文・随筆・和歌・俳句・川柳・大会報告・会員消息・行事予告・慶弔等を取りあげ、会員相互の親睦・啓発・報告・連絡等に役立っている。現在年2回を原則として102号まで発行している。



在京初雁会会報・題字(画・内田静雄氏)

飯能初雁会

飯能初雁会

● 飯能初雁会 副会長

渡辺 肇 (高10回)

発足までの経緯

飯能初雁会は、1931(昭和6)年4月4日発足した「西部初雁会」が最初で、昭和30年頃まで活動していた。また、戦時中ゲートル巻きスタイルで通学した中44回から高4回までの先輩諸氏が、「飯能初雁ゲートル会」という親睦(ぼく)会を創ったが、会員限定のため会員が年々減り、2018(平成30)年に歴史の幕を閉じた。

以上のような経緯から、母校の発展に寄与し、同窓生の親ぼくを計ることを目的に1978(昭和53)年5月28日に開催された創立総会で「飯能初雁会」が誕生。毎年6月の第一日曜日を総会日と決定し、毎年盛会に挙行している。

会の主な事業

会の大きな事業は事業剰余金の積立で、飯能市立図書館への寄贈・川高初雁の森事業の草刈り作業・植樹祭等への支援や奥むさし駅伝の現役とOBチームへの支援活動・親睦ゴルフ会の実施等。他に近隣初雁会との交流により親ぼくを深めている。

2018年1月には、母校の教育振興に



青木校長(右)に寄付を手渡す市川章弘会長ら
= 2018年1月、川越高校で

寄与すべく、図書館の書籍購入費等として、100万円を寄贈した。以上、多彩な事業活動を進めている。

登山家の会長が牽引

現会長の市川章弘氏は三代目で、初代会長・市川宗貞氏のご子息。親子とも山岳部の出身。特に現会長は、大学時代から積雪期の剣岳三ノ窓・北岳バットレス等の未踏ルートに登頂。社会人になると南米アコンカグア山南壁の積雪期第二登・ヒマラヤのマカルー8462mの未踏の東南稜を登攀隊長として成功させ、その後ヒマラヤの怪峰ジャヌー7710mに登頂し、NHKでも報道された。

この様な日本を代表する名クライマーの経歴をもつ会長の下で、2018(平成30)

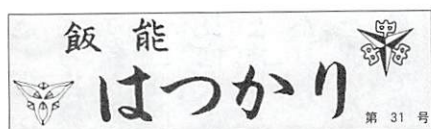
年は、総会事業・予決算の議決後の講演では、高校時代に応援団長として活躍し、(株)椿本チェイン会長の長勇(高19回)氏の「モノづくり百年」という講話を拝聴。二次会の席上で、長氏自から応援歌の指揮をとられ、大いに盛り上がった。



平成30年 総会記念講演

宇宙飛行士の夢も

最近のニュースでは、川高や京大野球部主将として活躍し、大学院修士課程終了後に全日空パイロットになった中里真氏が将来宇宙飛行士を目指して頑張っており、ノーベル賞に次いでビックニュースを飯能初雁会として、大いに期待している。以上、会発展のため魅力ある会の活動にまい進。一層のご指導・ご支援を。



日高初雁会

日高初雁会

●日高初雁会 副会長
大澤 芳文(高14回)

高麗記念事業に協力

日高市の最近の話題は、毎初秋に高麗川辺に咲く、巾着田公園の500万本の曼珠紗華の群落と観光客ラッシュ。また、古代の歴史書「続日本紀」(76年)に記されていた、東国の高麗人を武蔵国に遷し、高麗郡を置いて以来、1300年という記念事業を行ったニュース。

このイベントに、日高初雁会では、有志ではあったが、歴史探策への協力・古代衣装を纏った市内パレードに参加。総会の講師に、初代高麗郡長の子孫「若光王」から、60代目に当たる高麗文康宮司を招いて、市民と共に歴史講座の場を持つなど、記念事業の盛り上がりにより協力。事業は大成功。平成二十九年の天皇皇后両陛下の私的旅行、日高・高麗神社、曼珠沙華公園訪問へと繋がり、全国に日高市の名を知らしめた。

会の発足と活動

日高初雁会は、1981(昭和56)年、川中・川高の卒業生で、日高市に在住する教職員を中心に組織、会員約200人で発足。その後、会員は増減の繰り返しの連続、

2018(平成30)年の会員数は123人と減少傾向にある。変わらないのは、毎年7月第一日曜日に総会(今年で32回)を開いている事と、川中・川高卒業生を講師とする講演会(この講演会は市民にも呼び掛け、会則にも「地域社会に貢献する」と謳ってある)を開催。

また、懇親会を開き、会員の活躍を記録する日高初雁会報の発刊(今年30号)している。

高麗で秋季散策会

この20年間の大きな事と言えば、2009(平成21)年の川高同窓会秋季散策会の担当である。これは1993(平成5)年以前の秋季散策担当だったが、他支部同様、会員の総力を挙げて取り組む大事業。

当日は秋晴れの好天に恵まれ、事務局役員は、高麗川駅での受付案内・散策誘導・救護車・懇親会場作り・写真・会計・総務と約30人が緊張気味に運営に当たった。日高の散策は、高麗郡設置の歴史的記録・高麗山聖天院・高麗神社が中心だった。年が明けて、平成22年2月2日、散策会を担当した役員らの慰労会を開催。

会員は個性豊かな「その道博士」の人ばかり。そこで総会とは別に、「相互に語り合う会」の提案がされ、日高独自の催しが企画

された。題して「初雁健児の会」。会員が日ごろ実験・実践・実行している出来事を語り合う会である。

この会はその後、会員の笹崎静雄氏(高18回)の協力で、会場もサイボク温泉館へと移し、バス(車)・バス(温泉)付きの湯つたりな、豪華な集いと発展した。この話を聞いた坂戸初雁会では総会をサイボク温泉館で開くなど、他支部からも注目を集めている。

日高初雁会を育ててくれた会長は、

- 初代 駒野 昇(中37回)
- 2代 関 眞(中47回)
- 3代 弓削多光一(高4回)
- 4代 犬竹 郷美(高6回)
- 5代 水村 博美(高8回)
- 6代 吉田 正(高10回)



小川初雁会

小川初雁会

● 小川初雁会 会長
原 重敬(高17回)

山紫水明の地に発足

小川町は山々に囲まれた盆地にあり、その南側には源を笠山に発する月側の清流が流れている。この豊かな自然に恵まれた山紫水明の地は「武蔵の小京都」と称されてきた。

古来よりの伝統産業は和紙・裏絹・建具で、中でも小川和紙は2010(平成22)年にユネスコ世界文化遺産に登録された。

小川初雁会の発足は1981(昭和56)年



第37回小川初雁会総会=平成29年6月3日、自然処 玉井屋で

で、現在の会員数172人、役員は22人。会発足の目的は、会員相互の親睦及び母校発展への寄与並びに地域への貢献会員は小川町の出身者だけでなく、近隣のときがわ町

や東秩父村の出身の有志も。

今、当会で心配なのは新会員の減少。多い時には学年20人もが通学していたが、少子化に加え、生徒たちの進路希望も多岐になってきた。

講演会・ゴルフで親睦く

小川初雁会の主な活動は、総会・講演会・会報の発行・教育懇親会。

年1回の講演会の演者は、主に川高OBで、有意義なお話を伺うことができる。また、会員相互の親睦くをより深めようと、しばらく途絶えていた親睦くゴルフを本年より復活した。

そして、さまざまな会の後は、地酒青雲(先代は川高17回生)を堪能しながらの思い出話、終わりに校歌と応援歌「奮え友よ」でしめ、再会を期す。

大盛況の散策会

昨年の「秋季散策会」では、遠方にもかかわらず多くの方々にご参加いただいた。

大聖寺・割谷遺跡・埼玉伝統工芸会館・万葉集ゆかりの地仙覚律師遺跡等を見学した。

その後の懇親会では、日本五大名阪の一つ山岡鉄舟公安の「忠七めし」を小川の名手

平成25年6月9日発行



復刊第1号 発行者 中山 雅美



青雲とともに饗していただいた。大変な盛り上がりで、二次会場は大混雑の大盛況だった。

初雁会 秋季散策会 II H29.11.12、
小川町・埼玉伝統工芸会館で

入間初雁会

入間初雁会

● 入間初雁会 事務局長
大野 勉 (高25回)

校歌3番まで斉唱

「♪ 蛩に捜る鳥の跡、雪に尋ぬる文の道、大和心に西の才、雄飛の翼養いて、高き誉を初雁の、城址の月と輝かせ…」川越高校校歌の第3番は、高校3年間の学生生活の中では、皆あまり歌ったことはなかったのではないかと思うが、入間初雁会では毎年の総会の後の懇親会の最後に、皆で肩を組み合せて必ず1番から3番まで斉唱する。この時



校歌の3番まで斉唱するメンバー

会の発足と活動

入間初雁会は、入間市内に住所を有する川越中学校・高等学校卒業生を中心とした世代を超えた同窓会で、会員相互の親睦と研鑽を目的とし、創立以来35年を経過する会員数113人の団体。

毎年6月の第1土曜日の午後6時30分から、入間市産業文化センターにおいて総会を開催し、主に各界で活躍されている本校OBを中心とした講師をお招きし、総会記念講演を行っている。2018(平成30)年度は、

OBではないがJAXA航空技術部門研究員の横田力男氏に「世界初の宇宙帆船船『イカロス』の宇宙展開とポリイミドセイル膜のひみつ」と題して講演をお願いした。

OBや有識者が講演

昨年は、入間市在住で東京家政大学学長の山本和仁先生が、「生涯学習のこれからと社会教育」と題して講演。一昨年は「打木村治作『大地の園』より」と題して紙芝居を、2016(平成27)年は、入間市在住で本校OBのノンフィクション作家の神山典士先生が「東北被災地からのイノベーション」地域から生まれる物語」と題して講演。2015(平成26)年には、東京慈恵会医科大学の松藤千弥学長が、「医学生は大学で何を学んでいるか」と題して講演を：といった状況。

毎年、名門コースでコンペ

また毎年、狭山初雁会との合同ゴルフコ



3番まで校歌が織り込まれた旗も

ンペを開催。今年で12回目を迎えたが、これまで東京ゴルフ倶楽部・霞ヶ関カンツリー倶楽部・武蔵カントリークラブ豊岡コース・狭山ゴルフクラブ・日高カントリー倶楽部・高麗川カントリークラブなどの名門コースで開催。幹事は1年交代で実施している。

川女OBと親ぼく会

そのほか、川越女子高校OBで組織された「初雁なでしこの会」との合同懇親会も過去3回実施。2018(平成30)年12月1日の「初雁なでしこの会創立30周年記念の集い」には入間初雁会からも会長・副会長・事務局ら大勢が参加して交流を深めた。



本年度の懇親会で歓談するメンバー

また、不定期に親ぼく目的の小旅行を実施したり、本校同窓会の「秋の散策会」も2回、入間市内で開催。幹事初雁会として参画している。

これからは親ぼくや研鑽だけでなく、地域に貢献できるような組織を目指している。入間市内にお住まいの30歳以上の卒業生の皆様、入間初雁会に入会してみませんか。

近畿初雁会

近畿初雁会

● 近畿初雁会 前会長

根岸 光明 (高4回)

創設の経緯

近畿初雁会創設の経緯については、本会の生みの親である近畿埼玉県友会の紹介からとなる。戦後まもなく埼玉県出身の大阪の実業家らが立ち上げ、その後、埼玉県出身者やその家族等も入った。会員には法人会員と個人会員ある。県友会には、知事・県庁関係者等も来阪され、活動に出席・参加されている。昭和の終りごろ、川越高出身の県友会員の間に「近畿にも初雁会を作ろう」という話が出た。そして、近畿2府4県に在住の川越高校出身者全員に、手紙を出した。また、全員で手分けして、一人ひとりに電話。近畿初雁会への入会と、総会への出席を要望。そして、第1回目の総会は、1990(平成2)年8月、9人の出席でスタート。現在までで、出席人数が最大は31人、最少は4人。創立に尽力してくださったのは、当時の同窓会長の渋谷健氏や、埼玉県大阪事務所長で高校7回卒の分島格。お2人には、近畿初雁会の特別会員になっていただいた。渋谷氏には、近畿初雁会総会に何度もおいでいただいた。

県友会通じ各校と交流

約20年前に、川越工業高校同窓会との間に、交流会の話が出た。近畿初雁会総会で検討した結果、近畿埼玉県友会の場で交流しようということになり、川越工業の方も了解して下さった。そして近畿初雁会会員、こぞって県友会に入会しようということになった。県友会では、関西浦高会・大宮高関西支部等とも交流している。

近畿初雁会の行事は、年1回の総会だけだが、県友会は年4〜5回の行事があり、初雁会会員同士も年に何度も会うことができる。県友会是一次会で、終わった後、二次会は近畿初雁会の会合をしたこともある。

活動状況等

見学会は2005年10月15日(土)、近江



最近の近畿初雁会 = 2016年6月25日(土)、梅田のホテルグランヴィア大阪なにわ食彩「しずく」で

八幡市で実施。2回目も計画したが、人数不足で中止。以後、見学会はなし。県友会は、毎年秋に見学会等を実施。それに参加することによって、近畿初雁会会員同士が出逢える。また、浦和高や大宮高などの同窓会とも交流している。

近年は、会長など世話役をする人が不在で、活動は休止状態。復活の見込みは不明。年1回の総会もなし。

会員数

現在の会員数は、21人。



近畿初雁会見学会 = 2005年10月15日(土)、酒游館(近江八幡市)で

坂戸初雁会

坂戸初雁会

●坂戸初雁会 事務局長
太田 正一(高29回)

創設の経緯

坂戸初雁会は、1992(平成4)年11月28日に創設。

初代の会長は、歯科医師の高山孝氏(高30回)、事務局長は元国土交通省職員の丸章夫氏(高31回)。創設の経緯については、当時市の人権擁護委員も務めていた自営業の安川保雄氏(高24回)が、2006(平成18)年発行の同窓会報に寄稿した「設立15年記念に向かって」と題した原稿の中で、次のように記している。

「平成四年の春頃だった。川越高創立100年に際して、坂戸初雁会を発足させたいと、後輩だと称する一人が足繁く来訪した。会長予定者は高山孝氏で、事務局は来訪者丸章夫氏が務めるとのこと。前者は医学博士、後者は理学博士で、『さすが卒業生は人材豊富、良き会ができる』と賛同した。」

なお丸氏によれば、当時、安川氏の指示で会創設のため、市内在住のOBとの連絡調整を進めたとのこと。当時市役所職員だった高澤敏彦氏(高34回)が、名簿作成な

どで事務的に支えてくれたとのこと。

活動状況

現在、総会・講演会・親ぼく会を毎年1回、12月上旬に開催し、40人ほどの会員が集まる。

講演会は、「坂戸市の大昔へタイムスリップ!」(平成24年・市芸芸員・加藤恭朗氏)、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ」(平成25年・高7回・小林誠氏)、「ユダヤとイスラム」(平成26年・高8回・安野昇氏)、「坂戸市の現状と財政」(平成27年・高26回・新井彪氏)、「日本経済の現状と課題、明るい未来を拓くために」(平成28年・高20回・辛坊正記氏)、「豚に教わった楽しく生きる知恵」(平成29年・高18回・笹崎静雄氏)、「鉄道と自然災害」(平成30年・高20回・野口達雄氏)など、さまざまなテーマで開催。

また、総会や講演会の内容等について決定するため、毎年6月上旬に役員会を開催している。

役員

役員は、顧問10人、理事13人、幹事12人で、理事・幹事の中から会長などの役職者を選出。現在の会長・副会長は次のとおり。

会長 清水純一(高20回)

副会長 野口達雄(高20回)

笠間益伸(高21回)

会員数

市川明広(高22回)
藤野哲(高23回)

会員数は約60人。その他、総会の開催に際して、高校41回までの坂戸市出身・在住・在勤者の方々にご案内している(対象者約250人)。



平成29年講演会で講演する笹崎静雄氏

志木初雁会

志木初雁会

● 志木初雁会 会長

伊得 洋行(高15回)

会は発足25周年

1993(平成5)年に発足した志木初雁会は、今年25周年。平成5年当時の同窓会総会は、母の日に母の元に帰るということで、母の日に母校で開催。発足を祝福し、記念に『元気に歩こう会』を企画。5月9日の母の日に実施した。当日は志木市役所を朝徒歩でスタート。昼ごろ母校に到着。校門を通過するときは、校歌を合唱。総会を中断して出迎えの同窓生に手を振りながら、まさに応援歌の歌詞そのままに「歓呼の友に手を振って」堂々と入場した。

そのころ

は総会の後の懇親会はなく、弁当を食べて解散。それだけを楽しみに志木から歩いてきた志木初雁会会員が、宴



平成5年の「元気に歩こう会」

会のない事を知ってがっかりした様子に、翌年から総会は学校で実施。懇親会を佐久間旅館で盛大に開催することになった。昨今では会場を氷川会館に移し、盛況の貸し切り状態が続いている。

七代目の川高正門の誕生は

志木初雁会の提案から

5年目を迎えた志木初雁会は、川高100周年を目前の1997(平成9)年8月30日(土)、母校見学会を計画実施した。当日は、まず同窓会室で学校側から現状報告・100周年記念事業の説明があった。それに先立ち、大沢校長先生・井下田会長が挨拶。

会議後半の意見交換で、私が「現在の校門は、100周年を迎える学校の校門としてはふさわしくない。改築していただけないでしょうか」と発言。しばらく先生方が相談された結果、「実は昨日の会議ですべて決定した所です」とのこと。残念。遅かったか、と思った瞬間、大沢先生が「しかし、これは大きな問題なので、もう一度検討させていただくということで宜しいでしょうか」と言ってくれた。当日のこの会に参加された先生方9人、本会の11人計20人にとって、有意義な一日となった。

初代会長の井下田慶一郎氏は、「本来目玉

であるはずの初雁城の城門を高校正門に作る件を、埼玉県と川越市に陳情・提案・実現をはかる事、これを100周年記念事業に加えるべきである」と述べていた。

この後、会場を幸寿司に移して昼食会。和やかな内にお開きとなった。

志木初雁会の現状と将来の展望

新会員の加入がない事と、会員の高齢化によって事業がマンネリ化。年4回発行を目標にしていた『紫紀報』は年1回に定着。

七福神巡りにヒント得て企画した事業「川越散歩」。これは川越市を3つの地区に分けて3年かけて回るといふもの。高齢者の体力を考慮し、併せて東武バスの小江戸名所めぐりバスを利用して一巡。その後、駅前のお店で昼食会を兼ねた懇親会。そして暗くなる前に解散するという日程。

一番人気の事業だが、参加者はいまひとつ。将来を考えると、先ず役員若返りをはかること、そして常に新規事業の模索を続けて計画を練り好機を待つ、待ってチャンス到来で一気に行動に出る予定。



初代会長井下田慶一郎氏が講演

和光初雁会

和光初雁会

●和光初雁会 会長
田中 庸久(高19回)

創立記念日

1994(平成6)年7月6日

創設の経緯

志木市・新座市・朝霞市・和光市の中で志木初雁会が設立され、その影響からか、和光市でも設立の機運が高まり、上原昭二氏・柳下満氏・櫻井弘康氏を中心に会議を重ねて設立。

和光市には川越高校朝霞分校の卒業生がかなりおり、多くの会員の入会が期待されたが、30数人でのスタートとなった。

設立総会を和光市民文化センターサンアゼリア会議室で開催。初代会長に上原昭二氏(中43回)が選出された。

設立総会終了後の祝賀会をレストラン「サン・レガロ」で開催。それぞれ高校生活を思い出し、また恩師の思い出話等で盛り上がり、楽しい時を過ごした。

現在、設立23年目を迎えた。

歴代の会長

平成7年度～平成15年度 上原昭二氏
平成16年度～平成19年度 相田俊孝氏
平成20年度 櫻井弘康氏

活動状況

平成20年度

設立当時は、2月の第3日曜日に新年会、7月の第1日曜日に定期総会を行っていたが、会員の相次ぐ逝去の年度があり、それ以来新年会は中断している。

会報は設立当初

から発行していたが、諸般の事情により第7号を最後に中断している。

また、現在は志木・新座・朝霞の各初雁会の総会に出席し、親交を深めている。また、自主参加で、川越高校同窓会総会・秋季散策会にも参加している。

現在の会員数は25人。新規会員を募集しているが、なかなか入会者が見つからず、部活動のOB会等を通じて知人を勧誘している状態。

和光初雁会1番の活動

何ととっても秋季散策会の開催。僅か20数人、そして総会の常時出席者10数人の初



平成21年度和光初雁会総会

田中庸久氏



雁会が秋季散策会を主催するということは大変なことだった。当時の上原会長の決断は、今でも良い思い出として参加された会員の心に残っている。

開催日 平成14年10月20日(日)

実行委員会役割分担(敬称略)◎は責任者

総括 ◎上原 昭二

総務 ◎櫻井 弘康 田中 庸久

企画 ◎柳下 稔 柴崎 建治

◎石田 清 鈴木 勲二

◎先導 ◎田中 秀之 戸部 恵一

◎富岡 健治 馬詰晴比古

◎菊池 建太

◎懇親会 ◎相田 俊孝 柴崎 育久

◎柳下 満 細田 金蔵

散策会のコース

東武東上線「和光市駅」9時30分。和光市役所9時50分。和光国際高校と和光樹林公園(自衛隊横(旧陸軍予科士官学校跡)と市道408号線(大泉中央公園)と司法研修所(構内案内)とサン・レガロ(和光市役所内)(約6キロ)0時30分。懇親会 サン・レガロにて0時30分～5時。

参加者 会員 82人・夫人9人・校内関係者7人で、合計98人。

毛呂山初雁会

毛呂山初雁会

●毛呂山初雁会 事務局長
関 清隆(高22回)

H7年に49人で発足

1995(平成7)年11月に49人の会員で発足。翌々年10月19日には105人が参加し、「新しき村―鎌北湖」のコースで秋季散策会を実施。最盛期には会員も53人となった。

主な活動としては、故・丸木清美先生(同窓生)が創立し、毛呂山町内に本部のある埼玉医科大学の協力を得て、以下の5回にわたって医療講演会を開催した。

H9年には散策会

発会から日も浅く、行事としては、8月に総会を兼ねて町長小峰俊三氏(高2)を囲み「これからの毛呂山町政」についての話を聴きながら懇親を深めたほか、平成9年度の同窓会秋季散策会を担当し、町内にある武者小路実篤とその同志により建設された「新しき村」を散策した後、山間の鎌北湖畔に「いのぶた鍋を囲んで」の席を設けて、先輩後輩との再会、懇親に一助をなしたことである。

これまでの講演会

2005(平成17)年1月28日 「突然死
なないために」 松本万夫 循環器内科教
授・同窓生



第5回 医療講演会後に記念撮影

2006(平成18)年6月29日 「脳卒中
に負けないために」 荒木信夫 神経内科
教授

2007(平成19)年2月8日 「おしつ
こで悩んでいませんか？」 出口修宏 泌
尿器科教授

同8月3日 「愉快に食べて健やかに暮
らす」 竹内恭子 栄養部部长

2008(平成20)年2月14日 「健康で
暮らせるために！ 食は文化」 金胎芳子
栄養部次長

120周年機に 再開も

残念ながら、
2011(平成
23)年以降活動を
停止しているが、
母校の120周
年を良い機会に
して再開したい
と考えている。

写真は5回目
の医療講演会の
様子。



第5回 医療講演会で講演する金胎芳子氏

鶴ヶ島初雁会

鶴ヶ島初雁会

● 鶴ヶ島初雁会 会長
渡辺 勉敏 (高9回)

発足23年の足どり

当会は1996(平成8)年2月25日に正式に産声をあげてから既に23年を迎えた。発足に当たり、有志数人が何回も鳩首を並べ話し合いを重ねた記憶が蘇ってくる。

本会の目的は会員相互の親睦を図り、併せて母校の発展に少しでもお力添えできるか。卒業年次の垣根を越えて、同窓として鶴ヶ島市民として、一層の心強い仲間意識の高揚を図ることにある。

スタートの時点では会員は約80人(川中卒6人を含む)だったが、増減を繰り返して、現在では約60人(川中卒1人)で、うち約20人が黄泉の世界へと旅立っており、多くの諸先輩の面影が懐かしい。

役員数は12人で、市内を8ブロックに分けて長を置き、担当地域の会員との橋渡しをしている。

100人参加で散策会

最も印象深いイベントは、本部のお力添えで2006(平成18)年に開催した秋の散策会を成功裏(?)に完遂できたこと。あのころの勢いが懐かしい。多数の初雁同窓会

から100余人の参加を見て、市内数カ所の散策の中でも参加者の最も関心の高かった場所が県立農業高等学校であったと記憶している。

あの時の開催案内の往復葉書で、当市を貫く国道407号、通称日光街道に参勤交代を登場させてしまい、後日あの人気のピテカンこと小泉先生に指摘されたが、後の祭りになったことが思い出される。

あの大学は2015(平成27)年4月に熊谷市に移転され、東京ドーム約8個分といわれる広大な跡地は圏央道の鶴ヶ島JCを接道とした好条件にあり、今時のAIとIoTにつながる先端次世代産業の進出が決定。数年後の完成を目指して工事が着工された所であり、後世の発展を期待する所は大きい。近代文明として開花する姿を後世の散策会でご披露できたら、と思っている。

世代交代・会員増など課題

当面の最大の課題は、他の初雁会も同じ悩みとなっている3点で「役員世代交代」「会員数の拡大」「新規イベントの開催」等。毎年の役員会で議論になるが、決定的な結論を導けないのが現状である。

新規会員の募集は、原則卒業20年を経過した年度が対象。中学校も5校と増えて、母校への進学人数も大幅増となっている。

しかしながら、そのほとんどが親元を離れ、現住していないのが現状。今後、入会勧誘条件の緩和を図りたい。

会員の家族も気楽に参加できるような催物等を計画、実現する。これらの事項はあくまで願望・希望であるが一つでも実現したい。

講演会は毎年継続

出席会員が一番楽しみにしているのは、定期的に開催している総会での講演会と懇親会。講師は会員がなり、仕事・趣味・健康・奉仕・人生訓等々がテーマ。今までに、南極越冬の医師の任務・胆石の医術・後継人制度・なんでも鑑定団のTV出演・パソコン教室・海外出張と業務・そば打ち・お茶の上手な淹れ方・養蜂と蜜の採集等々、思い出は尽きない。この講演会はぜひ毎年継続していきたい。

マンネリ化した会の在り方を是正し、もっと魅力ある会の運営をどのように方向付けしていくか、これらの願望・希望を一つでも実現すべく役員の方々と力を合わせて頑張っていきたい。



川島桶川初雁会

川島桶川初雁会

● 川島桶川初雁会 事務局長
大野 恵司 (高20回)

隣接地域で親近感

当会は川島町と桶川市の2つの行政区に
関わる母校卒業生を以て組織。学区制が敷
かれる前に、桶川市の方々は荒川に架かる
太郎右衛門橋を渡り、川島町の中を通り抜
けて川越高校へ毎日通学することが最短
コースだった。また、お互いに隣という地
理的条件で親近感があり、また、親類縁者
が多くいるためだ。

発足から今日まで

1997(平成9)年8月に会の発足を準
備。母校の100周年記念に向けて、各地
域で地区初雁会が発足。当地区でも矢部敬
一郎(高2回)、笛木豊彦(高17回)、菊池建
太(同)、並びに同田中茂男の各氏が中心と
なって準備会を始めた。

共通の学校を持つ同窓人たちの輪を広げ、
その中で交流を深め肩寄せ合い、同じ方向
に心を合わせ進んでいこうと決心し、組織
の発会準備に向け本格的な事務局の準備が
なされ、会員募集の作業が展開された。

そして11月22日には創立総会が27人参加
で開かれ、会長に関口武氏(中44回)が選出

された。事務局は桶川市の矢部敬一郎氏、
川島町では菊池建太氏(高17回)と中村正宏
氏(同)が選出された。

その後の勧誘活動により、1999(平
成11)年ころには43人が加わり、当地区初
雁会にとっては70人という大きな所帯に
なった。2018(平成30)年5月現在、会
員数は56人。

活動と歴代会長ら

当会の主な活動は次のとおり。

① 定例総会兼講演会 ② 年会報の発刊 ③ 12
月の研修会兼懇親会 ④ 母校同窓会総会や散
策会等の出席 ⑤ 母校行事への支援

・歴代会長

- 一代 関口 武(発足から13年度(中44
回・故人)
 - 二代 矢部敬一郎(平成14から平成19年
度(高2回)
 - 三代 宇津木一雄(平成20年度から24年
度(高8回・故人)
 - 四代 菊池建太(平成24度から平成27年
度(高17回)
 - 五代 岡部政一(平成28年度から現在)
(高20回)
- ・歴代事務局長
発足準備会事務局 矢部敬一郎、菊池建
太 田中茂男(故人)

- 一代 矢部敬一郎、菊池建太、中村正宏
(平成9年度から13年度)
- 二代 岡部政一(平成14平成19年度)
- 三代 同 (平成20年度から24年度)
- 四代 同 (平成24度から平成25年
6月まで)
- 五代 大野恵司(平成25年6月から現在)

来年、平成31年11月には母校の120周年
記念行事が行われます。これまで母校を支
えてきた、多くの先人たちの弛まぬご努力
とご尽力に対し、敬意を表しますとともに、
この区切りの後、未来へ向けて母校が地域
社会の中で大きく羽ばたき、ますます発展
することを祈念。卒業後幾星霜を重ねたO
B達だが、微力ながら精いっぱい支援を
していきたい。



東松山初雁会

東松山初雁会

●東松山発雁会 会長
高島 敏明(高16回)

発足から今日まで

東松山初雁会は、創設22年。1999(平成11)年に発行された川高100周年記念誌に、各地区の卒業生を紹介したコーナーがある。その中の東松山・吉見・滑川・嵐山地区の執筆を担当したのが私だった。エリアは1市3町であり、私の同期でさえ消息不明の方が結構いる。そこで旧知の嶋本正雄先輩に相談し、この機会に情報収集を兼ねて、東松山初雁会を発足させようという事になった。発足したのは、1997(平成9)年だった。

初代会長には伊田登喜三郎氏(高22回)に就任いただいた。同窓会役員人事は、勢い長幼の序が重視されがちだが、若い伊田氏にお願いできたことが本会パワーの源泉になっていると思う。二代目の会長には、平成15年の川高時代に、甲子園出



平成20年7月18日 東松山初雁会発足20周年記念 於：高麗館

場の経歴をもつ嶋本正雄氏に就任いただき、続いて、平成25年からは、私が三代目会長を仰せつかって現在に至っている。会員は200人。

本会の主な活動

4月 役員会(総会準備 講演会講師の選定・依頼)並びに、同窓会誌「奮え友よ」編集会議(内容の決定、寄稿者選定・依頼)

6月 監査会(会計監査)
役員会(総会打ち合わせ他)
「奮え友よ」(6頁)発行

7月 通常総会(毎回40〜50人参加)
同日 講演会

12月 役員会(新春講演会並びに新年会の計画)

2月 新春講演会並びに新年会
(毎回40〜50人参加)

総会時の講演会と新春講演会には、さまざまな分野で優れた業績を挙げている会員を講師に招へい。講演内容は、同窓会誌「奮え友よ」に掲載し、講演要旨をすべての会員に知らせている。

その他にも「奮え友よ」には、毎回数人の会員に興味ある記事をご寄稿いただいている。今更ながら、初雁会は多士済々の集団であることを実感している。ちなみに「奮



会報

え友よ」は、1999(平成11)年に第1号を発行し、今年19号を発行したところ。

また、本会は、会員の親ぶくを因るためゴルフコンペも開催。さらに、2016(平成28)年には、東松山市が創設した「ノーベル物理学賞梶田隆章基金」に、東松山初雁会として50万円を寄付した。

同窓会の大きな長所は、同窓の誼で年齢や世代の差を超えて交流をはかることができること。本会を会員の共通財産として、大切に育てていきたいと願っている。



ノーベル賞の梶田隆章先生と同窓生

嵐山初雁会

嵐山初雁会

●嵐山初雁会 事務局長

宮田 栄(高21回)

発足から21年

嵐山初雁会には、1997(平成9)年秋の発足時に参加させていただき、約21年が過ぎた。21年間といえば、生まれてから成人式までの期間に相当する。

会長は米山大恵氏(向徳寺住職・高5回)を初代として、そして山岸忠雄氏(開隆堂社長・高15回)に続いて高橋兼次氏(前嵐山町副町長・高16回)が平成26年度より就任。
主な活動・イベント

年間の主

な行事は、2月の新年会、7月の総会、11月頃の秋の行楽としての日帰り旅行、その他会報「むらさき草」の発行(題字米山大恵さん)



平成30年の総会で

が主なもの。

やはり同窓のよしみといえますか、顔を合わせれば心安らぐし、また貴重な情報交換の場として、故郷に帰ったような心地よさを感じているのは皆さん同じ。

定例の行事以外では、志木初雁会との交流会が大きなイベント。お互いの会長同士が同期だという関係から、話が進んだ様子。市内の新河岸川の村山快哉堂など、歴史的な建物や道筋を散策するとともに懇親会に参加させていただいた。

次に日を改めて嵐山町内の歴史資料館・郷学研修所の視察・向徳寺の重要文化財である阿弥陀仏を拝観。最後に「なごり路」で懇親会を開催。交流会は楽しいもので盛り多しものだった。

若いOBの参加も

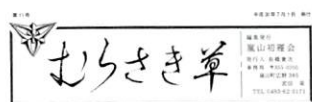
簾藤正徳氏(日本IBM、退・高16回)の邸宅が改修、古民家再生され「アド街」刑事7人」にもテレビ放映された。簾藤氏のご好意により、会員の皆さんで邸宅の見学とバーベキュー大会を行った。当日は季節も良く桜の咲いたところで、改修の成果も見応えがあり、最高の思い出となっている。

発足時より先輩の関根利雄氏(行政書士事務所・高17回)とご一緒にずっと事務担当としてやってきた。近年、地元嵐山出身

の若い同窓生の入会も増えてきたのはうれしいこと。田中亮氏(司法書士事務所・高47回)には事務局に参加していただき、主体的な役割を果たしていただいている。年1度の総会には川高同窓会会長、そして事務局長のご臨席を賜り、有意義なお話を伺うことができ、感謝にたえない。総会時に講演会を開催することが当面の課題。今後も、その都度、その都度の「一座建立」を心掛け、歩み続けることが願ひ。

現在の役員・会員数

会長・高橋兼次(高16回)、副会長・須沢隆(高17回)、富岡啓治(高25回)、相談役・米山大恵(高5回)、山岸忠雄(高15回)、事務局・宮田栄(高21回)、田中亮(高47回)、会計・小岩重徳(高21回)、関根盛敏(高48回)、監事、簾藤正徳(高16回)、戸野倉光政(高24回)、会員数は平成30年現在27人。



役職	氏名	高回数
会長	高橋兼次	高16回
副会長	須沢隆	高17回
相談役	米山大恵	高5回
山岸忠雄	高15回	
事務局	宮田栄	高21回
田中亮	高47回	
会計	小岩重徳	高21回
関根盛敏	高48回	
監事	簾藤正徳	高16回
戸野倉光政	高24回	

会報

新座初雁会

新座初雁会

● 新座初雁会 副会長
石井 信行(高15回)

創立100年機に発足

新座初雁会は、母校川高が創立100周年を迎えたことを機に、平成10年4月22日、金子満彦発起人を筆頭に15人が集まり初めての協議を行い、続く5月15日に第2回目の打ち合わせを重ねた。その後、創立に向けて同窓生に呼び掛けたところ、5月24日に創立総会を開催することができた。

当日は27人の同窓生が集まり、来賓として渋谷川校同窓会長を始め6人の方々が駆けつけてくれた。総意により金子満彦氏を初代会長に、並木志和氏、荻島浩氏を、それぞれ副会長に選出して発足した。

活動状況

当初雁会は、役員が参集しての幹事会の開催。

川高同窓会長・川高校長・志木初雁会会長・和光初雁会会長・朝霞初雁会会長をお招きしての総会と懇親会を開催している。

毎年、川高同窓会と近隣初雁会に参加している。

また、毎年恒例の秋季散策会へ参加。

報を発行をしている。

鋭意、会員の増強活動をしている。



役員

会長	並木志和
副会長	渡辺 寛司
副会長	細沼 利輔
幹事(兼幹事長)	新井 徳一
幹事(兼会計担当)	石井 信行
幹事	飯田 益朗
幹事	小山喜代司
幹事(兼総務担当)	山崎 糧平
監事	細沼 勇
監事	星野 源一
会員数	27人



平成 29 年の総会で記念撮影



平成 10 年の創立総会

朝霞初雁会

朝霞初雁会

●朝霞初雁会 会長
比留間 明(高18回)

陸上部OB中心に発足

昭和20年代後半から30年代前半にかけ、朝霞の中学校は陸上競技が盛んで成績の優秀な人が多くいた。その中で川越高校に入学した小寺貞安・池田政雄・故荒木幸男・橋本正彦・故須田秀夫の各氏は、高校時代も陸上部で活躍し、松本先生の指導の下、さらに成績も向上した。

各氏が高校卒業後は、大学駅伝、特に箱根駅伝では優秀な成績を収め、「朝霞にこの人あり」と言われる様になった。

1999(平成11)年10月に川越高校が創立100周年を迎えるにあたり、朝霞市在住・在勤の同窓生の親ぼくと母校の発展に寄与する目的で、朝霞初雁会を結成する機運が高まり、そこで、元陸上部の小寺・橋本両氏が起案者となり、同じく元陸上部の4人が発起人として加わり、設立に向けての準備が進められた。

発起人代表に小寺貞安氏が選出され、総会の日程・式次第・周知方法などが協議された。1948(昭和23)年から川越高等学校朝霞分校(定時制)が開校され、1969

(昭和44)年の廃校まで、多くの卒業生が巣立った。川越と朝霞分校両校で、朝霞市在住者が600人に及ぶという事で、全員に初雁会入会希望調査が実施された。その結果、83人の入会希望者があり、設立総会を1999(平成11)年10月24日と決めた。

朝霞地区四市にとっては、志木・和光・新座初雁会に次ぐ最後の設立となったが、来賓7人を含む総勢50人の盛大な設立総会となった。

総会・懇親会で体験談

朝霞初雁会会報は、設立から7年間位は毎年発行されていましたが、発起人の一人でもあり、会報編集に尽力された須田秀夫氏が急逝され、その後発行も途絶え、今後の課題となつている。題字については、「切り絵」の世界では県下第一人者と言われている池田要先生(昭和17年卒)に作成していただいた。



朝霞初雁会の事業は、毎年8月開催の定期総会だけだが、案内を発送し、出欠の返事を頂く時に近況を書いていただき、総会資料に添付している。総会後の懇親会では、近況報告とともに体験談などを披露し、和

やかな時間を過ごしている。最後は全員で校歌を斉唱して締めくくる。

若い会員増が課題

設立当初は83人でスタートしたが、現在では会員数は53人となり、総会出席者も15人前後と年々減少傾向にある。特に若い年齢層の人達は、地元に住居していても都内や地元外で仕事をしている人が多いので途中で連絡が途切れたり、音信不通になることが多々ある。

自宅訪問や電話連絡も試みているが、若い人達をいかに勧誘し、会員増加を図るかが今後の大きな課題となっている。



平成30年の懇親会



平成30年の総会で

所沢初雁会

所沢初雁会

● 所沢初雁会 事務局長

齊藤 清(高19回)

100周年機に発足

所沢初雁会は、母校川越高等学校の1899(明治32)年創立から100周年という記念すべき年の1999(平成11)年5月29日に設立された。

誕生の背景には、近隣の飯能・入間等においてそれぞれの地区名を冠とした同窓会(初雁会)を設立し、親交を深められていたこと、所沢市内にも各界で活躍されている同窓生や、母校に進学される市内中学生が数多くおられたことがあった。そこで、所沢地区においても母校の創立100周年に当たり、市内在住・在勤及び出身者の同窓生の親ぼくを図るとともに、母校の更なる発展の手伝いができないかと有志が集まり設立された。

設立に当たっては、1998(平成10)年10月に川越中学校、川越高等学校所沢地区同窓会設立準備会において、旧中36回卒から高校30回卒までの38人の出席により同窓会を設立することが承認。その後、他地区初雁会の運営状況や会則等を参考に、10数回の打ち合わせが重ねられた。翌年5月29

日に設立総会を開催。初代会長に川中44回卒の河内昭次氏を選任、会員数は388人、「会員相互の親ぼくを図ること」「母校の発展に寄与すること」を大きな柱とした規約のもとスタートした。

その後、二代目糟谷英二氏、三代目田中喜八郎氏が引き継ぎ、現在は四代目の斎藤博会長の下、副会長4人、顧問5人、幹事22人、監事3人の役員により運営。

2018(平成30)年度の会員数は323人。

主な活動状況

主な活動としては、毎年度5月に役員会、7月に定期総会、2月に学年代表者会議を開催。定期総会では、

本会の活動状況や事業の報告の他、同期生はもとより、幅広い年代



の同窓生との親ぼくを深められるよう懇親会を企画。ご来賓に同窓会長・校長をお迎えし、同窓会の活動状況や在校生の様子などのお話を、さらに各界で活躍されている同窓生を講師にご講演いただき、その後の出席者全員による記念撮影も恒例となっている。

近年の講演会

なお、近年の講演は次のとおり。

平成27年度 東北大学大学院工学研究科・医学系研究科教授 高橋明氏(高23回)

「東日本大震災の体験と音楽による復興支援の試み」

平成28年度 元NHKアナウンサー・法政大学スポーツ健康学部教授 山本浩氏(高24回)「変わり始めたスポーツ界々する・見る人の時代」

平成29年度 所沢市環境クリーン部参事 小高大輔氏(高56回)「地方創生・群雄割拠」もし所沢市が一つの国だったら」

平成30年度 川越高等学校同窓会事務局 長 岡部恒雄氏(高15回)「川高同窓会の歴史と将来展望」

毎年、母校図書館に寄付

その他、毎年度会報を発行しており、校長の寄稿や会員の在校時のエピソードやエッセイ等を掲載。また、母校の発展に寄与するため、毎年度1月に母校図書館の「所沢初雁文庫」へ寄付。母校同窓会や他地区初雁会との連携として、同窓会総会「川高初雁の森」植樹祭、秋季散策会への参加などを通じ、交流を図っている。2018(平成30)年度に所沢市で秋季散策会を開催した折には、多数の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。



平成11年5月 所沢初雁会設立総会

狭山初雁会

狭山初雁会

● 狭山初雁会 会長
大野 惣平(高15回)

発足のいきさつ

狭山初雁会は、2004(平成16)年6月に設立。

発端は2003年の春、隣の入間初雁会のI氏に「狭山でも初雁会をつくったら」と勧められたことによる。早速ロータリークラブの仲間であった高柳清氏(中45・46回)と小林公男氏(高15回)が動いた。8月には商工会や市役所等の同窓生を中心に設立準備会を立ち上げ、本校や近隣の初雁会の支援も得ながら、翌年6月12日(土)の設立総会にこぎつけた。狭山市内には約1600人の同窓生がいたが、中34回〜高37回の159人が入会、うち84人が総会に出席した。設立の中心的役割を果たした高柳清が初代会長に、武藤勝(高12回)が初代事務局長に就任し、狭山初雁会がスタートした。

主な活動

本会の主たる活動は、総会・会報・散策会・ゴルフコンペである。

総会は、例年6月の第二土曜日に市内の東武サロンで開かれる。毎年本校同窓会長、校長、近隣の入間・飯能・日高初雁会の会

長にご臨席いただいている。議事終了後は記念講演・懇親会と続くが、最近では会員の出席が徐々に減っており、気がかりなところである。

A4判8頁の会報

会報は、A4判8頁。内容は会長挨拶、本校同窓会長・校長のご寄稿、会員の随筆、俳句・写真・

絵画等の作品、諸活動の記録、事務局からのお知らせ等である。なお会報の題字は会旗の文字と共に牛窪勲(号・梧十)氏(高15回)に揮毫していた。

バスで県外散策会も

散策会は、初回到川越の母校や博物館・美術館を訪問。以降は近隣の大学、工場、展示施設等を見学してきたが、種も尽きたので、2014年からは市内の旅行会社のバスを仕立て県外まで足を延ばしている。行先や工程は事務局で企画し、これまで世界遺産・富岡製糸場、筑波宇宙センター、



葦崎大村美術館、海洋研究開発機構横須賀本部、鎌倉英勝寺等を探訪。

ゴルフコンペは、初回は本会のみで行ったが、大勢の方がよいと、翌年からは入間初雁会との合同コンペに切り替えた。幹事役を交代しながら近辺の名門コースに挑戦し日頃の鍛錬の成果を試している。

これらの諸活動を企画運営するため、役員会を年5〜6回開いている。

独自の「会歌」を斉唱

本会は、会歌「狭山初雁会の歌」を持っている。この歌は音楽の教師であった安永郁郎氏(中34回)が作詞作曲し、2011年の総会懇親会で披露されたものである。翌年「設立10周年記念事業」の一環としてこの歌のCD化を計画。伊藤勉氏(高14回)にご協力いただき、作曲・編曲者神保正明氏に依頼して完成した。マーチ調の元気のいい曲で、以後本会では総会の冒頭や散策会のバスの中でこのCDを流し全員で斉唱して雰囲気盛り上げている。

なお、会長は2014年から松井頼敏氏(高4回)、2018年から大野惣平氏(高15回)、事務局長は2012年から佐伯一平氏(高14回)が就任。2018年6月現在の会員は中42回〜高38回の129人、役員は会長以下事務局・学年幹事等を含め25人。

越生初雁会

越生初雁会

●越生初雁会 事務局長
浅見 登(高18回)

創設の経緯

既にいくつかの地区に初雁会という同窓の仲間の組織が存在し、有意義な活動を行っているとの話が伝わってきた。「越生にもどうだろう」という話があちこち出てきていた。

そしてその機運が盛り上がり、石田雄介氏(中学47回・高校1回)を代表とする越生初雁会発起人会(約8人)が2008(平成20)年11月に発足した。そして会則の内容等の検討を行い、設立総会に向けて準備を進めていった。

設立総会は川越高校をお借りして行う方向でまとめ、施設使用許可願を校長宛に提出。川越高校には同窓会専用の室があること、また当



第10回越生初雁会定時総会/2018/4/22

時の校長が越生初雁会発起人会の吉澤優氏(高校19回)であったことなどから地元の越生ではなく川越高校で行うこととなった。

設立総会は2009(平成21)年4月26日(日)に行われ、初代会長には石田雄介氏が選出され、越生初雁会が誕生。当初65人の会員数であり、各地の初雁会の中で19番目の設立となった。越生在住の会員や越生出身で越生以外に在住の会員も多数参加し、また田中正川越高校同窓会長、松下幸夫校長など多くの来賓の方にもご臨席いただいた。

役員・会員数等

発足から10年目を迎え、会員数は現在65人、年会費は2千円、年間活動予算は約30万円である。歴代会長は、初代石田雄介氏(平成21年～平成22年)、第2代加藤博之氏(平成23年～平成28年)、第3代吉澤優氏(平成29年～現在)。役員は現在13人(会長1名、副会長2人、監事2人、幹事8人)である。

主な事業

年2回の役員会(4月、1月)、定時総会(4月)、会報発行(6月、これまで10号発行)、松山高校同窓会毛呂山・越生部会との合同散策会(3月、平成28年から3回実施)

定時総会では記念講演と懇親会を同時開催している。記念講演の講師は基本的に同

窓生にお願いしてきた。

これまでの活動で特筆すべきは2012(平成24)年10月14日(日)の川越高校同窓会秋季散策会。発足4年目の越生初雁会が主体となり「越生の自然」を満喫して好評の内に終了できた。参加者は72人、懇親会も盛況だった。同窓会の皆さんに越生初雁会のまとまりの良さをアピールできたと思う。

越生初雁会の楽しみ

懇親会などでの先輩方の話から学ぶことが多い。後輩の話からも多くの学びがある。これこそ同窓会の楽しみであり、存在意義の最たるものと思う。特に越生という遠くの地から通学したということそれだけで親近感がある。そして共通の話題が多くある。通学方法(東武越生線以前のことなど)、越生の歴史・その移り変わり、他校に通学された同郷の方々のことなど話題は尽きない。

今後の課題

若い同窓生をどう誘って会員を増やしていくか。そして他の組織とのコラボレーションをどう図っていくかなどが挙げられるが、気負わずあせらず会の歴史を刻んでいきたい。



平成24年度川越高校同窓会
秋季散策会懇親会

川越初雁会

川越初雁会

● 川越初雁会 会長

岩堀 弘明(高8回)

発足までの足どり

川越市内在住者で川越高校を卒業した人は多いが、同窓会に関心を持つ人は比較的小さい。だが各地には19の初雁会が組織されている。この人たちから「川越に初雁会があったほうが良い」との言葉を耳にするようになった。また同窓会からも設立を期待されているという。

そこで同窓の皆さんに川越初雁会創設の話をしてくうち、川越在住で部活動のOB会に参加している人を中心に、積極的に協力してくれるようになっていった。主に私(高8回)より先輩の方々になつていただいた。また山岳部OB会で運営を担ってくれている若い人達にも積極的に応援してもらった。同時に「ゴルフ会をつくり、川越初雁会のコンペをやりたい。それなら参加する」という人も多くて、これも誕生への大きなステップになった。

8年前に産声

2010年春から準備、初代会長に元埼玉県副知事の関口一郎氏(高5回)をお願いすることができた。永年各界にわたり後輩

の指導を続けてこられた関口先輩に会長を引き受けていただけたことは幸いだった。発起人の皆さんの尽力で298人の登録者を得て、翌2011年9月3日に氷川会館にて設立総会を開催。当日は川越高校の文化祭「くすのき祭」の日。卒業以来足が遠くなっている母校の校門をくぐり、生徒の活動を目にしてから、近くの氷川会館においていただきたい、との思いから毎年くすのき祭に合わせて総会を行っている。

会員には氷川会館に足を運ぶことが困難な方もいるので、会報やホームページ(H P)などを通して情報を伝達。会報は木下重美(高11回)広報委員長以下5人の委員の手で、8月1日と2月1日の年2回発行している。

また澤田正氏(高17回)の手によりHPを開設し、総会や年2回の講演会・散策会・ゴルフ会など欠かさず開催。今年からは圓山壽和氏(高17回)の呼び掛けで、藤沢周平作品の読書会を行っている。長島威氏(高13回)のご厚意で料亭「幸すし」にて開催。懇親会が楽しみでもある。

講演会後に在校生と交流

会員数は発足後、多い時で362人となったが、さまざまな事情から90人を超える方々が退会され、替わって高30回以下の会

員が増加して、現在330人となっている。毎年春の講演会は理科系の研究職の卒業生に講師をお願いしている。これは現役川高生を聴講させるための配慮で、講演後、講師と現役生徒との交流には、かなりの時間を割いている。地元川越初雁会が母校の発展に貢献することを念頭に置いている。



入間川源流を訪ねて

富士見初雁会

富士見初雁会

● 富士見初雁会 事務局長
金子 勝(高31回)

平成最後の年に発足

平成から令和と時代が移り行く中で、年号が変わる前の平成31年2月24日、多くの皆さんのお力を頂いて「富士見初雁会」を設立することができ、同窓会組織に参加できることになった。すでに活発な活動をされている先輩初雁会の活動を参考にしながら、会の歩みを進めていきたいと考えている。

富士見市在住の同窓生の間で、かねてより同窓会設立への話が立ち上がっては消え、立ち上がっては消えを繰り返し返されてきた。一方同世代間での交流は、これまでも居住地を超えて行われてきた。特に部活動等で育んできた友情は、今でも強い絆になって旧交を温めてきている。

120周年の節目が後押し

そんな中、学校創立120周年を迎える年に富士見市でも、市内在住の異なる世代の交流の場としての同窓会を「富士見初雁会」として設立しようという声が上がった。それまで幾度となくあった設立への動きが具体化することができたのは、やはり創立120周年という節目が大きく後押しをし

てくれた結果であったと思う。そして設立への具体的な動きが始まっていく際には、多くの同窓生の温かいご理解とご協力を頂くことができた。

最初に数人の発起人で意見交換を進め、設立準備会の発足をし、設立総会に向けての協議を重ねた。まず中心となる組織作りから始め、設立時点においてはすべての市内に在住の約800人の卒業生への案内ではなく、平成11年卒業以前の方々に声をかけようということになった。それでも約340通の案内を送ることになり、事務を担当していただいた方々にはご苦労をおかけした。同窓会の名簿を利用したものの、宛先不明やすでに市街に転出された卒業生も多くあったが、返信には参加されない方からも温かいコメントが多くあった。最終的には34人から設立総会への参加、「富士見初雁会」への入会の返信を頂き、スタートすることができた。

アドバイス胸に第一歩

設立総会の当日は、菊池同窓会長や岡部事務局長をはじめ近隣の初雁会会長に参加いただき、錦上花を添えていただいた。総会後の懇親会では思い出話に花が咲き、楽しいひと時になった。また、近隣の初雁会の会長さんたちからは会の運営に対し参考

になるアドバイスを頂いた。

設立後の新たな一歩をどう歩んでいくのかに今後の課題はあると思う。今後は会員の更なる拡大を目指すとともに、入会していただいた会員の皆様にとって価値ある組織とすべく一歩一歩活動を進めていきたい。

最後に「富士見初雁会」に入会していただいた同窓生の先輩諸氏にまず感謝申し上げますとともに、設立までの事務的なご指導を頂いた川越高等学校同窓会事務局長岡部恒雄様に心より感謝申し上げます。



平成31年 設立総会

初雁医会

初雁医会

●初雁医会 会長

原田(旧姓小室)雅義(中45・46回)

「国家百年の大計は教育にあり」と言われます。歴史と伝統を誇る母校は各々の分野に於いて、多くの逸材を輩出しています。

私の父小室順平(医師)も川中4期、日露戦争の翌年に卒業しております。父が高齢となり数少ない友人から連絡があり、会う日取りも決まり大変喜んでいましたが、当日友人死亡の報せを受け、非常にがっかりしておりました。私の同窓生の中で、医師になったのは確か13人だと思いましたが、音信不明の方もおられたので、父の二の舞を踏みたくないと考え、初雁医会の必要性を思い立ったのであります。

そこで、同窓の医師である上福岡町の島田早苗先生(東入間地区医師会会長、中45・46回)と相談、先輩の関根迪式先生(入間地区医師会会長、中42回)にOKを頂き、取りあえず2人が初雁医会の幹事をやり、始めようと決まったのが平成10年頃。発起人の1人であった私が事務局となり、まず同窓会名簿より医師を拾い出しました。各々安否を確かめることは大変な仕事でした。その後、島田先生と連絡を取り合いな

がら、昭和11年から平成元年の範囲に絞り、約279人の医師を記録に残すことができました。

第1回は川越プリンスホテルで平成13年5月12日に会員60人出席の下に行われました。その後2、3、4、5回と順調に開催。第2回以降も同じく川越プリンスホテルにて、石井道夫(高8回)、石井俊昭(高19回)、広沢信作(高21回)、瀬川豊(高21回)、利根川洋二(高25回)、山岸業弘(高27回)、杉本秀芳(高27回)、宮本直政(高27回)野崎信行(高28回)の諸先生方及び武田薬品にバックアップしていただいて会の円滑化も軌道に乗り、今日の体制を築き上げた次第であります。

以上説明した如く、初雁医会は誠に心強い極めであり、母校の益々の御発展及び初雁医会の御隆盛をお祈り申し上げます。

入間地区医師会は、以前は入間郡医師会の中にあり、川越医師会が中核でしたが大正11年に川越市医師会が独立し、時代の流れとともに変遷、平成19年までは狭山、入間、坂戸・鶴ヶ島、毛呂山・越生町の4ブロックで構成され、浦和、大宮、川口に次ぐ多数の会員数を誇っております。

現初雁医会役員

名誉会長

田口健次郎(中41回)

田口医院

(川越市)

関根 迪式(中42回)

坂戸中央病院

(坂戸市)

斉藤 達(中42回)

斉藤眼科医院

(狭山市)

会長

原田 雅義(中45・46回)

原田医院

(入間市)

副会長

石井 道夫(高8回)

石井胃腸科外科

(飯能市)

幹事

石井 俊昭(高19回)

池ノ台病院

(鶴ヶ島市)

瀬川 豊(高21回)

瀬川病院

(小川町)

廣澤 信作(高21回)

広沢内科クリニック(狭山市)

杉本 秀芳(高27回)

彩のクリニック(所沢市)

柴崎 敦夫(高34回)

柴崎皮膚科医院(毛呂山町)

会計

松本 雅彦(高25回)

松本医院 (さいたま市)

野崎 信行(高28回)

耳鼻咽喉科野崎医院(小川町)

監査

小川 郁男(高18回)

鶴ヶ島在宅診療所(鶴ヶ島市)

利根川 洋二(高22回)

とね川医院 (さいたま市)

連絡先 原田病院

TEL 041296211251



第1回初雁医会の先生(於 川越プリンスホテル)

野球部OB会

●野球部OB会 会長

齊藤 栄(高22回)

2018年に創部100周年

2018(平成30)年12月1日、野球部創部100周年記念式典が100人の参加で盛大に行われた。小山友清・埼玉県高等学校野球連盟専務理事、松下英志・毎日新聞さいたま支局長を始めとする多くの来賓を迎え祝辞を頂いた。

創部100周年史を来賓及び申込者に配布した。

2013(平成25)年4月のOB会役員会にて野球部創部100周年の件が議題に上がり、その準備を役員全員で対応していくことが決まった。100年史作成実行委員会を立ち上げ、2016(平成28)年10

月に第1回実行委員会を川高同窓会室で開催し、編集作業が本格化した。

2年の年月をかけて、100年史は完成。しかしながら、70年史の足元にも及ばず、満足な出来とは言えなかった。

100年史刊行にあたって、八田英二・日本高等学校野球連盟会長をはじめとする多くの方々にお祝いのお言葉を頂いた。また、揮毫は故渋谷健先生(元日本高等学校野球連盟副会長・元川越高校校長)の奥様渋谷成子様にお願ひした。「健先生もOBも喜んでくれると思います」とお話ししたところ、喜んでお引き受けいただいた。

母校は1957(明治32)年に県西部に第三中学校として創立。翌33年には校友会に野球部費が計上された。しかし、初めて対外試合を行った1918(大正7)年を創部の年としている。2018(平成30)年、創部100周年を迎えた。

大正11年に夏の甲子園

1922(大正11)年、夏の甲子園予選(関東大会)に初出場。4年後からは北関東大会となり、1930(昭和5)年は準決勝に進出した。

翌年、新チーム結成以来の戦績等が評価され、第8回全国選抜中学校野球大会に出場。初めて甲子園の土を踏みました。最

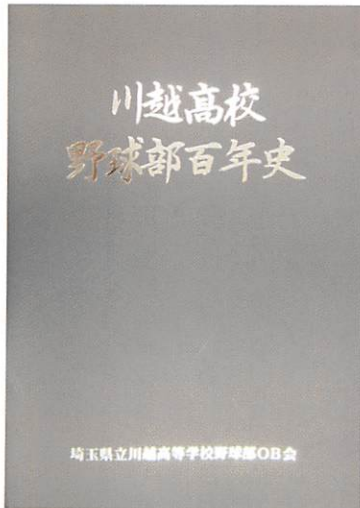
も遠くからの参加校であることから野本主将(中30回)が選手宣誓の大任を負った。

出発前の最後の猛練習を球界の元老飛田穂洲氏他より受けたが、中京商に0対11で敗退した。これが中京商の甲子園百数十勝の出発点となった。

この年からは北関東大会の予選として、埼玉大会が12校で開催。昭和6、10年と県を制し、6・7・10年は北関東大会で準決勝に進出した。

1936(昭和11)年からは南関東大会となり、その年の埼玉大会で優勝し、南関東大会に出場。1941(同16)年は県大会で準優勝。1951(同26)年は県大会ベスト4、1953(同28)年は県大会準優勝。翌年は18年ぶりに県大会で優勝。それぞれ南関東大会に出場した。1956(同31)年秋、県大会準優勝。1958(同33)年夏は、40回の記念大会で県の優勝校が甲子園出場というチャンスの年だったが決勝で大宮高に敗れた。

その後、新チーム結成と同時に家村相太郎氏(中34回)が監督に就任。1959(同34)年春、県大会で優勝し関東大会に出場。夏も優勝、吉田投手は県大会のすべて43イニングを無失点で投げ抜きました。この年から西関東大会となったが、甲府工に勝ち、



百年史表紙

念願の夏の甲子園に出場。甲子園では鎮西を3対1で破るが、高知商には0対1で惜敗。



甲子園入場行進

その後、夏は1963(同38)年にベスト4、昭和39、40、42年にベスト8の戦績を残した。秋は1971(同46)年に決勝に進出した。

平成16年、マスターズ出場

2004(平成16)年、OBチームの大会である第1回「マスターズ甲子園」が開催。2006(同18)年、長瀬裕則氏(高41回)を中心にチームを結成。そして、平成22、24、28年と3回甲子園に出場した。2009(同21)年7月、甲子園出場を懸け、秩父農工と対戦。9回に7点差を追いつき延長11回、13対12でサヨナラ勝ちした。そして翌秋、第7回大会に初出場。対

戦相手は何とちよūd50年前の夏の甲子園大会で対戦した鎮西高校だった。そうしたこともあり、多くのOBが応援に駆け付けてくれた。応援部・吹奏楽部のOBもスタンドに結集。甲子園球場に校歌・応援歌が流れた。



マスターズ甲子園初出場

3回目の出場となる2016(同28)年は鳴門渦潮高校と対戦。9回裏に3点を入れ4対3でサヨナラ勝ちし甲子園初勝利を

飾った。どの大会も応援部・吹奏楽部のOBが駆け付け、大会関係者を感動させている。

ちなみに、マスターズ甲子園の映画「アゲイン」の主人公の所属チームは「川越学院」で、川越の街並みも流れた。

学校創立120年、現役諸君の更なる健闘を期待している。

なお、「野球部100年史」は残部があり、ぜひともご購入を。



スタンドで

柔道部OB会

●柔道部OB会 会長
二本松 敬太(高27回)

二本松教諭の着任機にOB会

1993(平成5)年4月より、本柔道部のOBである二本松敬太教諭(高27回)が、県立旧大井高校より転勤し柔道部顧問となった。この転勤を特に喜んでいたのが、二本松教諭の高校時代の恩師である齊藤市三先生と松本豊二先輩(高19回)であった。二本松が教員に転職した大きな目標の2つは、高校生に柔道を教えて非行をなくすことと、母校の柔道部に戻り後輩を指導することであった。彼は、先ず旧道場の隅々まで清掃をし、かつ古い書類等を整理した。

するとなんと、黒江春海先輩(高22回)が残した手書きによるOBの名前が書かれた古いノートが見つかり、二本松が知らない名前も沢山書かれてあった。

それと同時期に、松本先輩や齋藤市三先生とお会いし、川高柔道部OB会を設立・発足できないかという話があり、その古いノートをベースとして柔道部OB会の発掘のスタートになった。

古いノート手掛りに連絡

そのノートには、約80人の名前が記され

てあり、二本松は先ず往復はがきにて、宛名は川高会員名簿で調べ、返信はがきには、高〇〇回、名前の欄を10数行書き、郵送したOBの方々の前後の柔道部の知る限りの名前を書けるようにしたのである。

すると数日後から、続々と返信はがきが届いてきた。二本松は、授業と稽古(けいこ)の合間に年代別に手書きで整理した。そして新しい名前を発見した時には、その方に前記した同じ往復はがきを郵送した。するとまた新しいお名前が発見された。これを新しい名前が出尽くすまで繰り返した。これらを卒業年度別にして、郵便番号・住所・電話・職業(勤務先)を手書きでまとめた。この時点で、約350人のOBの方々を発掘できた。

平成6年に初のOB総会

次に、OB会発足に向けての第1回OB総会の開催を準備。二本松・松本先輩と相談し、OB会発足を平成6年2月19日、川越プリンスホテルで開催。OBの方々に往復はがきを約350通送った。当日は74人が参加。「川越柔道クラブ」という名称の下、会長は松本豊二氏、副会長は豊田正幸氏(高20回)と大門康彦氏(高31回)、幹事長は黒江春海氏(前出)、副幹事長は小山淳氏(高32回)と中村健司氏(高37回)、

事務局は二本松敬太氏(前出)、監事は小澤朝一氏(高18回)、また相談役として恩田和也氏(高1回)・関口一郎氏(高5回)・大西政一氏(高16回)・鈴木勲二先生(元顧問)・齊藤市三先生(元顧問)をお願いした。

それから24年、2018(平成30)年2月10日には第25回OB総会を開催。

現在は、役員交代として会長兼事務局、二本松、副会長、幸島雄一氏(高29回)、池田隆人氏(高31回)、幹事長、柴山修氏(高41回)、副幹事長、青木幹太氏(高63回)をお願いしている。また新道場には、2000(同12)年に念願の約500人のOB会員全員の名札を二本松が書いて、掲げることができた。

現在、顧問は二本松の後、柔道専門である山崎邦俊教諭(高31回)、吉本真司教諭、そして鎌塚智樹教諭が指導。



OB会員の名札

剣道部OB会

● 剣道部OB会 会長
今栄 亮一 (高27回)

関東大会準優勝に出会い

関東大会準優勝、強烈な出会いだった。50年前の柴生田健司顧問の時代、入学後の1972 (昭和47) 年春である。その後3年次に関東大会出場、高校総体へは個人で小高守 (高26回・S48年) 羽田聡 (高27回・S49年) と続いた。21日間の寒稽古 (けいこ) は厳しく辛かったが鍛えられた。

「一步」への挑戦

道場に「一步」の額が懸けられている。それに先立つ1962 (同37) 年から8年間顧問として生徒を導き、現在に至る剣道部の基礎をつくった豊島正夫氏 (後の埼玉県剣道連盟会長) が行った100日寒稽古の文集の題名 (100日寒稽古は80周年の記念誌に詳しくある)。昭和・平成と我々はこの「一步」の精神の下で稽古を積み重ねてきた。「一步」は一つ先の高みへ歩を進める、一番への挑戦、唯一無二の自分を確立するなど、何事へも臆することなく挑む心を持ち続ける大切さを我々に…。文武両道を目指し道場に立つ部員の魂に炎がともった。いつの時代でも己に厳しく妥協することなく、自己と対峙し成長させてきた。

「剛旗」の下で

旧制中学から続く歴史と伝統のある剣道部の活動を経て1993 (平成5) 年、

水野仁 (高6回) 会長の下、新生OB会が発足した。

初代・水野仁 (高6回・H5〜16)、二代・伊田登喜三郎 (高22回・H17)、

三代・柴生田建司 (高18回・H22〜29)、四代・今栄亮一 (高27回・H30)、現在は会長・今栄亮一へと受け継がれ、山本隆浩 (高55回) 現顧問を支援し、会員数は550人を超えている。

主な活動は月例の稽古会、8月の総会・懇親会、現役生徒への支援と6校合同稽古会 (浦和・川越・松山・不動岡・熊谷・春日部のOB) への参加等である。

2004 (平成16) 年には剣道部50周年誌 (昭和4



平成17年度埼玉県立川越高等学校剣道部OB総会

年々平成16年々近現代部活動史) を発刊。戦前からの貴重な活動の記録や、戦後の一時期、剣道が禁止されていた当時、剣道復活に尽力された内容も記録。
鍛えられし者が歴代顧問として

柴生田建司 (高18回・S45〜58)・今栄亮一 (高27回・S59〜H4)・森田智裕 (高34回・H5〜14) 五十嵐政則 (H14〜19)・新井敏彦 (高44回・H18〜24)・山本隆浩 (高55回・H27〜現在) が、顧問として続いている。柴生田に鍛えられた今栄・森田、今栄に鍛えられた新井・森田に鍛えられた山本がOBとして母校に戻り、次世代を担う若人を鍛え続けている。「剣」の道で身体的・精神的に十二分に鍛錬し、「文」のしなやかさと「武」の強さを併せ持つ芯の強い人材の育成へと取り組みを続けている。

「武」の道を

初代会長の水野仁 (高6回・剣道範士八段)、森田智裕 (高34回) も2014 (平成26) 年に八段を取得。OB会は剣道の最高段位である両八段に続き、「武の道」を極めんと切磋琢磨している。「くすの木」に見守られ、稽古に汗した日々を胸に、卒業後も剣の道を歩み続け修練できることに喜びを感じつつ、稽古会などでの再会を楽しみにしている。



剣道部50周年記念誌

庭球部OB会

●庭球部OB会 会長

永塚 明(高25回)

庭球部の名称でOB会

現在の競技名はソフトテニスであるが、わが校の伝統に従い「庭球部」の名称を使用する。契機は小生が高校時代に部室で庭球部卒業生名簿を発見し、卒業後、1983(昭和58)年にそれを清書した。

その名簿をベースに、故田中啓彦先生と故石井正雄先生が顧問をされていた時代にお世話になった世代を中心に第1回OB会が企画された。両先生が校長・教頭にそれぞれ昇進されたのを記念し、祝賀会を兼ねて開催した。



第1回OB会 1988年5月22日

ている後輩諸君に幹事として協力を依頼。1988(同63)年5月22日に第1回OB会を開催。

第1回からしばらくは、その形式で5年ごとに開催。川高創立100周年を契機に、全世代のOB会を企画することになり、2000(平成12)年の第5回を機に、川高見学やコートでのテニスをする企画も加えられ、今回で9回目を迎える。

今回から、川越高校120周年を記念して新たに規約を作成。隔年2月開催・会長など役員を選出し、組織の体裁を整える予定。2019(平成31)年2月16日に実施する第9回OB会が、その新体制によるスタートの会となる。

現役生の合宿に寄付金

従来の主な活動内容としては、総会並びに懇談会を定期的に開催し、OB間の親ばくを深めてきた。また、OB会開催当初より、懇親会の残金や、OBに寄付金をその都度募って会費とし、現役生の合宿を激励し、県外大会出場に対し補助を行うなど現役生への支援を行っている。

現在の会員数は、650を超える。親子二代でOB会員となっているケースも多々ある。これまで開催のOB会は、

第1回昭和63年 第2回平成5年

第3回平成6年
第4回平成9年
第5回平成12年
第6回平成17年
第7回平成22年
第8回平成29年



第5回OB会 2000年2月26日

硬式テニス部OB会

● 硬式テニス部OB会 会長
島崎 宏音(高61回)

現役部員をサポート

硬式テニス部OB会は設立から日も浅く、結成当初から学生が主体となって活動してきたこともあり、他クラブのOB会とは少し毛色が異なるかもしれません。まだしっかりとした運営体制が整っていない現状もありますが、「現役部員の活動をさまざまな面からサポートすること」と「OB同士の交流を深めること」を共通目的として、会員各々が少なからず自由に活動できる環境が用意され、実践されています。

設立の経緯

硬式テニス部が部活として活動し始めたのは2010年から。それまでは同好会という位置づけの組織でした。外部のテニスコートを利用するため活動頻度も不定期、学年間のコミュニケーションもほとんどない状況であり、お世辞にも「真つ当な」組織とは言えません。私自身、練習環境や活動費の面で不自由を感じる場面が多かったです。それでも、仲間と共に練習メニューを考え、合宿や練習試合を組み、県

大会出場を目標に活動した経験は何にも代

えがたい貴重なものでした。それと同時に、最低限の環境と熱意だけの活動に限界を感じていました。そんな悶々とした気持ちを抱え大学に進学した折、同好会が部活に昇格することが決まり、それに伴って「OB会を結成しないか」という打診を当時の顧問である仲村佑先生から頂きました。2012年に各代の代表者が招集された場で結成が承認され、私も会長職を二つ返事で引き受けました。今では会員は100人を超え、着実に組織として機能。これからも現役部員の活動を少しでもサポートし、卒業してからも世代を超えて交流を深められる場を提供していければと考えています。

活動状況

「現役へのサポート」

- ・ 寄付金の贈呈
- ・ サポートメンバーとして現役の練習会に参加

「OB同士の交流」

- ・ OB総会(年1回)
- ・ 会員名簿の作成および改定(年1回)
- ・ テニス交流会(不定期)
- ・ 懇親会の開催(不定期)

役員、会員数

会長 島崎宏音(高61回)
役員 横田泰斗(高55回)
役員 松田明(高64回)
会員数 127人



陸上競技部OB会

●陸上競技部OB会 事務局長
栗原 忠男 (高20回)

陸上競技部の歴史

我が部は、大正8年に発足した徒歩部が前身とされている。川中時代には昭和2年、法友倶楽部主催関東陸上競技大会に出場した競技部木下正平選手(中26)が800mで優勝。ベルリンオリンピックに出場した鈴木間多選手(中28)は昭和5年全国中学校陸上競技選手権大会1000m2000m優勝という輝かしい記録がある。

昭和9年に川越中学校陸上競技倶楽部が誕生。高校となってから陸上競技部と改称。松本利雄先生のご指導の下、昭和26年紫藤研一選手(高4)が全国高校東西対抗陸上競技選手権大会走幅跳で優勝。26年全国高校駅伝初出場6位入賞、翌年には3位入賞



松本利雄先生を囲んで！
全国大会入賞メンバー。高校駅伝全国大会仕様のユニフォームを着用している。

した。1区を走った木村昭夫選手(高6)は、28年度全国高校陸上競技大会(インターハイ)では5000m

優勝。さらに黒田栄次選手(高12)は全国高校東西対抗陸上競技選手権大会5000m2連覇と西部の雄としての時代が続いた。

陸上競技部OB会の発足

陸上競技部初代顧問である松本先生を囲む会が不定期に開催されていたが、その後20年生までのOBが集う「川高紫陸友会」が組織化され、時に陸上競技部の要請にこたえ活動費援助などの活動を行ってきた。



第7回定期総会
校長・恩師・保護者などの来賓を合せ
80人余りが出席

顧問から「埼玉国体の影響で活動費がカットされ運営に苦しんでいる。OB会をつくり継続的に援助してもらえたら」という申し出があり、諸先輩と相談し1年ほど準備期間を設け平成18年1月、約200人が集い「埼玉県立川越高等学校陸上競技部OB会」は発足。

OB会活動と現役支援策

陸上競技部に在籍したOBは1千人を超える。うち約700人の現住所が判明。年会費は(3千円2年分を徴収。学生は半額)平均して納入者は150人余り。活動は隔

年開催の定期総会、会報「あすりーと」の発行。ホームページは(<http://rikujio.k-alumni.org/>)

会員間の交流活動は、年2回のゴルフコンペ。不定期だが散策会を開催。現役への支援策としては、毎年活動支援金(20万円)のほか、春・夏合宿激励金(各3万円)を提供。要請に応じて支援を行っている。

応援活動も活発で各競技会場での応援に加え特筆すべきは奥むさし駅伝。OBも複数チームが出走、多くのOBが各区间で応援し現役部員との交流を深めている。



平成31年1月27日
第17回奥むさし駅伝競走大会現役部員とOBが交流

卓球部OB会

OB会創設の経緯

●卓球部OB会 事務局長

伊藤 博(高31回)



平成30年 津坂杯大会

19)が、進学先の青山学院大学卓球部の練習中に転倒、頭部を強打し入院。そのケガがもとで、昭和30(1955)年5月1日、帰らぬ人となった。

津坂氏を偲び、同期のOBが中心となって、御尊父である津坂宗一氏の臨席のもと、OB対現役の交流試合を行った。そして、試合後に食堂で験を担いだカツ丼を皆で食べて交流を深め合った。この交流試合が「津坂杯」として定着し、毎年1回優勝杯を争う熱戦が繰り広げられてきた。平成時代最後となった第63回「津坂杯」は、平成30年6月24日に、現役チームの勝利で無事終了。交流試合で現役チームが敗退すると、その場で全員が伊佐沼までランニングしてくるという、緊張感のある微笑ましいペナルティが。

60年以上続く「津坂杯」も、平成8年には現在の体育館建設により不開催となり、翌年の平成9年も、学校側の都合がつかず開催が危ぶまれた。そこで、近隣の川越第一中学校を会場に第44回「津坂杯」を開催した。それを機に学校側や現役世代の負担を見直し、継続的な運営を目指してOB会組織を立ち上げた。

活動状況

本会の目的は、会則第2条に、「会員相

互の親ほくを図り、かつ母校卓球部の発展に寄与すること」とある。具体的には、年1回の「津坂杯」による現役との交流試合と、卓球部への物質的な支援を主な活動としてきた。また、第50回記念大会の時をはじめビデオカメラや卓球マシン、ボール等を寄贈。特に、去る平成30年3月には、第45回全国高等学校選抜卓球大会(福井大会)に出場した岩附亮太選手の遠征に、多くの寄付を集めて派遣費を支援。全国大会への出場は、昭和52年のインターハイ鳥取大会団体戦出場以来の快挙であり、「祝 第45回全国高等学校選抜卓球大会(福井大会)」の記念プレートを付けた卓球台も1台寄贈することができた。

歴代会長

- 初代会長…江原清治(昭和23年度卒)
- 2代会長…佐藤寿男(昭和28年度卒)
- 3代会長…浅見忠司(昭和39年度卒)
- 4代会長…赤羽哲郎(昭和52年度卒)

役員

- 会長…赤羽 哲郎(昭和52年度卒)
- 副会長…松本 義之(昭和47年度卒)
- 伊藤 博(昭和53年度卒)
- 竹田 聡(昭和57年度卒)
- 荻原 信也(平成9年度卒)
- 木ノ嶋 睦(昭和12年度卒)

水泳部OB会

● 水泳部OB会 会長

佐藤 明(高21回)

水泳部の歴史は戦争直後

川高創立80周年記念誌によれば、水泳部の歴史は戦争が終わった直後まで遡ることができ、部としての齢は既に古希を過ぎ喜寿にならんとしています。また、旧制川越中学校では夏に千葉県に教師引率の下、大勢で水泳訓練に出掛け、泳力テストを行って「水泳部」と称していたとの記述がみられます。

川高における「水泳部」とは、旧制中学の大先輩方より引き継がれた歴史ある名称であり、これを未来へとつなぐ意識と誇りを持って、OB一同は現役を支援し、現役諸君には真摯に練習に取り組んでいただきたいと考えています。

近年の埼玉県の水泳界は、オリンピック選手を数多く輩出するなど、全国的にもかなり高レベルです。自主性を重視する校風と相まって、高校生の部活動として十分誇れる水準にあり、県大会での決勝進出・関東大会出場も射程距離です。

1980年にOB会創設

この水泳部を支援するためにOBの結束

を高めようと、水泳部OB会は1980年頃に江守秀男氏(高7回)・高野慎三氏(高9回)を中心に創設。「初雁クラブ」を名乗っています。その後1999年の川高創立100周年を機に、より多くの活動と現役の支援を行えるよう機動性と多能性を備えた体制とすべく幹事会を立ち上げ、20年が経ちました。OB会員の誰もが出入り自由な会とし、年2〜3回集まっています。江守氏・高野氏のご尽力による充実したOB名簿の作成は現在まで引き継がれ、創設以来約40年を経過し800余名の会員を擁する今でも、判明率は約9割を維持。

市民体育祭にも協力

現在は、毎年の会報の発行と3年に1度の総会開催、日本マスターズ水泳協会への登録と競技会への参加などの他、地元の水泳普及とも連携し、水泳の普及、毎年8月に川高プールで開催される川越市民体育祭の運営にも微力ながら協力しています。また、現役支援は重要な活動として位置づけ、練習用具の寄贈、川高歴代最高記録樹立者の表彰などを行っています。春先には川高プールを訪問し、現役部員との対話や会報掲載記事の取材も行っています。

現在、OB会を概観して感じていることは、会員居住地が日本全国はもとより海外

にも及んでおり、川越近郊の在住者が少ないこと。会員諸氏、特に川越近郊をはじめとする首都圏在住の皆様には、どうか時間の許す限りOB会総会へのご参加、さらにはもう一歩踏み込んでOB会の運営にもお力添えを頂きたいと思っています。



平成30年水泳部OB会

山岳部OB会

●山岳部OB会 事務局長
加島 篤人(高34回)

旧中時代に登山部として創設

山岳部は旧制中学時代の1919(大正8)年に「登山部」として創設された。当時の学友会「会報」の大正9年発行版に、第1回の山行として行われた富士登山(大正8年7月23日より2泊)の様子が記録されている。この年の学校行事の中では、登山部の創設と、この富士登山が特筆すべき事柄。その後も富士登山・北アルプス・奥秩父等を中心に合宿が組まれており、現代に比べ、装備・情報・交通が格段に劣るなか、毎年のように「遠征」を行っていた。旧制中学の登山部の活動は、戦時色が色濃くなった昭和16年まで続いた。

昭和22年に山岳部に

戦後、新たに「山岳部」と改名しての最初の合宿が、早くも昭和22年、北アルプスにて行われた。その後今現在に至るまで70年にわたって、500人余の部員が在籍し、男子校ならではの積極的な登山活動が行われている。部報「WANDERER」も最新版で49号を迎えた。

平成8年にOB会設立

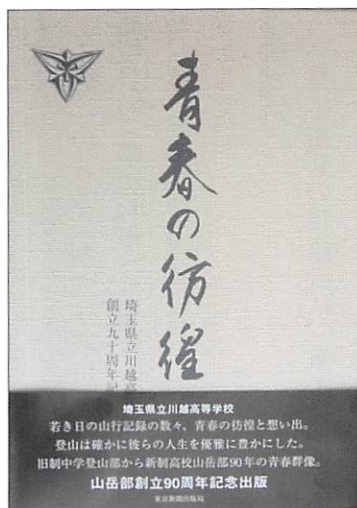
山岳部OB会の最初の一步は、平成4年、金子勇二さん(高3回)を筆頭にさまざまな年代のOBの有志17人が浅間隠山へ登山を行ったことから始まった。これを機に毎年OB山行を続け、4年後の平成8年11月23日、OB73人顧問2人の参加を得て川越プリンスホテルにて山岳部OB会設立総会を開催。これが川高山岳部OB会の正式なスタートということになる。

その後のOB会の年間活動は、春秋の年2回の山行と、毎年2月11日に行われる新年会が公式行事として定着。第1回の浅間隠山から昨年までの26年間に、51回の公式山行が行われている。それ以外にも、小人数が集まった有志山行も盛んに行われた。

平成21年5月10日、山岳部創立90周年記念誌「青春の彷徨」が上梓された。取材編集作業は約3年に及んだ。各地に在住しているOB諸氏への取材は鷹齋勝之さん(高27回)が、編集作業は元顧問の松崎中正先生に率先していただいた。完成した記念誌は年代別に山行記録・部員名等が記せられ、寄稿文や取材されたエピソードなどが随所に収められている。発行にあたり、多くのOBの皆様へ寄付をお願いしたとこ

ろ、多大な額を賜ったことは特筆したい。記念誌は各図書館および全国の山岳部のある高校に寄贈した。

平成の初期に始まった山岳部OB会であるが、四半世紀の歴史を刻んできた。発足当時から会を引率してきた可児一男会長(高7回)、岩堀弘明代表幹事(高8回)が昨年退任され、現在は長島威さん(高13回)が代表幹事となり、数人の幹事で会を運営している。山岳部創設から100年を迎えた今、参加者が減少気味のOB会の現状を打破すべく会の在り方を模索中。まずは長年手つかずになっているOB名簿を整備することを計画している。



山岳部創立90周年記念誌「青春の彷徨」

バスケットボール部(籠球部)OB会

●バスケットボール部OB会 事務局長
赤木 秀次(高25回)

はじめに

私が母校である川高に体育教員として赴任したのは、1991(平成3)年4月。本校への入学は、1970(昭和45)年、かの「生徒憲章」発効第1年目のことでした。入学式の折には、ヘルメットとタオルで顔を隠した在校生(先輩生徒)が校門で手刷りのチラシを配っているのが印象的でした。チラシに何が書かれていたかは記憶に定かではありませんが、「大変な学校に来てしまったのか」という思いが強烈に残ったものでした。その年の入学式は、それまでにあった講堂の敷地に新たに落成した新体育館(本県最初の2階建て重層体育館)で執り行われた年でもありました。

それから21年後、母校に奉職するとは想像もしなかったことですが、くしくも母校創立100周年記念事業の一環として、あの体育館が全面改築される場に立ち会うことになる。新体育館としての1年度生がその幕引きの現場に立ち会う運命となったこのてんまつに感慨を覚えました。

私は、体育科の教員としてバスケット

ボール部の顧問を任せられ、1998(平成10)年8月までの7年4カ月間務めてきました。その間の本部OB会の創設に至る経緯を以下に記します。

OB会創設の経緯

OB会としての活動は、昭和53年4月、昭和57年3月まで母校川高の体育科教諭として在職した渡辺耕造氏(高21回)の発案で、卒業生の親ぼくや現役選手への激励等を目的に開始。当時はOB会名簿は存在しませんでした。筆者が在職した時期には100周年記念事業における卒業生名簿作成事業が進行中であり、その情報の中からバスケットボール部の情報をソートし、1998年版川高バスケットボール部OB会名簿を作成。1999(平成11)年以降は、卒業生情報を加筆する形で2011(平成23)年までの修正バージョンが存在するものの、それ以後は更新されていません。

OB会発足以前の活動原資は、寄付が主たるものであったため会費収入と違い決算報告等の必要はなかったものの、「通信費」「現役活動援助」などの支出が収入を上回る状況となり、本来の活動が停滞する時期が続くこととなりました。卒業生から正式な「OB会」発足の声が高まるのをきっかけに、前述のOB会名簿を基に平成20年8

月10日、埼玉県立川越高等学校バスケットボール部OB会設立総会を開催し、「OB会会則」が承認され、同日をもって施行されました。

この「OB会会則」作成にあたっては、高校21回(昭和44年)卒業の山崎元男氏(当時、私立武蔵高等学校校長)のご教示を頂きました。

活動状況

卒業生相互の親睦会は、筆者が本校に赴任した平成3年当時から定期的に開催していましたが、OB会が発足した平成20年を境に次第に会への出席者数が少なくなってきたため平成23年開催を最後に現在は休止となっています。

その他の主な活動は、平成20年6月「平成20年開催の埼玉総体賛助金」(彩夏到来08高校総体)、平成23年8月「試合用ユニホーム購入補助」、平成28年4月「試合会場掲示用横断幕作成補助」等となっています。

役員

会長

渡辺 耕造 (高21回 昭和44年卒)

副会長

荒井 隆男 (高24回 昭和47年卒)

原田 定明 (高24回 昭和47年卒)

彩夏到来08高校総体

頑張れ埼玉のバスケットボールケイジャー



埼玉県立川越高等学校
バスケットボール部OB会

卒業生 503人
歴代顧問 14人
現役生徒 39人

【2011年修正版】
1931（昭和6）年、
2008（平成20）年

会員数（OB会名簿搭載者数）

西村 紘一良（高50回平成10年卒）
永澤 直樹（高48回平成8年卒）
五十嵐 耕平（高47回平成7年卒）
前島 和明（高45回平成5年卒）
横山 好司（高25回昭和48年卒）
宮岡 恵一郎（高25回昭和48年卒）

事務局員

赤木 秀次（高25回昭和48年卒）

事務局長

埼玉県立川越高等学校バスケットボール部OB会会則

- (名称)
第1条 本会は、埼玉県立川越高等学校バスケットボール部OB会と称する。
- (目的)
第2条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、埼玉県立川越高等学校バスケットボール部の現役が楽しく継続して活動し、卒業後に本会会員になるように支援することを目的とする。
- (会員・会費)
第3条 本会の会員は、次の3種類とする。
 (1) 普通会員
埼玉県立川越高等学校バスケットボール部に所属し、卒業したもの。
 (2) 客員会員
埼玉県立川越高等学校バスケットボール部の歴代顧問。
 (3) 準会員
埼玉県立川越高等学校バスケットボール部の現役生徒。
 2 会費は、普通会员の任意な寄付金をもって充てることとし、現役生徒の支援に資する。
- (総会の開催)
第4条 総会は、会長が必要と認めたときに随時開催する。
 2 総会は、次の事項を審議し、議決する。
 (1) 会則の制定及び改正。
 (2) その他とくに重要と認められる事項。
 3 総会の議長は、会長が努めるものとする。
- (役員)
第5条 総会に、次の役員を置く。
 (1) 会長 1名
 (2) 副会長 若干名
 (3) 事務局長 1名
 (4) 事務局員 若干名
 2 事務局は、会計、総務、会員サービス、埼玉県立川越高等学校同窓会との連絡等を担当する。
- (幹事会)
第6条 第5条の(1)から(4)の役員は、幹事会を構成し本会運営全般に携わり、役員の交代およびその他の重要事項について原案を作成し総会に諮る。
- 附則 本会則は、平成20年8月10日より施行するものとする。

戦前から活動の弓道部

戦前にも活動があったが、学校薬剤師の堀内さん(中40回)に伺うと、戦後は昭和32年から再開され、現在まで、61年間続いている。昭和40〜50年代の活動は大会上位を目指すようなものではなく、楽しむ気風であった。私が入部した4月から物理の内河先生(高10回)が顧問となり、ご自身が弓を引かれ、後の埼玉県弓道副会長、市弓連会長として、現在まで深くかかわっていた。現在も4月上旬に行われている川越市内王座は、武道館の地下駐車場に弓道場落成を機に始められたもので、昭和51年3月に第1回大会が行われ、団体優勝した事は大学でチームをなした梶田君との良い思い出でもある。

インターハイ団体出場が契機

平成7年のインターハイ団体出場を機に、部の様子はだいぶ変わった。ただ、全員が同じ目標に向かってまとまるというものができるまでは、意識の違いもあり、顧問の福内先生や海老名先生は大変な苦勞をされた事と思う。その後を引き継がれた齋藤先

生(高26回)が生徒の話し合いによる運営や選手決定のスタイルを確立。平成10年代以降、埼玉県の男子強豪として活躍。現在までインターハイ12回「団体3回(平成7、17、20)個人9回(平成10、12・6位、13・16、18、24、27・準優勝)」、全国選抜大会6回(平成9、13、17・準優勝・技能賞、18、19、22)、国民体育大会6回(平成11遠的5位、12近的4位遠的3位総合2位、14、16遠的6位、19、21遠的6位)、全国選抜遠的大会2回(平成21、30)、東日本大会8回(13・5人制優勝、14、16・5人制準優勝・3人制優勝、17、18・5人制優勝、19、22、26・5人制3位)、関東大会9回(12、13、14団体3位、15個人5位、16、19個人7位、24、27団体準優勝・技能賞・個人優勝・技能賞、28団体技能賞)、関東個人選抜大会17回23名(昭和57、58、59、62、平成元、4、9、10、13、16・6位、17、19、20、25・4位、26、28・7位、29)などの活躍を残している。

市弓連とも交流

平成11年に道場を新築した際に安土矢によって作られた安土は、現在も掘り出して少しづつ踏み固める工程を2〜3日かけて行い、冬場でも凍らない安土として受け継がれている。同じくこの機に始まった坐忘

杯は、市弓連との交流を図ってきたが、創設とは異なり、川越高校単独となり、震災(23年)を除く18年続いてきたが、平成29年度に終了。

新たな取り組みとして高校弓道部のOBで高校教員になり、弓道部顧問となる方を多く輩出しており、この2月には6回目となるOB顧問の学校による練習試合を行っている。高体連弓道専門部前委員長・島村先生(高26回)や、現委員長・山田先生(高34回)など県内の高校弓道発展にもOBは大きく貢献。また埼玉公立男子校4校(浦和・熊谷・春日部)による4校戦(団体6人120射・個人20射)も平成26年から始まり、年に

2〜3回行われ、10回を超えて続いている。平成30年度にはOBの新山先生(高61回)を顧問に迎え、これからの活躍が期待される。



弓道部OB 梶田氏とともに

ラグビー部OB会

●ラグビー部OB会 会長
秋田 智樹(高24回)

生物部ラグビー会から発足

生物部ラグビー班から発足し、1983年に創部に至ったラグビー部のOB会設立の経緯は諸説あるが今回は有力なものをご紹介する。

創部時の理念は勉学との両立はもちろん、さらに多方面での活動を保障し、強く楽しいクラブ活動のあるべき姿を希求する事だった。その実現に向け、週3日の練習・週末の練習試合で力をつけ、残る3日は生徒会活動ほか、自らの個性を磨くための自主活動が要求されてきた。プレー中の一瞬の判断を個性的に的確に試し、真に自らのために楽しむことにより、他者との喜びを共有し得るためのIndividualismと、一切の防具を着けずに自らの肉体のみで相手と対峙しプレーし得る肉体と精神及びダメージを直ちに回復できる「野生」の復興としてのBarbarismを確立することがモットーとされてきた。

そのような教えを受け、3年間活動した事により「Individualism」と「Barbarism」を備えた2〜9期(87年卒〜94年卒)のOB

B達が自発的に夏合宿に参加し始めたことがOB会設立の発端。創部メンバーや顧問からの呼び掛けによるものではなく、川高生らしい自主自立の精神のあるものであった。

OB名簿作成機にOB会

当時の活動は会長というポジションも特になく、年に1度OBで飲み会をするという活動が中心であったが7期の就職活動が本格化する頃には今後を見据えて塩柄盛英(6期91年卒)を中心にOB名簿の作成へ至る。しかし、OB名簿作成の中心メンバーが社会人となり、家庭を持つ頃には設立当時のメンバーの思いが引き継がれる事なく一度形骸化してしまった。そんな中、2003年に後輩のために、芳山和彦(9期94年卒)が初代会長へ立候補したのである。前例のない中、OB戦の開催やベンチコート・ジャージの購入など現在のOB会の活動の礎を築き上げた。その当時の努力が実り、現在では毎年3月の最終土曜日に3年生の送別を込めたOB戦を定期開催するに至っている。また現在では各代に代表者を選定し、練習予定表の共有やOBからの支援品の相談などできるような組織体制にしている。今後の活動として、初心者が多く、限られた練習環境の中でも強豪

校とも互角に戦えるように、土日の練習や夏合宿へOBが参加し、サポートができる体制の構築を目指している。

現在のOB会の役員は、3代目会長の秋田智樹(高24回)と3代目副会長兼会計の高實優(高26回)の2人が務め、それを補佐する幹部は役員2人を含めた26人で構成。会員数は2018年現在で545人(87年卒〜2018年卒)の大きなOB会である。今後もOB会として現役の川高生達が、自主性をいかに発揮できるようにサポートを続けたい。



応援部OB会

● 応援部OB会 会長

松井 哲(高28回)

平成3年にOB会発足

平成3年1月5日、川越高校応援部OB会が発足。初代会長には内河好博氏(高校第14回)が就任した。年1回総会を開催して会員間の親睦を図るとともに、現役生への演技指導・寄付などの支援を行っている。

平成22年11月、野球部OBチームがマスターズ甲子園へ埼玉県代表として初出場。



平成3年OB会発足時の写真

対戦相手は偶然にも50年前の夏の甲子園で対戦した熊本県代表鎮西高校となった。

応援部OB会では有志による応援団を結成し、アルプススタンドで吹奏楽部OBとともに応援を繰り広げた。

平成24年11月、野球部OBチー

ムは再びマスターズ甲子園に出場し、富山県代表高岡商業高校と対戦。吹奏楽部OBと共に「奮え友よ!」とグラウンドの選手にエールを送った。

平成28年、野球部OBチームはマスターズ甲子園に3度目の出場。同年5月に開催された梶田隆章氏のノーベル物理学賞受賞記念講演会後の懇親会において、出席のOB諸氏にマスターズ甲子園への応援参加を促した。11月、徳島県代表鳴門渦潮高校と対戦、9回裏劇的なサヨナラ勝利をおさめ、近畿初雁会や遠路川越から駆け付けたOB諸氏、吹奏楽部OBらと声高らかに校歌を斉唱、祝勝会では甲子園で勝利した時のみ歌われる「凱歌」を披露した。

オリジナル応援歌も作成

応援部が正式にクラブ活動として認められて約60年が経過。現在は大学生OBから学生幹事を選出し、現役生との繋がりを図っている。平成30年には現役生の新応援メドレー作成サポートとして、オリジナル応援曲を進呈した。

平成30年7月、高校図書館に現存する資料から、旧制川越中学時代の大正11年に応援団が誕生したことが判明、大正13年の卒業アルバムには「応援団幹部」の写真が見つかった。今後も、「規律・礼節・団結」

のもと、90有余年の歴史を誇る川越高校応援部の伝統を継承するとともに、現役生へのためまぬ支援を行っていきたい。

※OB会会員数(物故会員を含む)

平成30年11月現在 303人

※歴代OB会長

初代 内河好博(高14回)

第2代 岡田 勲(高13回)

※OB会役員

会長 松井 哲(高28回)

副会長 松本 朗(高33回)

副会長 竹尾 淳(高35回)

事務局長 長野 真(高46回)

副事務局長 小林拓実(高46回)

監事 関根盛敏(高46回)

学生幹事 川原吉広(高64回)

学生幹事 松山大睦(高66回)



平成28年マスターズ甲子園集合写真

以上

吹奏楽部OB会

●吹奏楽部OB会 会長
青木 正己(高21回)

1962年に創部

1962年に松本成二先生しげつぐの呼び掛けにより吹奏楽部は創部された。翌年の63年には東映映画「無法松の一生」(三國連太郎主演)の運動会の軍楽隊シーンにエキストラで演奏した。

OB会は1976年に設立総会を開催。毎年、現役生の援助をモットーに、演奏会でのスタッフ・後方支援を行ってきた。

それまでは松本先生がOB個々に演奏曲の編曲、現役生の学習指導、合宿応援などを指名していたが、都市対抗野球の応援アルバイトを機に組織としての対応が必要となり、設立に至った。

創部30周年に記念誌

92年の創部30周年では、当時の顧問栗原進先生のご尽力により記念誌がまとめられ、部の歴史を知る上で大いに役立った。

以後は、40周年・45周年の周年パーティーを開き、2012年の50周年の際は30周年記念誌を基に記念誌を発行した。また、記念曲を当部OBの作曲家田村文生さんに委嘱し、旧市民会館にて記念演奏会を開催し、

委嘱曲『時と鐘』を初演した。

16年にはマスターズ甲子園に出演した野球部のために野球部・応援団のOBと共にあこがれの甲子園スタンドで高らかに校歌と応援歌を吹奏。17年には55周年パーティーを開催し、旧交を温めた。

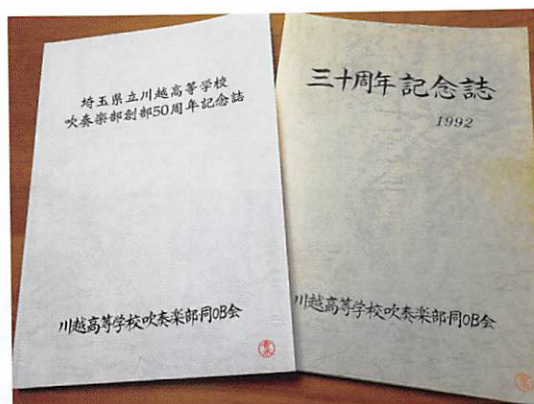
当部OBで11期生の奥泉光さんは「石の来歴」で第110回芥川賞を受賞し、現在、同賞の選考委員を務めている。在学中はフルートを担当していた。

年2回、演奏会開催

現在の3年生は吹奏楽部56期生となり、現役部員は計70人ほどを擁し、年に2回のコンサートや8月のコンクールに情熱を燃やしている。顧問は3人体制で、はえぬきのOBも何人か加わった時期もあった。現顧問も3人のうち2人は当部のOB。新たな伝統を築きつつ、過去の栄光を復活させるべく、厳しくご指導を頂いている。

今後は、中学校での男子楽器経験者が少ない中、いかに部員を確保するか、また、部活動時間が少なくなる中、いかに練習時間を確保するかが課題。

OB会運営も若い世代が順次担ってくれており、現役への物心両面にわたる援助とパイプ役に大きな存在となっている。会員数は吹奏楽部55期生までで1千500人余。



音楽部OB会

●音楽部OB会 会長

矢部 秀一(高21回)

●OB会事務局

松本 千尋(高37回)

音楽部は戦前から存在

音楽部は戦前から存在。戦後はレコード鑑賞会等を行ったという。昭和26(1951)年に牧野統先生が着任、現在に続く音楽部に。同年9月に合唱を中心とした音楽発表会。昭和28年にはNHK合唱コンクール県大会で優勝。昭和39年にはNHK全国コンクールで優勝。昭和47年の牧野先生急逝後、秋月直胤先生・小高秀一先生・浅井一郎先生・宮寺勇先生・吉田寛先生と、歴代の顧問の先生のご指導の下、伝統を受け継ぎつつ歴史を積み重ね、現在、國弘雅也先生のご指導の下、令和2(2020)年度には創部70周年を迎える。

昭和43年にOB会合唱団

音楽部OB会では、昭和27年3月の卒業生を「音楽部1回」とし、平成31年春に「音楽部68回」を迎える。牧野統先生の「音楽部第1期黄金時代」、OB有志を中心に男声合唱を続けていきたいと活動を始めたのが昭和43年。当初「川越高校音楽部OB会

合唱団」としてOB会を立ち上げ、牧野統先生や小高秀一先生(音8回)の指導の下、県合唱祭・市民文化祭・コンクールに出演・参加。

昭和45年にOB会

このような活動の中で、川越高校音楽部OB会として、昭和45年4月に会則を施行。顧問に牧野統先生、松本正自会長(音2回)他役員数人、各学年2人の幹事、会員は約300人だった。昭和47年3月、牧野統先生の逝去に伴い、OB会は小高先生の指導の下、同年翌年の牧野先生の追悼演奏会・作品演奏会に出演。その後は川越高校音楽部の節目に舞台上立ち、演奏。小高秀一先生の川越高校への2度目の赴任の昭和51年以降、1つの節目を迎える。昭和57年3月に第1回総会を開き、松本正自会長、南宗興副会長、小高秀一幹事長の体制に。

主目的は現役生支援

昭和60年代、川越高校音楽部がコンクールで、全国大会に連続して出場する「第2期黄金時代」に入ってしまったのに伴い、OB会の主たる目的は「現役音楽部への支援」に。「音楽部創部50周年」を機に平成12年より小高秀一会長へ。さらに平成24年から矢部秀一会長を中心とした新体制へと移行。平成25年、小高秀一前OB会会長の逝去

に伴い翌年12月に開催された「小高秀一メモリアルコンサート」でOB有志が集まり、「OB会ステージ」で演奏。現在、OB会員は1300人を超える。

創部50周年の節目には記念誌「光よ音の流れよ」をまとめるとともに、各年代から印象深い演奏を集めたCD集を制作。創部60周年には各世代の愛唱歌を集めた合唱曲集(楽譜)「光よ音の流れよ」を刊行。全国大会進出時の支援を中心に、海外遠征への支援。2020年度の「創部70周年記念事業」では、現役生徒の希望も踏まえ、NHKコンクールで全国優勝記念に贈られたオルガンの修復、現役生徒が希望する作曲家に70周年記念男声合唱曲を委嘱、記念誌の編集発行、第70回音楽部定期演奏会でのOB合同ステージ、「グリーン旗」新調、記念グッズ制作などを進めたいと考えている。



「小高秀一メモリアルコンサート」より
「音楽部OB会ステージ」(2014年12月7日 川越市民会館)

美術部OB会

●美術部OB会 事務局長
鹿山 孝(高18回)

OB展に現役生も出典

前回のOB展(「第5回紫縁展」)は、一昨年(2017年9月)に川越市立美術館市民ギャラリーで開かれ、暑い中、800人近くの来館者がありました。この展覧会の特色は、現美術部顧問の田上司朗氏の尽力により、現役生や大学生が参加してくれたことです。50歳も年の差がある者同士の展示は、互いの作品についてのギャラリートークがあったりして、刺激的で面白い展覧会になりました。

美術展は3回改名

川越高校OB美術展は名称が3度変わりました。

最初OB展の名称は、恩師である大澤寛先生の退職の年である1986年3月に「大澤先生還暦記念」と銘打って開かれた「川越高校美術部OB展」です。この展覧会は、高木茂夫氏(高6回)を会長とし、木下重美氏(高11回)と尾崎勝美氏(同年)が中心となって開催されました。「川越高校美術部OB展」は、86、89、91、95年の計4回(市立中央図書館展示室で)開かれ

ました。

次のOB展は、1999年に開催された「川越高校百周年記念美術・書道展」で、本川越ペペホールを会場に開かれました。

次のOB展が、現在に続く「紫縁展」で、この名称は校歌の「紫匂う武蔵野の〜」に由来して名付けられました。

「第1回紫縁展」は、2002年に新設された川越市立美術館市民ギャラリーで、2007年7月に開かれました。実行委員会の話し合いの中で、次回から出品者の対象を川高OB全体に広げることが決まりました。

「第3回紫縁展」では、中心者が高木氏・木下氏・尾崎氏から大護皓夫氏(高14回)に変わりました。実行委員についても、美術部OB以外のOBも加わるようになりましたが、運営主体は美術部OBが担当しています。

これまで6回開催

「紫縁展」は、2007年から始まり、09、12、14、17年、そして、今回の2019年で第6回を迎えます。

また、会員は80人近くいますが、出品者は、学生以外は毎回36人位に固定されています。

OB美術展は、「紫縁展」の会則で3年

ごとに開催とあるのですが、2年おきの場合もあります。それは、「3年後まで生きていられるだろうか?せめて2年後にしてほしい」と言われる方がいるからです(今回は違いますが、この意見に強く同調する時に、急遽2年後に行なってしまう)。川越高校OBの中には、世界的な美術家の長澤英俊氏や関根伸夫氏、日本美術界でも知られる中野武夫氏・鈴木英明氏・長沢秀之氏・美術評論家の小林英樹氏らがいま。彼らは皆、大澤 寛先生の教え子です。今回、川越高校創立120周年を記念して開かれる「第6回紫縁展」には、彼らの作品をはじめ、田上司朗氏と彼の教え子の作品等が揃います。ぜひ期待して下さい。



2017年9月5日「第5回紫縁展」集合写真

弦楽合奏部OB会

●弦楽合奏部OB会 会長
永野 順也(高62回)

毎年、定期演奏会に参加

弦楽合奏部は創部30年程度の比較的若い部活で、OB会自体も歴史は長くありません。毎年5月の定期演奏会をもって3年生は部活を引退し、OB会名簿に連絡先等を書くことで入会となります。OB会長は1年ごとに交代(前任者が指名)し、名簿の管理や節目に何かイベントを行いたいと思えば企画も行います。OB会として特に組織立って活動をしているわけではありませんが、毎年定期演奏会には多くのOBが集まり、演奏に参加したり、近況報告や昔話に花を咲かせたりと各々楽しみにしています。

創部20周年に校歌編曲

創部20周年の時には何かOB会としてできないかという話が挙がり、川越高校校歌を弦楽器用に編曲したものを部に寄贈させていただきました。当時はまだガラケーの時代であり、OB会長であった私が会員との連絡を担当しておりましたが、メールを一斉送信できる人数が限られているため大変手間がかかった記憶があります。OBの

仕事の関係者で作曲家の方がいらつしやるのお話を聞き、その方のご厚意もあり快く編曲を引受けていただきました。OBの有志から楽譜製作費の寄付金を集め、無事弦楽合奏用の校歌の楽譜を現役生に手渡しすることができました。その年の定期演奏会には期限が短すぎて間に合わすことはできませんでしたが、楽譜の完成度は非常に高く、多くの方々のご協力を頂き、OB会として記念の楽譜を寄贈できたことを大変嬉しく思っております。

Jコンサートで2曲演奏

また、毎年12月に開催するジョイントコンサートにて、演奏会の枠を頂いてOBのみで2曲程度弾かせていただいたこともあります。ジョイントコンサートは、全国高校文化祭出場を懸けた選考会に臨むために立ち上げた合同オーケストラの構成校(伊奈学園総合高校・浦和高校・川越高校・所沢高校)が集まって演奏を行います。それらの高校のOBも一緒になって演奏に参加することで、演奏会を盛り上げていく一助となっていれば幸いです。

このように弦楽合奏部OB会は厳格な会ではなく、OB間の繋がり、OBと現役生との繋がりを維持していくためにささやかなお手伝いをさせていただいております。

全国に散らばったOBが定期演奏会に集まってくるのも、熱心に練習する現役生の皆様、サポート・指導をしてくださる顧問の先生方が作り上げる定期演奏会が年々レベルが上がっていると思えるからです。今後も弦楽合奏部の更なる発展のため、陰ながらご協力させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。



PT会・後援会

120周年記念誌発行にあたり、PT会・後援会として、近年20年間のうちで、PT会・後援会が関わった活動の記載されている「広報かわたか」の記事を抜粋し、引用して投稿致しました。特に川高120年の歴史の中でPT会・後援会活動として一大事業は銀行より6千300万円借入れをして行った全普通教室への空調機の導入です。生徒達がここ数年の猛暑に関係なく、授業に取り組むことができる様になったことが一番重要な事業だったと思います。

103号より

大楠を見上げて思う



校長 菊池建太

今年も季節の移ろいが早く、4月末の楠は新緑のため落ち葉がいっぱいでした。その後、黄色の花が落ち地面が黄色くなってしまったこともあり、5月の薫風のもとではやわらかな葉音が心地よく6月にはオナガが甲高い声をあげて枝から枝へと飛び交っており、このようにさまざまな顔を見せ、生きていく楠は川高の100年の歴史を見つめてきたのです。そして、大楠は今では本校のシンボルとも

言うべき存在で、幹周り4m70cmに達しています。どっしりとした幹、なんとも言えない木の肌、そこには苔もつき、荘厳さを感じています。「梢は高く根は深く」という言葉がぴったりです。限らない可能性を持った川高生の教育を預かる者として、生徒一人ひとりにこの精神を植え付けたいと考えております。そのためには、保護者の皆様のお力添えを頂き、学校と家庭が連携し、心身ともにたくましく、国際社会でも活躍できる資質を備えた人づくりをしたいと考えております。そして、川高の教育を地域に発信していきたいと考えております。PT会広報誌「かわたか」が会員の皆様の共通の話題の場として読まれますことを期待して挨拶といたします。

平成十四年度 役員紹介



後列 田中・松本・高橋・中島・栗原・中西・仲・細井・瀧田・吉田
前列 安野・関口・深澤・菊池校長・横田・新井 (左より、敬称略)

PT会 会長 深澤	副会長 栗原	監事 細井	後援会 会長 関口	副会長 安野
理事 田中	理事 松本	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋
理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋	理事 高橋

校長先生・平成14年度本部役員

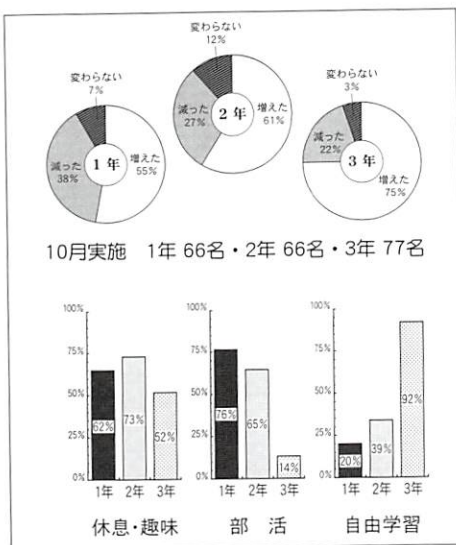
104号より

週5日制でどう変わる

「ゆとり」の中で自ら学び考える力などの「生きる力」を育成することを目標とし「総合的な学習」の導入（高校は平成15年度より）と並んでこの4月から完全学校週5日制が始まった。川高生にはどのような影響があったのかアンケートを実施し特集で取り上げた。

Q1 土曜日が休みになって自由に使える時間が増えましたか。

Q2 土曜日は何をして過ごしていますか。(複数回答可)



3年生は92%が家庭、塾・予備校、図書館などで自由学習をしている。1、2年生は部活動が圧倒的に多く自由学習は3年生

に比べると非常に少ない。部活動引退後に受験勉強に集中する川高生の特徴が現れている。土曜日の過ごし方に関して親の希望としては、

● 1、2年生のうちには読書・スポーツ・芸術鑑賞など精神的・身体的に自分を鍛えるために、3年生になったら受験勉強に使ってほしい。

● 普段は部活動に追われて時間がとれない学習や休息に充ててほしい。

● 本をたくさん読んでほしい。

● 部活・勉強・休息と、何をするにしても計画を立て、有意義な時間にしてほしい。

● 部活だけでなく補習授業をしてほしい
：と意見はさまざまだ。

先生は、
● 計画的に予習・復習に充ててほしい生徒が多い。

● 学校での補習を考えなければいけないかもしれない。

● 学校での補習の必要は感じていないが、生徒各自の時間の使い方が気になる。と、土曜日を上手に使えていないと感じているようだ。

来年度からは70分

学校週5日制の実施により減った授業時間

をどこで補填するかは大きな問題だ。本校では11年度から13年度までの3年間をかけて討議してきた結果、来年度から70分5時間授業が導入されることになった。多くの科目を実施し、終業時刻が早く部活動の時間に影響を与えないことを考慮してのことだ。本年度は火・金曜日に1時間ずつ増やし7時間授業とした。

Q3 7時間授業を受けてどう思いますか。

ア 他の日と変わらない……………28%

イ 集中力の持続が難しい……………58%

ウ その他……………14%

6割の生徒が集中力の持続が難しいと回答しているが、先生から見た生徒の様子は：

● 予想よりもしっかりと授業を受けている。

● 集中力があるため、6時間でも7時間でも特に変わりはない。

● 慣れたようだ。他の時間と変わらないと、しっかりと授業を受けているように映っている。

Q4 来年度から導入予定の70分授業についてどう思っていますか。(1、2年生のみ)

ア 期待……………5%

イ 不安……………79%

ウ どちらとも言えない……………16%
期待の理由

● 集中力が要求され、今以上に緊張感を持つことができる。

● 充実した授業を受けることができる。

不安の理由

● 体力・集中力の持続が難しい。

● 授業を欠席すると取り返すのが大変。

● 予習・復習が大変。

● 嫌いな教科が長いのが辛い。

● 休み時間が減る。

● 部活動の時間が短くなる。

どちらとも言えない理由

● 授業時間を確保できる点は良いが、集中力の持続は難しい。

● 教科によって、うれしい授業もあるし、辛い授業もある。

先生の意見は

● 「飽きさせない授業」を行うのみである。予習をしてこない生徒にとっては辛い70分になると思う。双方の努力が70分を有効にしてくれる。

● 時間中に小実験を入れ、効率よく授業を進めることができる。

● 単に今までの1・4倍の授業をするのではなく、70分の特徴を活かせる工夫を考慮中。

●単に50分を70分にするのではなく、全く新しい科目を担当するという気持ちで構成を考え中。

と、いずれも50分の延長というだけでは済まされないと考えている。

保護者

しわ寄せが平日に

●授業時間が減るのは、大変不安だ。

●学業面で、私立との格差が心配だ。

●土曜日のしわ寄せが平日にきている。

●7時間授業をやったり来年度より70分授業をやるということで、子どもたちには負担になり、ゆとりはない。

●大学受験に不安を感じる。

●高校生に週5日制は必要ない。

●土曜日がある方が、かえってゆとりがあるのでは。

●授業時間が減るので心配。

保護者

期末テスト後の活用を

●学校での補習授業を増やしてほしい。

●土曜日に課題のような宿題を多めに出示してほしい。

●期末テスト後の部活動週間を有効に活用してほしい。

●学校行事のためにも月1度だけでも土曜日があったほうが良い。

●部活動の時間数が多いため少し休ませてほしい。

保護者

求められる自立

●5日制でも6日制でも、時間の使い方は高校生本人が自分の生活リズムを確立すれば良い。

●子供たち自身がやる気を起こした時に初めて効果は出る。親の一方的な安心感のための補講は必要ない。

●高校生なので、休みをどう使うか親が口を出すまでもない。

●日曜日だけでなく土曜日も自分でコントロールする自由度が増し、自立がより一層求められるようになった。

先生

ゆとりがほしい

●1日の授業数が増えたためゆとりがなくなり毎日が忙しい。

●振り替え休日として月曜日が休みとなる場合が多く、授業がつぶれて進捗に差が出ている。

●空き時間が少なくなり、その結果授業準備等に支障が出ている。

●校務運営上には時間的制約が大きくなった。

●学習・課外活動行事すべてにゆとりがなくなっており本末転倒である。

●週40時間労働の実現のために週5日制となつたのではないかとすら考えさせられる。それが「ゆとり」と名を変えたい

のではないか。

先生

予習・復習のチャンス

●土・日は計画を自ら立てて有意義に過ごすことが本校生にはできる。

●予習・復習のチャンス。学習や健康面での自分のペースを整えるための2日間だという位置付けをして有効に使ってほしい。

●土・日に1週間を見通した予習を行い、平日は復習に重点をおく。

他校の取り組みとメリット

これまでのほとんどの高校は、50分授業を展開してきた。今回の週5日制や新教育課程に対してさまざまな取り組みが始まった。

浦和高校では総合的な学習の時間を他校に先駆けて導入し、進学を重視した単位制を取り入れている。川越女子高校や不動岡高校では、一部の教科科目に90分授業を導入し従来の50分授業と組み合わせることにより授業時間を確保している。春日部高校や大宮高校ではすでに65分授業が実施されているが、生徒の半数が65分授業になって良かったと答えているという。

これらの新しい試みのメリットをあげてみると、

・放課後の部活動・委員会活動などの時間

を確保できる。

- ・じっくり問題を解いたり要旨や感想などを考えることで論理的に思考しながら主体的に学習できるようにする。
- ・実験や実技科目にゆとりを持って取り組むことができる。

・集中力の持続に慣れ、大学入試などへの対応が容易になる。

都内のある私立高校では、今年度から70分授業による5日制を導入している。1カ月間試行した結果、70分授業を「非常に良い」「良い」と答えた生徒が4分の3を占めた。

70分あれば、教師からの一方通行の授業ではなく、生徒自身が考え、意見を述べ、討論も含めた双方向の授業ができるということである。

週5日制が実施されてから半年が経過し、早くも部内私立校の中には6日制への「復帰」を検討する学校もあり、波紋が広がっている。また、90分授業を一部導入している高校の生徒のアンケートでは、7割が「後半まで集中できない」という結果も出ている。

来年度から始まる70分授業、先生と生徒双方の努力により、これまで受け継がれてきた川高の伝統を失うことのない本校なら

ではの授業展開を期待したい。

3万人でにぎわった珍品堂

「期間限定珍品堂」あなたときがすとおきく」をスローガンに、第55回くすのき祭が催された。宣伝班の努力とマスコミ効果が実を結び、過去最多3万690人（昨年度は、約1万7千人）の来場者を迎え、珍品堂は、両日とも大入満員の賑わいとなった。

パワー全開

珍品堂の中でも超目玉は、今年も水泳部のシンクロだ。

くすのき祭一週間前に放映された映画「ウォーターボーイズ」が、シンクロ人気に拍車をかけた。連日、整理券を求める人たちの長い行列が続いた。中には、新幹線で駆け付けた人もいたという。

今年も、くすのき祭当日と新人戦の日程が重なり、シンクロメンバーは、3年生14人のみ（昨年は40人）。また、理科棟解体工事のため、シンクロ公演が危ぶまれた時期もあった。

ようやく迎えた公演初日。軽快なリズムに乗って、コミカルな踊りや、難易度の高いジャンプに、笑い声と歓声が絶え間なかった。涙する女子高生も見受けられた。

シンクロ部長の岩切君は、「無事できたのは、先生方や実委のおかげで感謝している。これで安心して卒業できる」と語り、その笑顔に、とっておきの一品を見つけた思いがした。

どれも絶品

シンクロより歴史のあるコント。立見も出る混雑ぶり。「山田先生」「小ギャル」等絶妙の話術に抱腹絶倒。

こけしの乱(3B)

数あるお化け屋敷の中でもだんトツの人氣。20分待ちで中に入れればいい方。出て来た女子高生たちが「怖かった!!」と泣き出す場面も。

マンドリンやりたい(古典ギター部)

優しいギターの音色に癒される思い。大会を控えての最終曲は素晴らしい出来だった。

澤潟秋子さんの演奏

定時制に通学するプロ。津軽三味線、民謡、蛇皮線等を披露し、拍手喝采を浴びた。弓道無料体験(弓道部)

前日の雨で当日朝6時半からセッティング。家族連れも多く、また来たいとの声も。応援団の演技(応援部)

暗闇の中、ライトアップされた大団旗が雄々しく立ち上がる。舞い散る紙吹雪の中、

一歩一歩舞台に進む姿は揺るぎない威厳を感じさせた。立見の観客も出る中、日々の練習の成果を発揮。見応えがあった。

TA・TSU☆MENと秘密の部屋(1G) 遊び部門第1位。インベーダーのように

現れるいろいろな色のタイツマンに玉をぶつけて「まいった」と退散させる。ストレス解消にはうってつけだった。

後夜祭(8日)は、昼の暑さも過ぎた気持ちの良い夕方夜祭ステージで行われた。部対抗では、ラグビー部と応援部が優勝をかけて、ジェスチャーゲームで競い合った。バンド演奏では観客と一体となって盛り上がった。ラーメンに唐辛子やあん等を入れて食べる早食い競争もあった。吹奏楽部のコンポステージでは、「ここでするのが夢だった。これから1日も休まず受験勉強します」の宣言も飛び出し、応援部のエールと共にいよいよ佳境に。3万を超えた来場者数の発表にどよめきと歓声があがり、涙と笑いと感動の2日間は幕を閉じた。

ひと仕事終えて

実行委員長 鈴谷 大輔

委員長として「何をすべきか」にすごく悩んだ。みんなに比べたら委員長なんて何も仕事をしてないのにどうして偉いのか。緊急時の対応まで副委員長にやってもらっ

てしまい、自分の存在価値とかを疑う日もあったが、帰りがけに「また来ます」と言われたり、校内のお客様が笑顔でいるのを見ると、川高の文化を楽しんでくださったんだなと、こちらも笑顔になった。

空高くそびえ立つ聖ポール大聖堂

昨年よりも3m高く(12m)そびえ立つ今年の門。班員が減少する中、8月と9月合わせて6泊の合宿の末、完成した。合宿中は朝は6時前から、夜は1時頃まで取り組んだ。今年は理科棟工事もあり、場所や時間、予算の制限を受けた末の傑作。部活後の作業のきつさも忘れる程、完成の喜びと達成感は大きかった。共に一つのものを作り上げていく過程で固い友情が培われたことだろう。

頑張った実行委員たち

▼門班

12月頃から考え始め、5月には選挙板回収等を始めた。

多くの仲間と協力し、一つのものを作り上げた時の達成感と感動を得ることができた。

▼イベント班

みんなが楽しめるイベント内容を考えることは大変だったが、お客さんとのふれ合いがあった。直接笑顔が見られ、嬉しかった。

▼宣伝班

北辰テスト会場でのビラ配り、ポスター貼り、ラジオ・テレビ。新聞などへの文書作成、東武バスの中吊り広告掲示、東上線沿いの看板作り等を行った。文化祭前日、雨の降る中レインコートを着ながらビラ配りをしたことが一番大変だった。(寒いし、ビラはもらってくれなかったから)。

▼総合業務班

会計業務、書類等の作成、合宿の運営、その他雑務を担当。合宿の運営、金銭の管理が一番大変だった。

▼参団会場班

参加団体の募集、運営、管理(食品取り扱い参団の衛生指導等)、机や椅子などの確認、他校から借りる備品の交渉、スリッパ拭き等を行った。人手が足りなかったので、参団の管理、校内警備が大変だった。スリッパが足りなくなりました。

▼特殊工作班

毎年「水」を用いた「動き」のあるモニュメントを製作している。今年は水車や水車小屋の設計など大変だったが、仲間との熱い友情に支えられた。

▼中後夜祭班

ただの紙に書いたデザインが大きなステージバックになったのには感動した。当

日、校庭整備が大変だった。

▼電気班

門、水車のライトアップ、校内の電気使用量の調査、夜祭の照明、電気を使ったモニュメント（カラクリ時計、ロープライトを使った文字、シャボン玉が出てくる機械等）を製作した。なかなか案がまとまらず、長いこと話し合いをしたのが大変だったが、完成し、嬉しかった。

▼デザイン班

予想以上の来客があったので総合案内所では人手が足りず、猫の手も借りたい状況だった。例年にもまして苦情も多く、2日目はさすがに疲れた。来年は、もっと当日に関して考えなければいけないと思った。

駅にチラシを配りに行く途中、ゴミを拾う実委、コンビニにポスターを貼り、店の周辺を掃除する実委、グラウンドの水を1日かけて掃きだす実委…。その生徒たちの思いをかなえるべく自ら交通整理に立った先生や保護者たち。全国的に類を見ない来場者数はそういう人々の支えがあった。遊ぶ力は生きる力を育むもの

本気で遊んだ川高生は生きる力を着実に蓄え、大きくすの木のように太くたくましく伸びていくことだろう。

112号より

平成17年度PT会・後援会

総会報告

5月21日(土)

於本校体育館アリーナ

五月晴れの中、会員251人の出席のもとに今年度の総会が開催された。授業時間確保等のために、今回初めて授業参観とは別に土曜日に行われた。

初めに、熊澤PT会会長、安野後援会会長が挨拶された。

引き続き、菊池校長より自主自立。文武両道。国際理解の向上を学校の目指すものとし、さらに6月より土曜セミナーの取り組み等の話があった。

その後、議事に移り、

○平成16年度

・事業報告

・決算報告並びに監査報告

○平成17年度

・PT会。後援会役員選任

新役員承認の後、柿澤新PT会会長に議長を交代し、議事が進められた。

・事業計画(案)について

・予算(案)について

提案どおり、可決承認された。

議事終了後、柿澤新会長よりPT会活動への積極的な参加を願う挨拶があった。時間の都合上、退任役員への記念品贈呈等は省略されたが、総会は無事終了した。

総会終了後、学校よりお話があった。最初に教頭先生から社会で活躍するOBとの交流を通じて人間力を高める等のお話があり、生徒指導部の先生よりさらなるモラルの向上、進路指導の先生よりセンター試験の現状、来年度の入試状況のお話があった。

平成十七年度 役員紹介



校長先生・平成17年度本部役員

- | | |
|-----|-------|
| PT会 | |
| 会長 | 柿澤日出夫 |
| 副会長 | 田所和成 |
| | 飯泉久美子 |
| | 雪田修一 |
| | 田中紀吉 |
| | 大河原有子 |
| | 三上泰子 |
| | 尾澤結花 |
| | 鈴木裕子 |
| | 西橋よしみ |
| | 竹澤さつき |
| 後援会 | |
| 会長 | 深澤政年 |
| 副会長 | 細井猛夫 |
| | 熊澤専三 |

明るく楽しい活動を



PT会会長 柿澤 日出夫
平成17年度、PT会会長を務めさせていただくにあたり、ご挨拶を申し上げます。

文部科学省が推し進める教育改革、週5日制も今年で4年目を迎える事となりました。

当初は土曜・日曜が休みとなり、生活環境の変化に戸惑った家庭もあった事と思います。

そして、その改革の結果学力の低下が進んでいると言われていきます。本校におきましては、先生方のご努力、お力添えでその心配もございません。大変感謝しております。

世界に目を向けますと、中国での反日運動等、日本も難しい状況にあります。この様な暗い時だからこそ、教育の場においては、明るく楽しい学校生活を送ってほしいと思います。どうぞ全会員の方々のご協力、お力添えをお願いしてご挨拶と致します。

人間力育成の教育環境づくり

後援会会長 深澤 政年

川越高校は100年を超える埼玉県の伝統校です。

文武両道と人間力育成に重

点を置いた教育を目指した学校です。ある方が「人間力とは困難に打ち勝って生きていく力」と言われていましたが、現代の社



会・大学の先の世界で挫折する若者が増えていると聞いています。文(勉学)と武(体育・文化部活動)を多彩な友人や、教育に燃えた先生方との切磋琢磨を通して磨き上げ、くすのきのように大地にしっかりと立ち、どんな困難にも人生を切り開いていける生徒が育っていきけるよう、学校とPT会・後援会が協力して教育環境づくりをしていきたいと思えます。皆様の当活動への積極的な参画とご協力を、よろしく願います。

各委員会より

家庭教育学級運営委員会

委員長 有山 博

進路講演会・大学見学・文化講演会の三事業を行っていきませんが、開催日時・テーマ・講師などについて、保護者の皆様のご都合や関心をくみ取って、たくさんの方が参加できるように準備していきたいと思えます。1年間どうぞよろしく願います。

地区委員会

委員長 雪丸 和子

地区別PT会の案内状は、今年より子どもたちを通じて手渡すことになりました。スムーズにお手元に届いたでしょうか。その地区別PT会が7月23日より順次開催さ

れます。進学情報や部活動について先生方に相談できますし、保護者の方々と意見交換のできる良い機会ですので、多数の参加をお待ちしております。

広報委員会

委員長 三上 泰子

広報誌「かわたか」は、学校行事や部活動での活躍、またPT会・後援会の活動報告などを中心に、年3回学期末に発行いたします。

学校と各ご家庭を結ぶ懸け橋として、大いに活用していただけるよう、さらに読み易い広報誌を目指し、委員一同、力を合わせて活動して参ります。

保護者会

―1年生―

初めての保護者会は、多数参加の中、活発な意見交換の場となった。

先生より、最近子どもたちの堅さも取れ、だいぶ学校に慣れ、真面目だけでなく冗談も言えるような、良い雰囲気になってきたという。自由な校風を残しながら「はじめ」を大切にしたいというお話があった。保護者より、「勉強と部活の両立は難しいが、学校生活を楽しんでいる」という意見が多数を占めた。

―2年生―

先生より、クラスの近況や修学旅行の説明があった。

保護者からは、「部活等で心身共に疲れ、寝入る子どもの姿に一末の不安を感じる」という声と理系、文系の選択科目の悩みも聞かれた。

先生から、「選択科目については、多くの将来に対応するべく、間口を広くしてあるため選択が難しくなっているが、一日も早く志望校を具体化していく必要性和、積み上げ科目は2年次から取り組むように」とのアドバイスを頂いた。

—3年生—
各クラス、半数以上の出席者があり、先生からは、主に進路問題について話があった。
学部を決め、さらに大学を絞り込んでいる生徒がいる反面、いまだ進路を決めかねている生徒もいるようだ。

今年度から入試のシステムが、保護者会で配布した資料の通り変わるので、現時点で受験について対策を練っていないと厳しい状況であるから、学校側もそれに対応した態勢をとっていききたいとのことだった。

113号より

「暑さ対策」に関するアンケート結果報告

P T会会長 柿澤日出夫
P T会会員の皆様には、日頃より学校行事、P T会活動にご協力いただきありがとうございます。

去年、今年の地区別P T会において、保護者の方々よりクーラーの設置希望がありました。本部役員会等で検討した結果、全生徒を対象に「暑さ対策（クーラーの設置等）」のアンケートを実施する事になりました。

【1】夏季授業時間内における教室で、学習環境を整えるための暑さ対策について感じていることは、次のどれですか？
回収786名（回収率72.8%）

	1年	2年	3年	学年不明	合計	構成比
必要である	138	128	50	278	594	75.6%
どちらともいえない	14	11	15	25	65	8.3%
特に必要ない	12	10	28	51	101	12.8%
その他	3	2	0	4	9	1.1%
無回答	0	2	1	14	17	2.2%
合計	167	153	94	372	786	100.0%

【2】暑さ対策をする必要があるとすれば、次のうちどれがいいと思いますか？
(複数回答)

	1年	2年	3年	学年不明	合計	構成比
クーラーの設置	109	95	40	144	388	49.4%
扇風機の設置	61	53	31	106	251	31.9%
緑化対策	49	34	27	78	188	23.9%
川高らしさをめざした独自の対策	36	17	15	60	128	16.3%
その他	6	19	3	10	38	4.8%

27日に実施した結果を報告致します。
全生徒数1千88人の内、アンケート回収が786人でした。約200人の生徒のアンケートが回収でき

なかった事は大変残念でした。また、暑さ対策が必要であると考えている生徒は、594人でした。

暑さ対策は特に必要ないと考えている生徒は101人でした。クーラーの設置・扇風機の設置・その他校内・屋上等の緑化を希望する生徒等、さまざまな意見がありました。表をご参照の上、皆様もご検討なさって下さい。今後は、本部会・常任理事会等で、暑さ対策に関して充分時間をかけて調査、研究を続けて行きたいと思っております。

保護者の方々のご協力をお願い致しまして、アンケートの結果報告と致します。また、P T会活動への積極的な参加を重ねてお願い致します。

118号より

主体性



校長 吉澤 優

以前、本校で担任をしていたとき、LHRの時間、ディベートを行った。交通量が少なく車がほとんど通らない遅い時間に、信号が赤の交差点で「青になるまで待つ」派と「赤でも渡ってしまう」派に分かれての

121号より

新会長就任にあたって



PT会会長 正木 一弘
卒業した頃5階から見おろせたクスノキが、今や本館の高さを超えました。木が長い

時をかけて育ったように、PT会も諸先輩のご苦労でここまで成長してきました。

町田前会長をはじめ、頼もしい先輩方が卒業されて不安もありますが、新役員一同、コミュニケーションを大切に精いっぱい頑張ります。

学校をより優れた、時代に即した教育環境に整えていくためには、保護者も共に考え、共に学び、行動することが必要と考えます。PT会行事の一層の充実を図り、より多くの方に参加いただくことを今年目標としました。

PT会活動に参加して得るものがあつたと皆さんが感じる一年にしたいと考えています。ご協力・ご支援のほど、よろしくお願いたします。

後援会会長就任の挨拶



後援会会長 柿澤 日出夫
5月24日の総会においてご承認いただき、後援会会長をお受けする事となりました。

責任の重さに身の引き締まる思いでいっぱいですが、微力ながら母校への恩返しのもりで一生懸命務めていきたいと思っています。皆様のご支援とご協力をよろしくお願致します。

後援会といたしましては、学校施設・環境の整備にあたる事。また、部活動等で大会に参加する折に、すべての面で支援したいと思っています。

また、正木PT会会長を中心とした「PT会活動」を裏方として、支援していきまので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

ものであつた。ルールを簡単に破ると他のことに波及し歯止めがきかなくなるとか、明らかに安全なのに渡らないのは柔軟性に欠けるとかささまざまな意見がでた。どちらが良いかは別として自分の考え、主体性を持っていることは大切であると思う。それに比し「赤信号みんなで渡れば怖くない」という言葉がある。自分以外のみんなが赤信号で渡りだしたとき、自分だけは渡らない意志の強さが必要だと思うが、今の時代「赤信号みんなで渡れば怖くない」的な生き方がはびこっているように思えてならない。主体性のなさである。日本の高校生は勉強時間が少なくなつたとよく言われる。それは事実であるかもしれないし、ある宣伝かもしれない。いずれにしろ、自分も勉強時間は少なくてよいと考える川高生はいないと思う。主体性をもって取り組んでくれるものと思う。もし家での勉強時間が少なくその原因が学校にあると考えられる場合は、遠慮なく学校にご連絡ください。

平成二十年度 役員紹介



校長先生・平成20年度本部役員

- | | |
|------------------|------------------|
| ・PT会
会長 正木 一弘 | ・後援会
会長 柿澤日出夫 |
| 副会長 佐々木之校 | 副会長 町田美路雄 |
| 理事 野原真理子 | |
| 監事 松本 尚美 | |
| 山代 孝司 | |
| 吉田 正孝 | |
| 吉田 里美 | |
| 植田 惠美子 | |
| 八木 辰也 | |
| 田中 辰也 | |
| 金子 保夫 | |
| 斉藤 圭子 | |
| 松澤 洋 | |
| 村田 惠美子 | |

校長就任の挨拶



校長 松下 幸夫

平成21年4月1日付けで本校第24代校長として着任いたしました松下幸夫（まつした ゆきお）でございます。

本校は埼玉県を代表する歴史と伝統のある進学校で、生徒・保護者の皆様だけでなく、県教育委員会さらには県民からも大変大きな関心と期待が寄せられております。そのような学校に校長として勤務できることは、身に余る光栄であるとともに責任の重さを強く感じています。

着任以来、私は毎日毎日、感激・感動の連続です。始業式の日、ステージから初めて全校生徒を目の前にした時の感激は一生忘れられません。1千人を超える血気盛んな男子生徒が一瞬にして一糸乱れず静かに整列しています。いったい世の中にこんなに紳士的な若者たちがいたのか、こんなに美しい集団があったのかと、驚きとともに深い感動を覚えました。

私はご子息の希望大学進学を実現し、本校の生徒・保護者・OB、さらには県全体から寄せられる熱い期待に少しでも応えら

れるよう、本校教職員の持てる力を集め、私のこれまでの経験のすべてを生かし全力で職責を果たしていく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成21年度PT会・後援会

総会報告

躍動する姿に感動の拍手

「川高生の一年」ビデオ上映に大反響

爽やかな初夏の風が吹く5月23日、やまぶき会館において総会が行われた（出席192人）正木PT会会長、柿澤後援会会長、松下校長の挨拶に続き、議事が行われた。

○平成20年度

●事業報告

●決算並びに監査報告

○平成21年度

●新役員の選任

・事業計画(案)

●予算案(案)

すべて可決承認されたが、決算・予算とも余剰金（繰越金）の扱いに質疑が集中した。P・後本部からは、不測の事態に備えた繰越金と前置きした上で、金額・処理方法を今後の検討課題とする回答がなされた。質疑の出ない無風の総会ではなく、会員から活発な意見が出されたことは、学校・P

T会に対する関心の高さを物語っていた。また、PT会活動の原点である総会にもっと参加してほしいと新たな試みも行われた。

総会に先立ち上映された川高生の1年は、行事や勉学に全力で取り組む生徒の姿を生き生きと映し出していた。ひたむきで真摯な姿はとても感動的だった。佐藤けい子先生の進路後援会は川高生の特徴と傾向を細かく分析した話で、予備校とはひと味違う興味深いものであった。総会終了後は、地区毎の顔合せで親ばくを深めた。

山田新会長は、今後も地区の活性化など、工夫の1年にしたいと力強く表明した。

平成二十一年度 役員紹介

・PT会
会長 山田 正孝
副会長 大江出紀子

・監事
高橋 孝静
内田 貞子
田代 孝司
梶川 泰伸
吉田 里英
吉田 重子
八木 辰也
田中 辰也
正木 真由美
金子 保夫
鈴木 圭子
鈴木 苗子
松澤 苗子

・後援会
副会長 柿澤日出夫
正木 一弘
町田美寛雄

校長先生・平成21年度本部役員

伝統とチャレンジ



P.T.会会長 山田 正孝
総会に於きまして、平成21年度P.T.会会長のご承認を頂きました山田でございます。

創立110周年という節目の年に、P.T.会会長を務めさせていただくことを非常に光榮に思うとともに、責任の重さも感じております。伝統は、時の積重ねだけでなく、その時々でのチャレンジの結果が評価されたものと思います。川越高校P.T.会は、生徒のより良い教育環境の醸成を目指し、保護者と先生が積極的に係わっていく良き伝統があります。今後より多くの会員の方に係わっていただける環境作りを基本に、伝統を守り、育て、引継いでいけるよう会員皆様と共にチャレンジして参りたいと存じますので、よろしくお願い致します。

「和を大切に」



後援会会長 柿澤 日出夫
5月23日の総会においてご承認を頂き昨年に続き本年も後援会会長をお受けする事となり

ました。川越高校は今年創立110周年を迎えます。この様な伝統と歴史のある川越高校に係われる事に誇りを感じており

ます。微力ではございますが母校への恩返しのため一生懸命努めさせていただきます。今年の卒業生は、3年前に導入されましたSSHを3年間受講した初めての大学受験生でした。SSHの効果により例年よりも優れた受験結果となり、私達も大変嬉しく思っております。

後援会として生徒達がより良い環境のもとで勉強できる様、学校施設の充実と環境の整備に努めてまいりますのでご協力をお願い致します。

各委員会より

地区委員会

委員長 田代 孝司

P.T.会は、居住地域に分かれての活動も行っています。昨年は、地区別P.T.会（7月開催）に、600人以上の方にご参加いただきました。地区ごとの活動はP.T.会活動の基盤でもあり、一層の充実を図ってきたいと思えます。

広報委員会

委員長 吉田 里美

P.T.会報「かわたか」を通して、P.T.会・後援会の活動・学校行事・生徒の部活動での活躍等に関心や理解を深め、川高の魅力をより感じていただきたいと思います。委

員一同力を合わせ頑張りますので、よろしくお願い致します。

家庭教育学級運営委員会

委員長 八木 仁

6月の進路講演会の参加ありがとうございました。今秋予定の大学訪問や歴史講演会を計画しております。大学を肌身で感じることができ、又幅広い知識にふれるチャンスです。皆様の参加を委員一同お待ちしております。

保護者会

11年生

入学後初の授業参観。各クラスとも真剣なまなざしの生徒と、それを温かく見守る多くの保護者の姿があった。

懇談会では、クラブ活動・文化祭実行委員会に意欲的に参加しつつ、真の川高生を模索する生徒の様子がうかがえた。

また学習面において、「先生から授業の予習・復習を大切にして、将来の夢につながる学力をつけてほしい」とアドバイスがあった。

12年生

授業参観・懇談会も多くの保護者が出席した。懇談会は先生の紹介から始まり、クラスの様子や修学旅行の話があった。「2年の今から、積極的に大学見学に参加し、

受験に向けて環境を整え、自宅学習に取り組むように」と助言があった。来年から、3年の選択が文系Ⅰ・Ⅱ、理系と3つに分ける話があり、保護者の関心も高かった
—3年生—

先生より「3学年進路希望調査結果」を基に説明がなされた。「例年、夏休み頃から勉強に集中する傾向がある。大学見学や模試などをうまく取り入れて気持ちを高めたいってほしい」とのこと。保護者からは今の部活中心の生活への不安と今後の頑張りへの希望が語られた。

「近年不安や行き詰り感など心身の疲れを見せる生徒も見られるので、規則的な生活を心掛け、第一志望を譲らず受験に臨んでほしい」と結ばれた。

136号より

3度目のくすの木の下で



校長 細田 宏
平成25年4月1日付けで、
本校第25代校長として着任いたしました細田宏と申します。

私は本校に昭和45年4月に入学し、昭和59年4月からは8年間、数学の教諭として勤務させていただきました。本校の象徴であ

るくすの木の下に、今回、3回目の籍を置くことができずことは、この上ない幸せと感じております。

着任した4月だけでも、始業式・入学式・新入生歓迎会・校歌指導・部活動勧誘・生徒総会・くすのき宿泊研修・SSH講演会、そして部活動の試合や発表会などで接する川高生の輝きに、40年前の自分に重ねながら懐かしく思い出し、感動したり驚いたりしているところです。その中で、あらためて本校の歴史と伝統を振り返りつつ、今、本校に期待されていることについて思いを巡らせているところです。

私は、教職員の持てる力を一つにまとめ上げ、不易である本校の良き伝統はしっかりと守りつつ、時代の流行をしっかりと見定め、生徒そして保護者の皆様の期待に応える教育活動を全力で展開してまいりたいと考えております。

森田会長様をはじめ、PT会員の皆様には本校の教育活動に対しまして、今までと変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



142号より

雄飛の翼養いて



校長 青木 勇藤
本校を昭和51年3月に卒業、39年を経、本年4月1日付けで着任しました。くすのきの幹も枝振りも随分と大きくなったというのが正門を入ったの印象でした。

さて、本校は進学校としての期待に応えつつ、伝統ある自主自立の校風を継承。発展させ、グローバル化社会における有為な人材の育成をミッションとしています。その実現に向けた指導体制もくすのきの如く、しっかりとした幹が根を張り、生徒の大学に入る力・大学で伸びる力・社会に貢献し

活躍できる力を育成することを目指して
います。勉強においては主体的に学ぶ姿勢を
確立させ真の実力を身につけさせることを
第一とし、進学実績をさらに躍進させるべ
く取り組んでいます。一方、くすのき祭を
はじめ学校行事も充実し、運動部も文化部
もその活動は大変に活発であり、力強い人
間力を確実に成長させています。生徒個々
が知徳体のバランスのとれた良識あるリー
ダーとして、くすのきの枝振りの如く大き
く成長し羽ばたいてくれることを教職員一
同、強く願っております。

学校と家庭は車の両輪です。学校とPT
会が協同し一体となつてこそ、学校の教育
活動も相乗的に効果を上げ、生徒の望む進
路実現、人間的成長を可能とするものです。
PT会の皆様には、なお一層のご理解とご
支援を賜りますようお願い申し上げます。

総会開催

平成27年度PT会・後援会

5月20日、やまぶき会館において2007
人の出席のもと総会が開催された。

総会に先立ち「川高の一年」のDVD上
映があり、会場をわかせた。また、「今年
は新教育課程1年目の入試で理系は苦戦、
難関国立大合格者数が増加、難関私大は堅

調」と進路指導主事の中田先生から話が
あった。

PT会伊藤前会長からは2年間経験した
本部役員の感想が述べられ、大役を果たし
た充実感であふれていた。後援会山田前会
長は後援会はPT会をサポートし、川高の
教育環境のさらなる充実に努めていくとの
ことであった。青木校長先生からは、72歳
の女性を道案内したある川高生のお話があ
り、さわやかな日常のひとつこまが印象に
残った。

挨拶ののち議事に入り

- 平成26年度
- ・事業報告
- ・決算並びに監査報告
- 平成27年度
- ・新役員の選任
- ・事業計画(案)
- ・PT会会則の改正(案)
- ・予算(案)

以上すべて可決承認された。

一方、空調設備予算の予備費が総額の半
分近くを占めていることについて「施設更
新積立金」の項目を設けてはどうかとの意
見が出された。山田前会長からは平成18年
度に6千300万円を借入し、空調設備を
設置した経緯が詳細に説明された。不測の

事態等に対応しやすくするために目的を限
定しない予算計上の在り方になっていくと
のことであった。経年劣化による設備更新
等も含め空調設備予算の将来計画を見直す
必要があり、今後の検討課題となった。
活発な意見のやり取りもあり盛大な総会
となった。

最後に、新役員を代表しPT会細田会長
が、保護者の積極なPT会活動への参加を
呼び掛けた。



同窓会総会・記念講演記録

昭和51年度	講師 演題	小島良夫氏(中45回) 「川越の異端児」	平成11年度	講師 演題	椎橋勝信氏(高15回) 毎日新聞社論 説委員 「転換期の政治と地方」
昭和52年度	講師 演題	山本秀順氏(中27回) 高尾山薬王院 主大僧正 「自然と人生」	平成12年度	講師 演題	笹森清氏(高11回) 連合事務局長 「連合運動21世紀戦略」
昭和53年度	講師 演題	松本博一氏(中37回) 毎日新聞社論 説顧問 「今日の世界と日本人の国際感覚」	平成13年度	講師 演題	鈴木邦治氏(高6回) 元・エクスアドル 大使 「ラテンアメリカと日本と私」
昭和54年度	講師 演題	西川慎八氏(中36回) 日本大学医学 部教授 「公衆衛生学の先覚者国崎定洞先生」	平成14年度	講師 演題	長島恒雄氏(高3回) 経済評論家 「日本経済はさいせいでできるのか…成 功は失敗のもと、失敗は成功のもと」
昭和55年度	講師 演題	佐々木忠一氏(中32回) 日本大学教 授人文博士 「環太平洋と日本」	平成15年度	講師 演題	鈴木宮夫氏(高10回) 埼玉県副知事 「埼玉県政がめざまもの」
昭和56年度	講師 演題	佐久間勇次氏(中38回) 日本大学教 授 「試験管ベビーよもやま話」	平成16年度	講師 演題	大野惣平氏(高15回) 元・首都高速 部長 「橋について」
昭和57年度	講師 演題	内田静馬氏(中22回) 版画家 「絵馬と民俗信仰」	平成17年度	講師 演題	田中健氏(高15回) 東京女子医大講師 「心臓病で死なないために」
昭和58年度	講師 演題	中山伝二郎氏(定9回) フジテレビ ジョン編成局編成部長 「テレビ新紀元」	平成18年度	講師 演題	高島敏明氏(高10回) 「歴史を訪ねてー比企地方と川越の縁」
昭和59年度	講師 演題	井上勝氏(中45・46回) 安田信託銀 行常務取締役 「信託について」	平成19年度	講師 演題	可児一男氏(高7回) 「川越一番街のまちづくり」
昭和60年度	講師 演題	宮崎雅好氏(中42回) 坂戸市長 「21世紀に向かって地方自治の課 題」	平成20年度	講師 演題	橋本信夫氏(高18回) 公立循環器病 センター総長 「川越から京都へ」
昭和61年度	講師 演題	馬場禎造氏(高5回) 建築評論家・新 建築編集長 「現代の社会と建築」	平成21年度	講師 演題	長澤俊英氏(高11回) 「現代アートにおけるアイデアの世界」
昭和62年度	講師 演題	小川瑞穂氏(高2回) 埼玉大学教授 「生物学の進歩と私の研究領域から」	平成22年度	講師 演題	安藤優一郎氏(高35回) 「亀馬を継いだ男 岩崎弥太郎」
昭和63年度	講師 演題	島野昌甫氏(高7回) 日商岩井(株)人事 部長 「貿易摩擦と日本」	平成23年度	講師 演題	川合義明氏(高21回) 川越市長・弁 護士 「地方自治の現場からー地方自治の 現状と課題」
平成元年度	講師 演題	岡村了一氏(中43回) 弁護士 「賄賂考ー疑獄に明けた平成一」	平成24年度	講師 演題	吉野繁氏(高31回) (株)日建設計・設 計部門デザインパートナー 「634(ムサシ)を目指して」
平成2年度	講師 演題	田中隆氏(中45回) 駿河台日本大学 病院教授 「消化器癌の診断と治療、特に最近 の進歩」	平成25年度	講師 演題	加藤衛弘氏(高26回) 筑波大学生命 環境系教授 農学博士 「未来への森林物語ー森を通して社 会的価値観の転換を考える」
平成3年度	講師 演題	佐々木忠一(中32回) 日本大学教授 「現地に見る中東情勢 アラブ対イ スラエル」	平成26年度	講師 演題	滝澤民夫氏(高18回) 早稲田大学講 師等 元・川越高等学校教諭 「川越中学校の建学精神と初代校長・ 増野悦興の生涯」
平成6年度	講師 演題	田中正氏(高6回) あさひ銀行専務取 締役・埼玉業務本部長 「当面の経済情勢について」	平成27年度	講師 演題	根岸秋男氏(高29回) 明治安田生命 社長 「私と生命保険」
平成7年度	講師 演題	関口一郎氏(高5回) 前副知事・埼玉 高速鉄道取締役社長 「埼玉の現状と将来」	平成28年度	講師 演題	梶田隆章氏(高29回) 東京大学特別 栄誉教授 宇宙線研究所 2015年 ノーベル物理学賞受賞 「ニュートリノ 小さな質量の発見」
平成8年度	講師 演題	佐々木典夫氏(高12回) 厚生省社会 援護局長 「社会保護の現状と課題ー少子高齢 社会の福祉政策」	平成29年度	講師 演題	神山典士氏(高31回) ノンフィク ション作家 2014年・「佐村河内 事件報道」で大宅壮一ノンフィク ション賞受賞 「下山の時代を明るく遅く生きる道」
平成9年度	講師 演題	神部勉氏(高10回) 東京大学大学院 理学系研究科・物理専攻教授 「科学の最前線ー宇宙に始まりが あった(ビックバン)ー気象予測はせ いぜい10日間まで(カオス・複雑系 の世界)」	平成30年度	講師 演題	松藤千弥氏(高29回) 東京慈恵医科 大学学長 「私の畏敬する先達ー海軍軍医・高 木兼寛ービタミンの父・海軍カレー の考案者」
平成10年度	講師 演題	藤原正義氏(高7回) 伊藤忠商事株式 会社専務取締役 「日本経済のバブル崩壊とアジアの 経済危機について」	令和元年度	講師 演題	山本浩氏(高24回) 元NHKアナウン サー法政大学スポーツ健康学部教授 「東京に世界がやってくるースポ ーツの2020年を占う」

同窓会秋季散策会の経過（令和元年11月23日現在）

I. 昭和59年度まで同窓会・在京初雁会共催（※昭和55年度は同窓会・在京初雁会・飯能初雁会共催）

昭和45年度	11/1	御嶽山・御嶽神社	33人
昭和46年度	10/3	新河岸川越淡水魚センター（魚釣り大会）	約50人
昭和47年度	6/11	天覧山・能仁寺・名栗川河原	53人
昭和48年度	6/24	秩父神社・長瀬	43人
昭和49年度	10/13	川島遠山記念館	39人
昭和50年度	11/2	白雲山鳥居観音・名栗溪谷	34人
昭和51年度	10/10	森林公園	30人
昭和52年度	10/9	川越市今福山田公園（いも掘り会）	33人
昭和53年度	10/8	川越市内散策（喜多院・東照宮・中院）	45人
昭和54年度	10/21	伊佐沼・善仲寺・本田エアポート	32人 バス（中学45・6回期提供）
※昭和55年度	10/26	高麗神社・聖天院・顔振峠	30人 バス（丸木清美氏提供）
昭和56年度	11/1	石神井公園・歴史資料館・牧野富太郎記念館	32人
昭和57年度	10/31	高尾山・薬王院	37人
昭和58年度	11/6	川越市内散策（山崎美術館・蔵造り資料館・養寿院・大沢家住宅）	42人
昭和59年度	11/25	吉見観音・八丁湖・ポンポン山・百穴	38人 バス（星野誠氏提供）

II. 昭和60年度から63年度まで同窓会・在京初雁会・飯能初雁会・入間初雁会共催

昭和60年度	11/10	金昌寺・秩父まつり会館・武甲酒造・加藤近代美術館	37人 バス（市川宗貞氏提供）（飯能初雁会企画）
昭和61年度	10/26	平林寺	47人
昭和62年度	10/18	堀兼の井戸・三富新田（他福寺・多聞院）	48人 バス（星野誠氏提供）
昭和63年度	10/30	龍隠寺・黒山三滝・埼玉医科大学	57人 バス（市川宗貞氏提供）（飯能初雁会企画）

III. 平成元年から4年まで同窓会・在京初雁会・飯能初雁会・入間初雁会・日高初雁会共催

平成元年度	10/22	さきたま資料館・さきたま古墳群・行田市郷土資料館	51人 バス（市川宗貞氏・星野誠氏提供）
平成2年度	10/21	吉川英治記念館・川合玉堂美術館・小澤酒造・多摩川溪谷	60人 バス（市川宗貞氏・星野誠氏提供）（飯能初雁会企画）
平成3年度	10/20	御嶽山・御嶽神社	62人 バス（市川宗貞氏・星野誠氏提供）（飯能初雁会企画）
平成4年度	10/18	加治丘陵（高正寺・桜山展望台）	63人 バス（星野誠氏提供）（入間初雁会企画）

IV. 平成5年度から各初雁会主催

平成5年度	10/3	日高初雁会主催	巾着田・聖天院・高麗神社 79人 バス（市川宗貞氏・星野誠氏提供）
平成6年度	10/16	坂戸初雁会主催	三清道壇・住吉神社・大智寺 102人 バス（市川宗貞氏・星野誠氏提供）
平成7年度	10/15	志木初雁会主催	長勝院・田子山富士・敷島神社・親水公園 85人
平成8年度	10/27	在京初雁会主催	増上寺・愛宕山・NHK放送博物館 102人
平成9年度	10/19	毛呂山初雁会主催	新しき村・鎌北湖 94人 バス（丸木清美氏・星野誠氏提供）
平成10年度	10/25	川島・桶川初雁会と川越市在住同窓生有志主催	川越城本丸御殿・市立博物館・遠山博物館・あやめ横町・養老院 167人 バス3台（星野誠氏提供）
平成12年度	10/22	所沢初雁会主催	狭山不動尊・金乗院（山口観音）・狭山湖 120人
平成13年度	10/21	在京初雁会主催	旧江戸城巡り（靖国神社・北の丸公園・天主台・富士見櫓・汐見坂・二の丸庭園・大手門） 93人
平成14年度	10/20	和光初雁会主催	和光樹林公園・理化学研究所 98人
平成15年度	10/25	東松山初雁会主催	煎弓稲荷神社・吉見百穴 バス（懇親会場の送迎バス） 110人
平成16年度	10/24	在京初雁会主催	汐留シオサイト・浜離宮陰陽公園 130人
平成17年度	10/9	飯能初雁会主催	旧名栗村方面（白雲山鳥居観音・名栗湖・カヌー工房） バス2台（埼玉医科大学提供）110人
平成18年度	10/29	鶴ヶ島初雁会主催	日光街道杉並木・県立農業大学校 バス（営業バス2台）115人
平成19年度	10/21	狭山初雁会主催	智光山公園 バス（営業バス2台）102人
平成20年度	10/12	坂戸初雁会主催	高麗川ふるさと遊歩道（環境学館いずみ、浅羽ビオトープ、土屋神社）・坂戸文化会館間タクシー分乗 92人
平成21年度	10/4	日高初雁会主催	聖天院・高麗神社 113人
平成22年度	10/9	在京初雁会主催	深川・清澄庭園 105人
平成23年度	10/22	川越初雁会	川越城本殿周辺 120人
平成24年度	10/20	生越初雁会	生越の里山を歩く 73人
平成25年度	10/12	在京初雁会	隅田川・東京湾クルージング 88人参加
平成26年度	11/14	入間初雁会	加治丘陵・武蔵野音楽大学博物館 71人
平成27年度	11/21	飯能初雁会	名栗「川高初雁の森」・吾野宿 65人
平成28年度	11/6	川越初雁会	川越古寺散策 70人
平成29年度	11/12	小川初雁会	小川町国指定遺跡散策 75人
平成30年度	11/18	所沢初雁会	所沢航空記念公園 77人
令和元年度	11/23	志木初雁会	志木駅前関根伸夫モニュメント 70人

編集後記

本誌は、1999年に発行された川高100周年記念誌「くすの木」から20年間の移ろいを中心に編さんしました。製作にあたっては、大きな活字やカラー写真を多用し、見やすさ・読みやすさを心掛けました。

また、本誌では日ごろ同窓会の活動を全力で支えて下さっている各地区初雁会・OB会の紹介や、くすの木祭のまとめ、SSH・川高サイエンス・国際交流など本校事業の紹介のほか、「川高初雁の森」など同窓会の社会貢献事業、「くすのき未来塾」や財団法人の設立など、未来に向けた新事業も掲載しました。

この20年を振り返りますと、新体育館の完成・弓道場の新築、教室へのパソコン設置、OBによる「くすのき講座」開講、文科省「SSH研究開発校」指定、国際交流事業「エンパワーメント・プログラム」の開始、各教室へのエアコン設置などがありました。

明治・大正・昭和・平成・令和と5つの時代にまたがり歴史を重ねてきた本校は、自主自立の精神のもと伝統を重んじ、異文化を積極的に取り込む先進的な学び舎からは、ノーベル賞受賞者をはじめとした多くの優秀な文化人・政財界人・芸術家らを輩出してきました。それは、在校生やOBにとって大変誇らしいことでもあります。本校が今後さらに発展し、成熟度が増していくことに期待で胸が膨らむ思いです。

本誌の編さんにあたっては、原稿や資料・写真の提供など、多岐にわたりOBやPT会・本校関係者の方々のご協力を頂きました。また、出版までに(株)ぎょうせい(株)の榎島隆一様のご尽力を賜りました。皆さまにあらためて感謝申し上げます。
(編集長・大澤誠)

編集委員

原田雅義(旧中45回) 岡部恒雄(高15回) 栗原由郎(高21回) 柿澤日出夫(高22回)
大澤 誠(高26回) 水村英明(高31回) 阿部 宏(教諭) 工藤陽子(教諭)

創立120周年記念誌

令和元年10月30日 印刷
令和元年11月1日 発行

編集
埼玉県立川越高等学校
創立120周年記念誌編集委員会

発行
埼玉県川越市郭町2の6
埼玉県立川越高等学校

印刷
株式会社 ぎょうせい



埼玉県立川越高等学校



埼玉県立川越高等学校